

令和 2 年度 官民の多様な被災者支援主体間の連携促進のための通常研修会 実施報告

1. 実施概要

(1) 目的

災害時における行政・ボランティア・NPO 等の多様な被災者支援主体間の連携・協働の必要性を理解して行動に移せる人材を育成し、地域内で連携・協働体制の構築、活動の活性化を図る。

(2) 実施地域・時期

①開催地域

実施地域	開催時期・会場
徳島県	令和 2 年 10 月 27 日 (火) 10:00~16:30 3 圏域に会場を設置 東部) メイン 県立総合福祉センター 5 階ホール (徳島市中昭和町 1 丁目 2 番地) 南部) 県南部総合県民局美波庁舎 301 会議室 (美波町奥河内字弁才天 17-1) 西部) 県立西部防災館 多目的室 (美馬市美馬町字中鳥)
群馬県	令和 2 年 11 月 17 日 (火) 10:00~16:00 群馬県市町村会館 大研修室 (群馬県前橋市元総社町 335-8)
愛知県	令和 2 年 11 月 24 日 (火) 13:00~17:00 オンライン (ZOOM)
鹿児島県	令和 2 年 12 月 18 日 (金) 13:00~17:00 オンライン (ZOOM)
静岡県	令和 3 年 1 月 27 日 (水) 13:00~17:00 オンライン (ZOOM)
さいたま市	令和 3 年 3 月 18 日 (木) 13:00~17:00 オンライン (ZOOM)

②新型コロナウイルス感染症の影響により中止

岡山県	令和 3 年 1 月 15 日 (金) 10:00~16:00
栃木県	令和 3 年 2 月 9 日 (火) 13:00~17:00

(3) 参加者数

開催地	開催形態	内訳				合計
		行政	社協	NPO等	関係者	
徳島県	実会場（3会場同時）	27	16	24	22	89
群馬県	実会場（1会場）	19	14	49	22	104
愛知県	オンライン	25	13	46	15	99
鹿児島県	オンライン	21	17	9	15	62
静岡県	オンライン	22	25	40	16	103
さいたま市	オンライン・実会場	14	2	43	15	74
		128	87	211	105	531

* 岡山県、栃木県は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

2-1. 災害ボランティア連携・協働研修会

～官民の多様な支援主体の連携・協働に向けて～（徳島県）プログラム

(1) 概要

- ・日時：令和2年10月27日（火）10：00～16：30
- ・会場：県内3圏域に会場を設置
 - 東部）メイン会場 県立総合福祉センター 5階ホール（徳島市中昭和町1丁目2番地）
 - 南部）サテライト会場 県南部総合県民局美波庁舎 301会議室（美波町奥河内字弁才天17-1）
 - 西部）サテライト会場 県立西部防災館 多目的室（美馬市美馬町字中島）
- ・主催：内閣府（防災）
- ・共催：徳島県

1. 開会（10：00～10：10）

中尾 晃史氏（内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当））
徳永 雅彦氏（徳島県 危機管理環境部次長（事前復興・連携担当））

2. 基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性①」（10：10～10：25）

中尾 晃史氏（内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）） 資料1

3. 基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性②」（10：25～10：45）

明城 徹也氏（認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長） 資料2

4. パネルディスカッション

「災害時の多様な主体連携・協働の実例」（10：45～12：00）

【コーディネーター】

山崎 水紀夫氏（さんすい防災研究所 代表）

【パネリスト】

北澤 淳氏（長野県 県民文化部 県民協働課 主査）

山室 秀俊氏（特定非営利活動法人長野県 NPO センター 事務局長）

浦野 愛氏（認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード常務理事）

<昼食・休憩 12：00～13：00 *12：45～質問への回答>

資料3

5. 話題提供「地域における災害時の多様な主体連携の取組状況」（13：00～13：20）

中野 真太郎氏 資料4
（徳島県 危機管理環境部 危機管理政策課 事前復興・連携担当 主任主事）

6. 話題提供「ボランティア活動における新型コロナウイルス感染対策」

（13：20～13：40）

中尾 晃史氏（内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）） 資料5

7. 演習「災害時の多様な主体の相互理解」（13：40～16：20）

【ファシリテーター】

杉村 郁雄氏ほか（日本ファシリテーション協会 災害復興支援室）

【講評】菅 磨志保氏（関西大学 社会安全学部 准教授）

資料6

8. 閉会（16：20～16：30）

2-2. 有識者等コメント

関西大学 社会安全学部 准教授 菅氏

- ・ カードの出し方・熱気が、この3年間に参加している他の会場と比べて活発だった。
- ・ 地域の課題だったが、自分の固有名詞やローカルな話題が多かったように思う。
- ・ 災害が起きると、切れ目なく想定していないことがおこる。
- ・ 2年前の大阪北部地震では被災をした。その中で、ブルーシートや在宅避難と課題がたくさんだったが、外部支援で、ゼロから組み立てされた。
- ・ その場で起こったことに、現場から情報を集めて組み立ててプログラムを作っていく。
- ・ 計画作りとともに、関係づくりが大事。今日の場合を次の展開につなげていければよいと思う。

JVOAD 事務局長 明城氏

- ・ ワークでは色々な付箋が出されたが「NPOに頼む」ということでなく「業者にお願いする」といった最近の話題を踏まえた内容になっていたように思う。
- ・ 「災害は二つと同じ災害はない」とよく言われる。とはいえ、似たような課題は出てくる。
- ・ 起きた所から学べると思う。「二つとない」という理由に地域特性がある。高齢化、中山間地域である等、地域特性は地域で話し合ってみてくることであり、準備ができることは沢山ある。
- ・ 「地元の意向を尊重する」という姿勢でいるが、豪雨災害が起きた熊本で起きたのが「地元の意向は1つではない」という点。
- ・ 準備ができていないと「支援が足りているのか足りていないのか」ということが空中戦で行われる。実際の状況にもとづき、積み上げていく情報の中で、判断ができるようになると思う。
- ・ ワークの中でいろいろな話題が出たが、具体的な協議ができてくれれば良いと思う。

さんすい防災研究所 代表 山崎氏

- ・ 付箋がたくさん出されていた。中身はもちろんだが、立ち上がって話している様子や一人の人だけがはなさず皆で話すということが行われていた。
- ・ 参加者名簿をみると、行政、社会福祉協議会、NPO、防災士、青年会議所などが参加さんかされている。被災地で感じる多様な価値観を見ることができた。
- ・ 行政は責任論になりがち。大切なのは、「100%の主張はしない」ということ。異なる価値観はぶつかっていくため、80%でとどめることが大事。研修等を利用して、協働力を培っていただきたい。

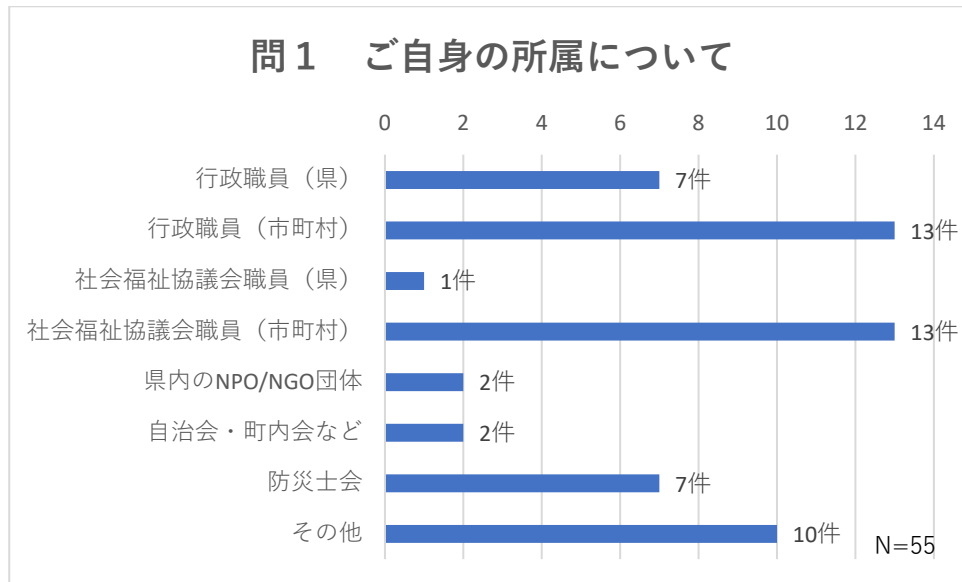
内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）中尾氏

- ・ ワークショップの熱い議論に感動した。災害の時は、各所属の中で情報を収集し、困りごとを出していく。多様な分野の方があつまっていく。
- ・ 創造の世界でだれが何をやる、ということを行った。実際は、これができるけど、これはできない。
- ・ 本日のように、これできないのか、というやり取りをしていただく。本当に行政・自衛隊ができるのかはわからないままであった。今日をきっかけに、地元で話し合いを進めていただきたい。
- ・ 内閣府はきっかけづくり。話し合いを進めていくと、できることできないことが分かってくる。ホットラインができあがっていく。災害時に活かされる関係ができていく。
- ・ ここから、連携をつなげて、いざ災害が起きた時はつながりを活かしていただきたい。

以上

2-3. 徳島県 参加者アンケート 集計結果

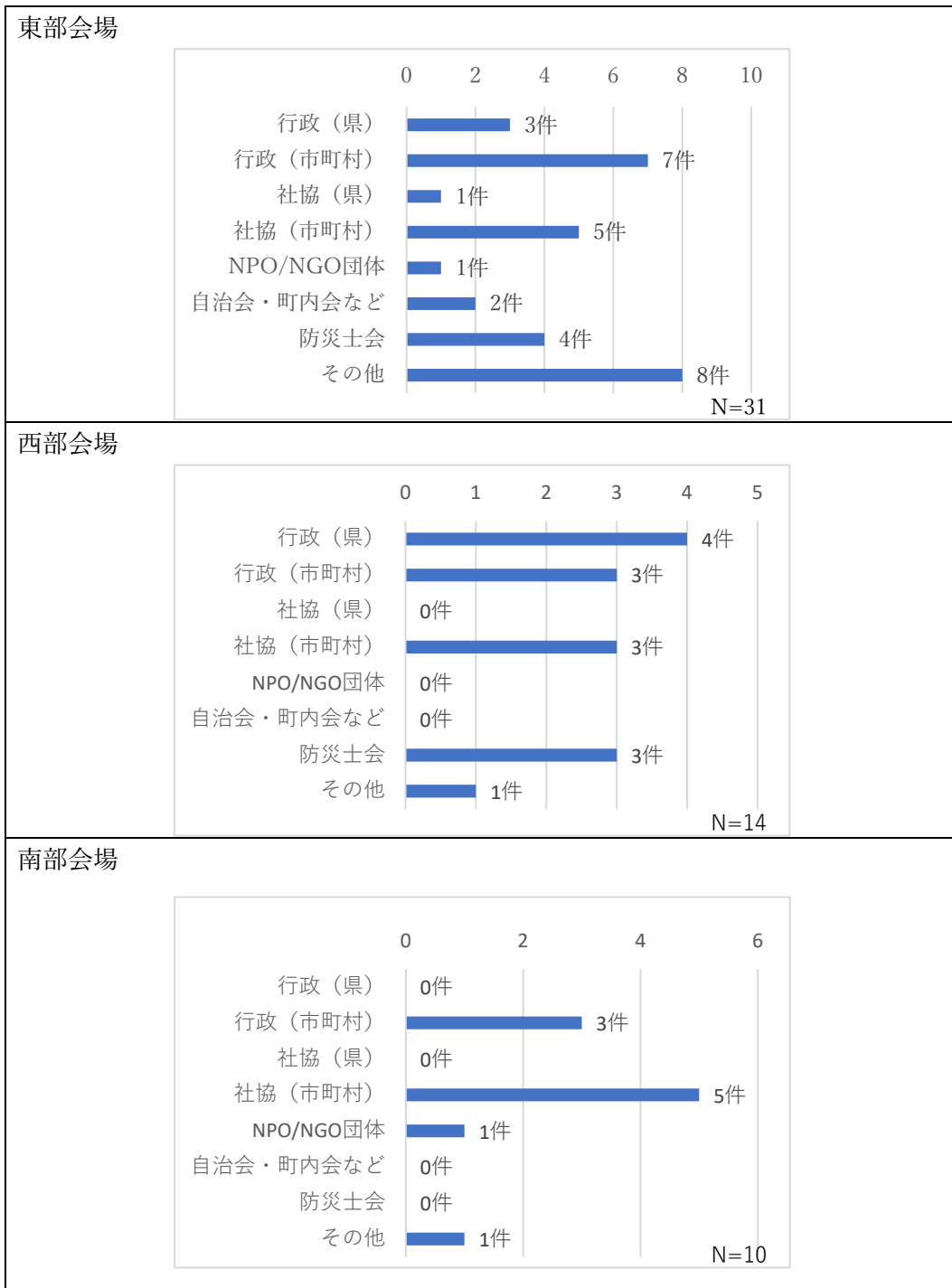
問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。(複数回答可)



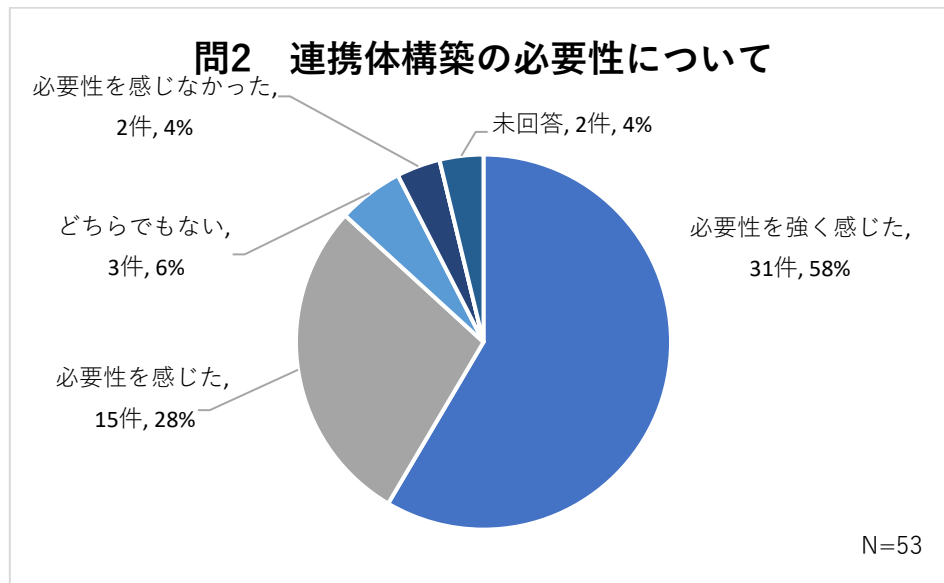
問1 所属について	件数	割合(%)
行政職員（市町村）	13	24
社会福祉協議会職員（市町村）	13	24
行政職員（県）	7	13
防災士会	7	13
県内のNPO/NGO団体	2	4
自治会・町内会など	2	4
社会福祉協議会職員（県）	1	2
その他	10	18

「行政職員（市町村）/13件」「社会福祉協議会職員（市町村）/13件」がそれぞれ24%であり併せて48%、全体の5割弱が市町村からの参加であった。「行政職員（県）/7件」と「防災士会/7件」がそれぞれ13%、「県内のNPO/NGO団体/2件」と「自治会・町内会など/2件」がそれぞれ4%、「社会福祉協議会職員（県）/1件」が2%であった。また「その他/10件」が18%であり、弁護士会、大学関係者、労働組合等と回答があった。

◆各会場の内訳



問2 本日の研修はいかがでしたか。行政・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じたか。

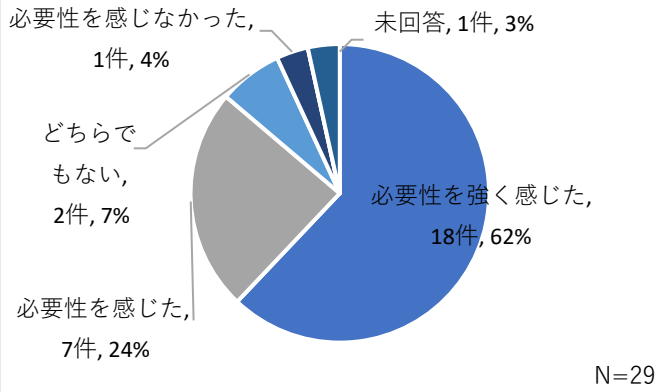


問2 構築または強化する必要性	件数	割合 (%)
必要性を強く感じた	31	58
必要性を感じた	15	28
どちらとも言えない	3	6
必要性を感じなかった	2	4
必要性を全く感じなかった	0	0
未回答	2	4

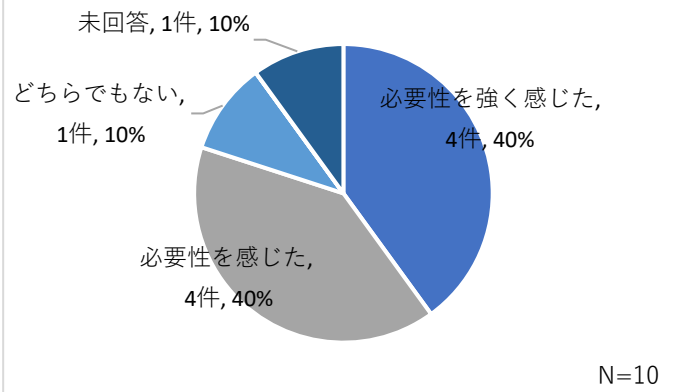
「必要性を強く感じた/31件」58%、「必要性を感じた/15件」28%と併せて86%が、連携体の構築・強化の必要性を感じているという回答であった。

◆各会場の内訳

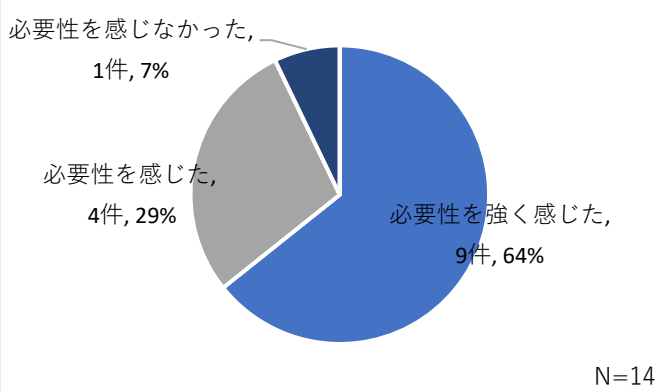
東部会場



南部会場



西部会場



問 3 研修内容を踏まえ、今後取り組むべきと考える事項をご記入ください。(自由回答)

【平時からの連携が大切】

- ・ 日頃からの地域との関係性をさらに強化していく。
- ・ 災害に備えて、「受援」について考える必要性を強く感じた。ボランティアを受け入れることについて、様々な団体や個人でのボランティアなど、事前に検討しておくことが必要。また「情報の共有」について、今後の課題であると感じた。
- ・ 平時から連携体でのイベント等を多く開き、親睦を深めておくべき。
- ・ 情報共有会議の必要性を感じました。関わる団体などとの連携が平時から必要であると思います。
- ・ 災害発生後、速やかに被災者支援活動を行うために、平時から様々な機関と連携を図る必要があると感じた。災害の規模によっては、連携の圏域も大きくなることから、県が主体的にその連携の構築に取り組んでいただきたい。
- ・ 徳島県には、情報を収納し、適切に役割分担し、一体感をもって効果的、効率的な取り組みにつながるプラットフォームは用意されている。「災 V 連絡会」の活用が重要であると思う。またコロナ禍にあることもふまえ、IT（クラウドサービス等）の導入が急務と考える。他（多）機関協働とともに、各団体内の連携も重要である。日頃から、担当部署だけでなく、横断的な参画が必要。
- ・ 役場庁舎内、町社協との連携強化。
- ・ 具体例をもった提携の必要性。
- ・ 取り組むべきことは多くありますが、連携の必要性ということで情報共有会議設置について考えていきたいです。
- ・ 災害からの早期復旧・復興には災害ボランティアの存在はかせないと感じた。平時から関係部署間の連携を密にできるよう、定期的な研修の必要性を考えたい。
- ・ 県内だけではなく、四国4県、関西広域での連携が必要と思う。
- ・ NPO が現地で長期的に活動を続けるために、資金面でのサポートが必要と思う。

【体制、関係づくりが大切】

- ・ 協働できること、中間支援団体とのつながりを構築していく。防災担当だが、中間支援のことは知らなかった。
- ・ 各部門で情報共有会議のメンバーを検討し、発災時に即分野事で協議し、問題・課題について解決できる体制作りが必要だと思いました。
- ・ 被災前から災害情報会議の体制と運営が各市町村レベルで実践できるような取り組みを進めていきたい。またその会議の中で、当団体がどこの部分に貢献できるか準備していきたいと思いました。
- ・ 市担当部署との協議（地域、NPO、JC 等との連携にむけて）。

【研修に対するご意見】

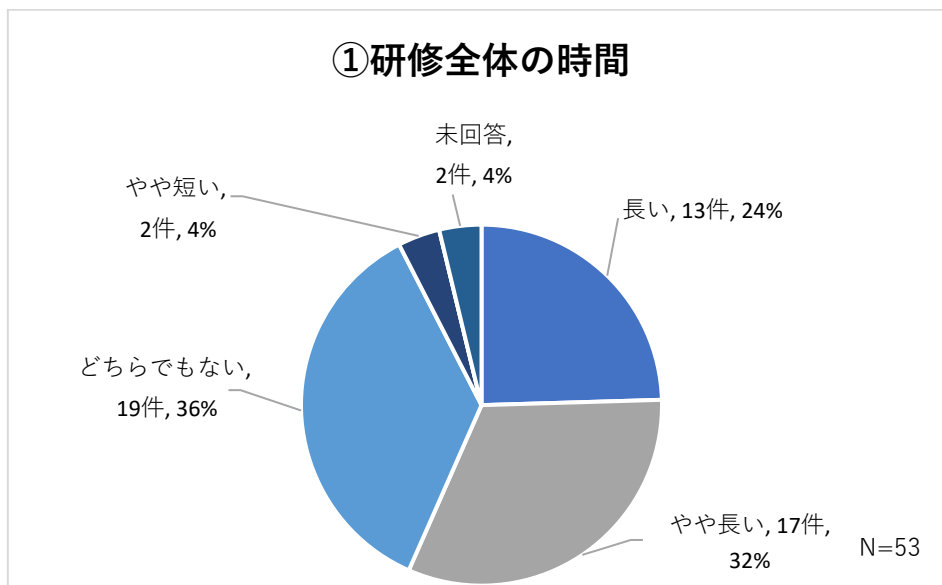
- ・ 情報共有会議について、もう少し詳しく教えていただきたいです。
- ・ 徳島県内での災害時における各団体の協力のあり方、何が出来るのか、何をすべきかを、災害時を想定して確認をしておくべきであるとする。他県の災害報告、行政等の説明も良いと思うが、今後すぐに活動できるような研修会であってほしい。
- ・ 午前の部、休憩もなく最悪。時間が押すのは想定済みではないの？ 進行が悪すぎです。長すぎてとても疲れた。聞くばかりで…。それもよく分からないしゃべり方で最悪。スタッフが多い割にバタバタ感がありすぎ。空調はあるというものの、窓もない部屋はイヤだった。県の主催なのに考えられない。1時間に1度は換気、休憩してほしい。(もう少しリモート会議？の精度上げてください)。
- ・ 管理職レベルの研修も必要。指導監督する者がボランティアについての理解がないと、活用がうまく行かないのでは。
- ・ 大規模災害の発生を想定し、関係者による顔合わせを兼ねた訓練を実施した方がよいと考えます。

【その他】

- ・ 色々と聞き、今後は心を引き締めて、今回の講義を生かします。
- ・ 私は教育委員会で学校・家庭・地域連携の担当をしています。今、地域で子どもを育てることに関わる事業の推進をしていますが、いざ災害がおこったときも、そんな地域の力はすごい力を発揮すると思います。今行われている事業に災害時、想定外の視点も加え、しなやかで、たくましい地域活動を推進したいと感じました。
- ・ 自分の住んでいる上板町において、ボランティアセンターの研修内容。行政、社協、ボランティア等の研修会を実施してほしいと、帰って問題提起してみたい。
- ・ 個人の情報を市町村、市町村社協より聞きながら、取り組みしてほしい。移動できない人、移動できても、そこで生活できない人もいるので、考えていくべき。
- ・ 個々の住民の防災意識がまだまだ低い(一部の人は認識が高いが)。なので、今後もその意識の向上に向けた取り組みが必要。防災については公助を求める声はまだ大きい。
- ・ コロナ対策。官民協働。情報を共有し、行動に移すことの難しさ。
- ・ 市役所等地域住民に近い行政組織に対する負担を軽減する事を考えないと、職員の負担がとてつもなく大きい。
- ・ 徳島県の間支援組織を構築すべき。現在ある組織を昇華してもいいのではないか。
- ・ ボランティアへの費用弁償できないか。ボランティア団体への応援とサポート依頼。

問4 研修会の運営についてお聞かせください。

研修全体の時間は適切でしたか。

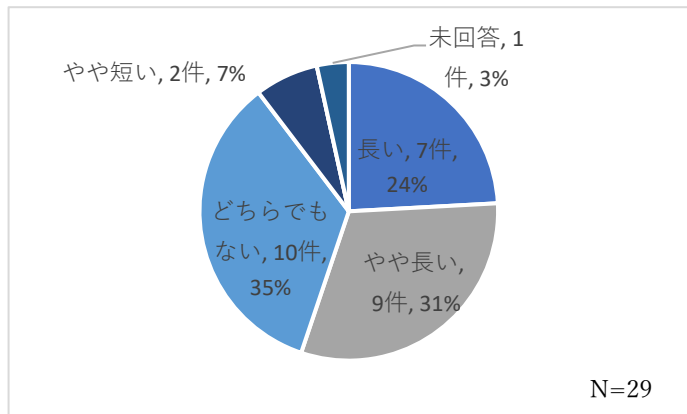


①研修全体の時間	件数	割合(%)
長い	13	25
やや長い	17	32
どちらでもない	19	36
やや短い	2	4
短い	0	0
未回答	2	4

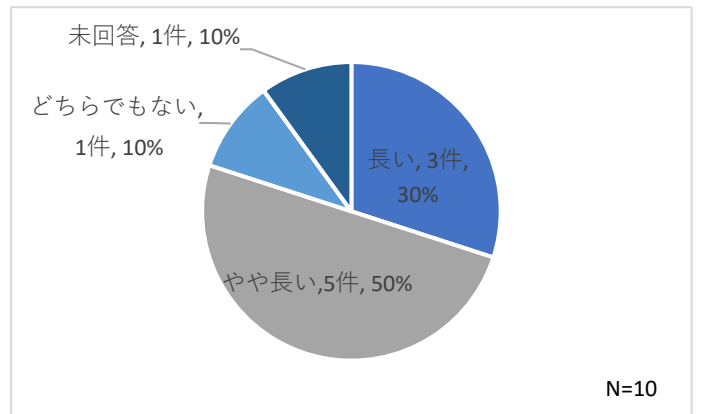
「どちらでもない/19件」の回答が36%と一番多い回答であった。「長い/13件」25%、「やや長い/17件」32%と回答したのが57%であった。また、「短い/0件」0%、「やや短い/2件」4%の回答となった。「未回答/2件」は4%であった。

◆各会場の内訳

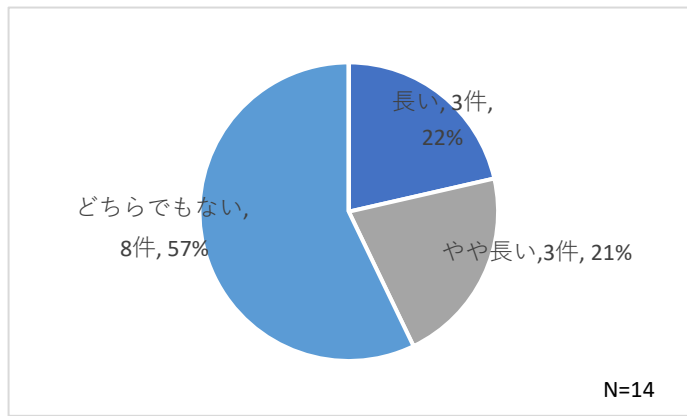
東部会場



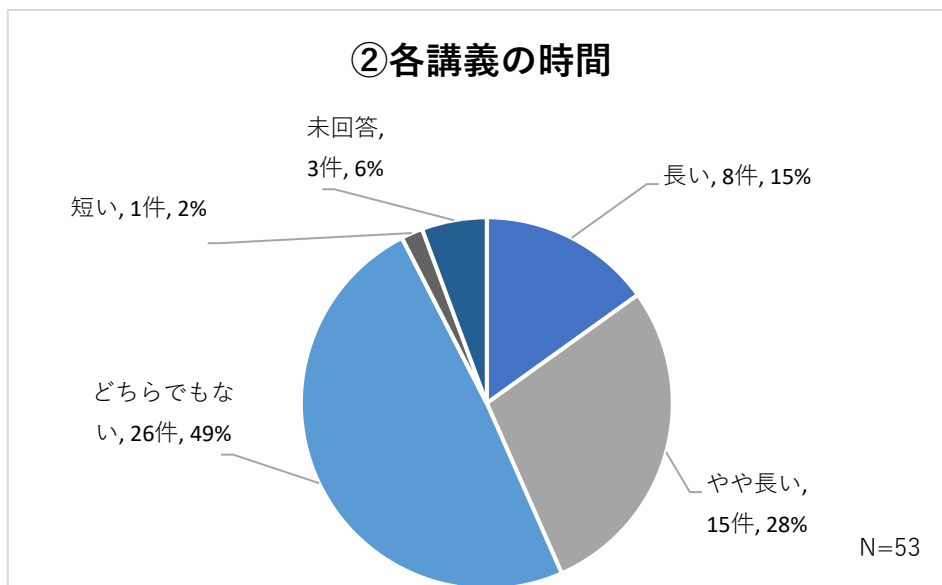
南部会場



西部会場



各講義の時間は適切でしたか。

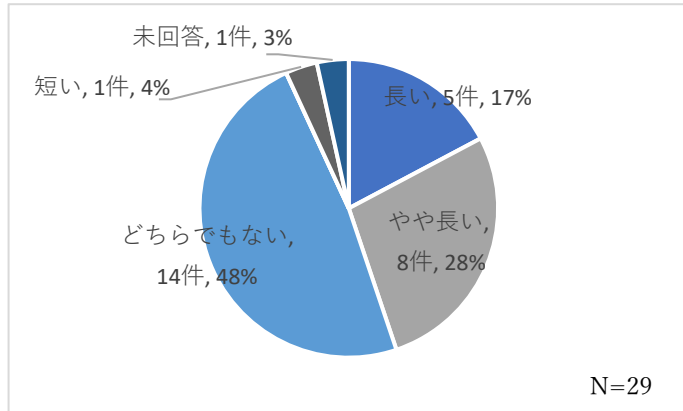


②各講義の時間	件数	割合(%)
長い	8	15
やや長い	15	28
どちらでもない	26	49
やや短い	0	0
短い	1	2
未回答	3	6

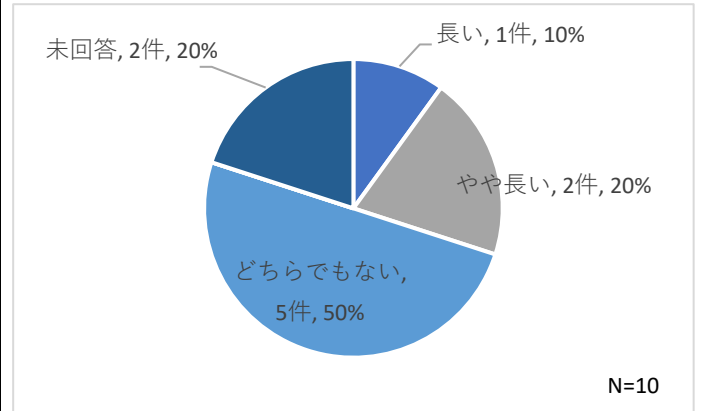
「どちらでもない/26件」の回答が49%と一番多い回答であった。「長い/8件」15%、「やや長い/15件」28%と回答したのが43%であった。また、「短い/1件」2%、「やや短い/0件」0%の回答となった。「未回答/3件」は6%であった。

◆各会場の内訳

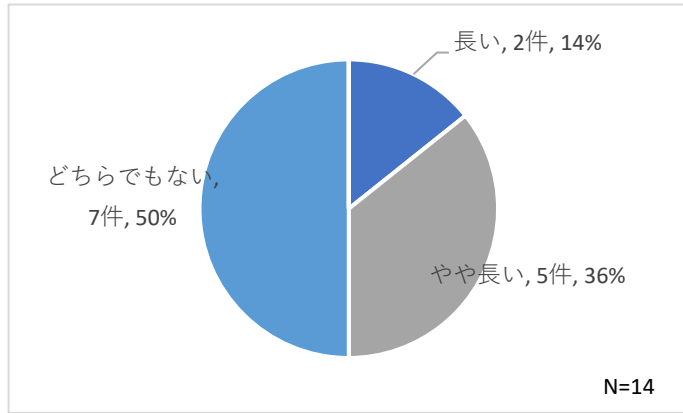
東部会場



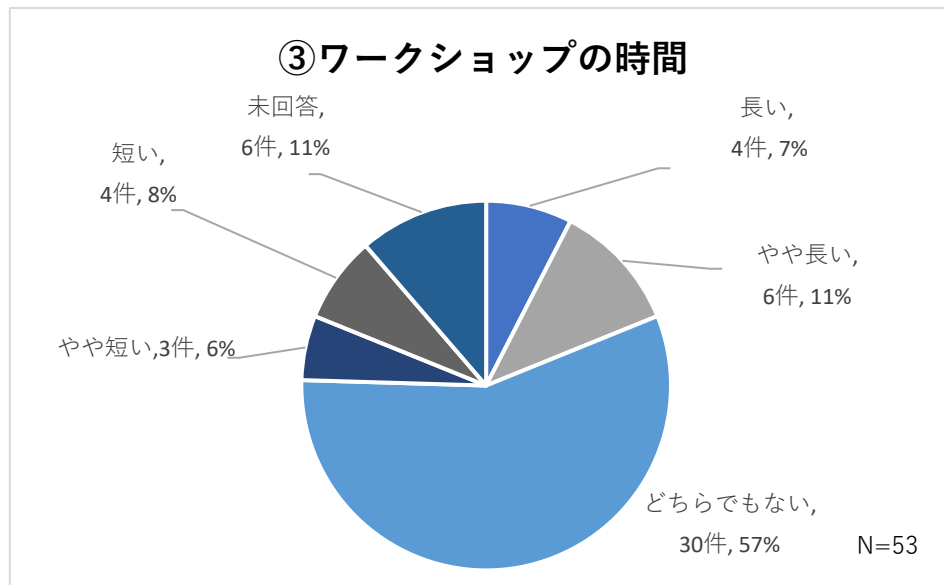
南部会場



西部会場



ワークショップの時間は適切でしたか。

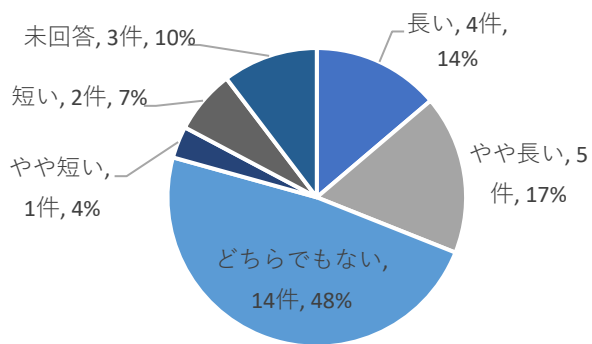


③ワークショップの時間	件数	割合(%)
長い	4	8
やや長い	6	11
どちらでもない	30	57
やや短い	3	6
短い	4	8
未回答	6	11

「どちらでもない/30件」の回答が57%一番多い回答であった。「長い/4件」8%、「やや長い/6件」11%と回答したのが19%であった。また「短い/4件」8%、「やや短い/3件」6%の回答が14%となった。「未回答/6件」は11%であった。

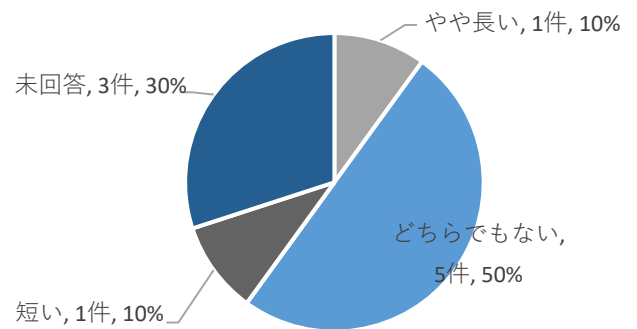
◆各会場の内訳

東部会場



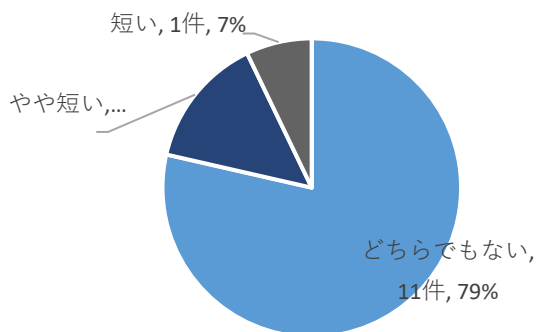
N=29

南部会場



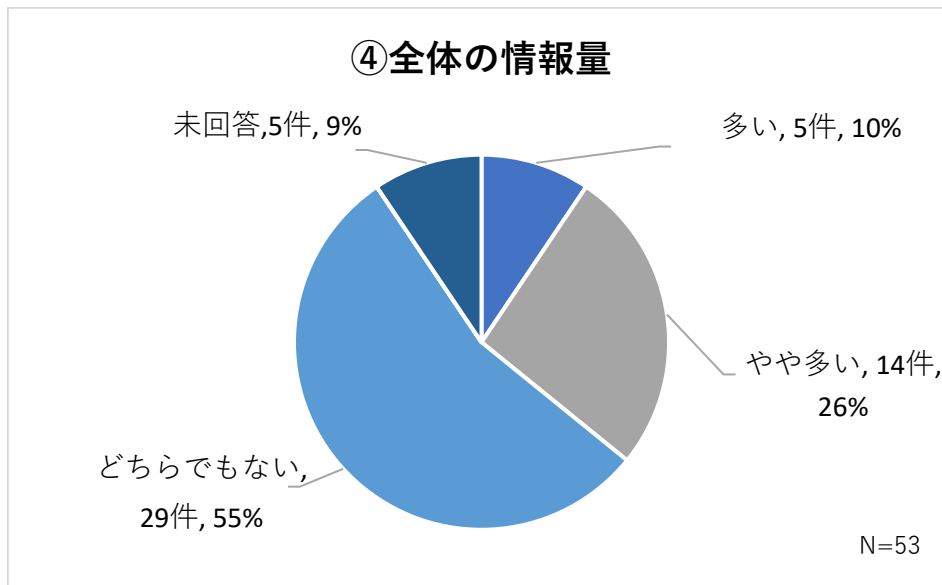
N=10

西部会場



N=14

全体の情報量は適切でしたか。

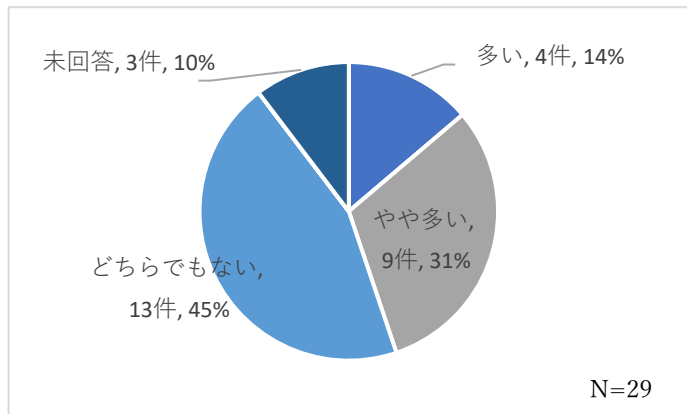


④全体の情報量	件数	割合(%)
多い	5	9
やや多い	14	26
どちらでもない	29	55
やや少ない	0	0
少ない	0	0
未回答	5	9

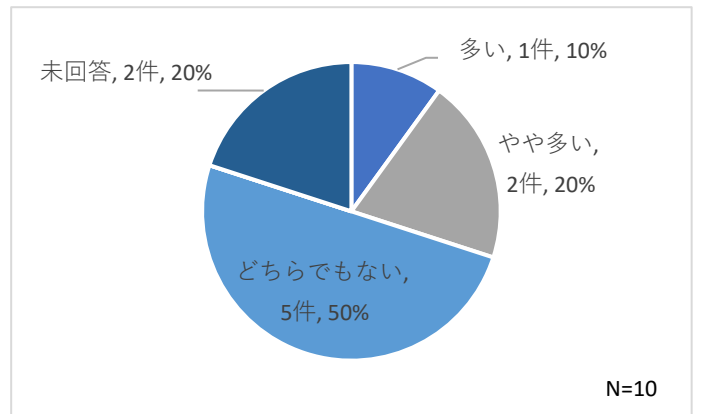
「どちらでもない/29件」の回答が55%であった。「多い/5件」9%、「やや多い/14件」26%と回答がしたのが35%であった。また、「少ない/0件」「やや少ない/1件」は共に0%の回答となった。「未回答/5件」は9%であった。

◆各会場の内訳

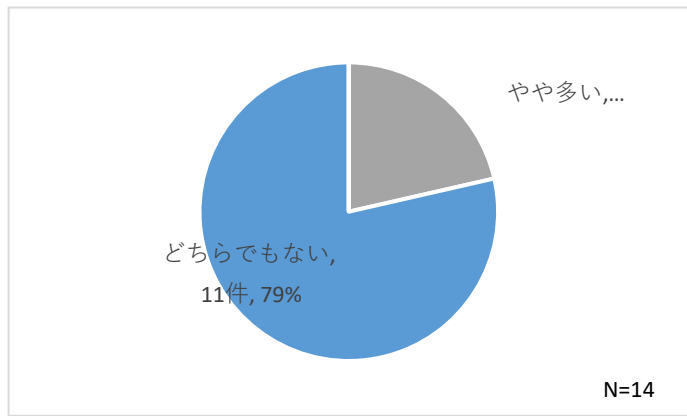
東部会場



南部会場

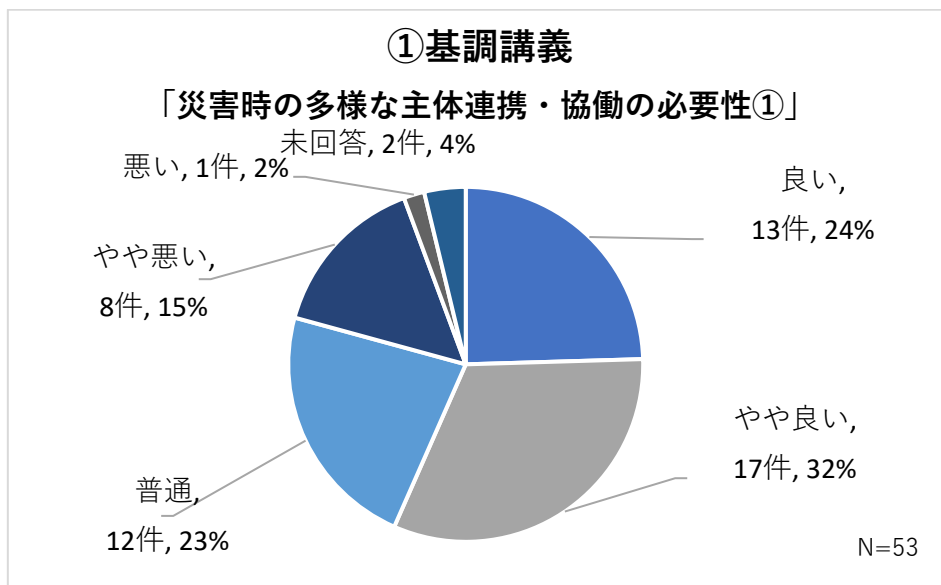


西部会場



問 5 研修内容、それぞれの項目について5段階（5が最高評価）で評価し、その理由もお聞かせください。

① 基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性①」



①基調講義	件数	割合(%)
良い	13	25
やや良い	17	32
普通	12	23
やや悪い	8	15
悪い	1	2
未回答	2	4

◆主な理由

【良い】

- ・ 困っている状況を協働して、解決することが大切である。災害にあい、心と体の健康状況のチェック・把握、安心・安全な場所の提供はニーズがあると思う。いかに協働、行動をおこすことが必要。
- ・ 複雑なスキームを分かりやすく整理してくれていた。
- ・ 災害弱者と平時から顔の見える付き合いが必要。
- ・ 連携・協働の必要性が事例を通じてよく理解できた。

【やや良い】

- ・ 中間支援組織の必要性が理解できた。
- ・ ボランティアの活動内容の多さなど、必要性が理解できた。
- ・ 行政のみでの災害復旧・復興は不可能である。災害時、最も必要なマンパワー確保の備えの必要性を感じた。
- ・ 被災者、ボランティアの費用補助が必要。国、県、市町村のバックアップ。

- ・ ONE NAGANO のマネではないが、県内の行政、学校、NPO、生協、新聞配達所、創価学会などの多様な団体が協働することが大切だと思えた。

【普通】

- ・ とても良い内容でしたが、スケジュールの都合でしょうか、時間が短すぎる印象です。国の動向等を織り交ぜながら、もっと掘り下げて聴講したかったです。
- ・ 政府の代表から話をしてもらい良かった。災害は必ず発生して、様々な取り組みを思うが、課題は必ず発生。その課題を解決するために、様々なことをしているのだなと思った。
- ・ 全体の概要はなんとか理解できたかと思いますが、大まかで時間も少しだったので（長く話してほしいというわけではなく）③かな？と思いました。
- ・ レーザーポインタは他会場からは見えないので、PC 上でポインタを使うべき。

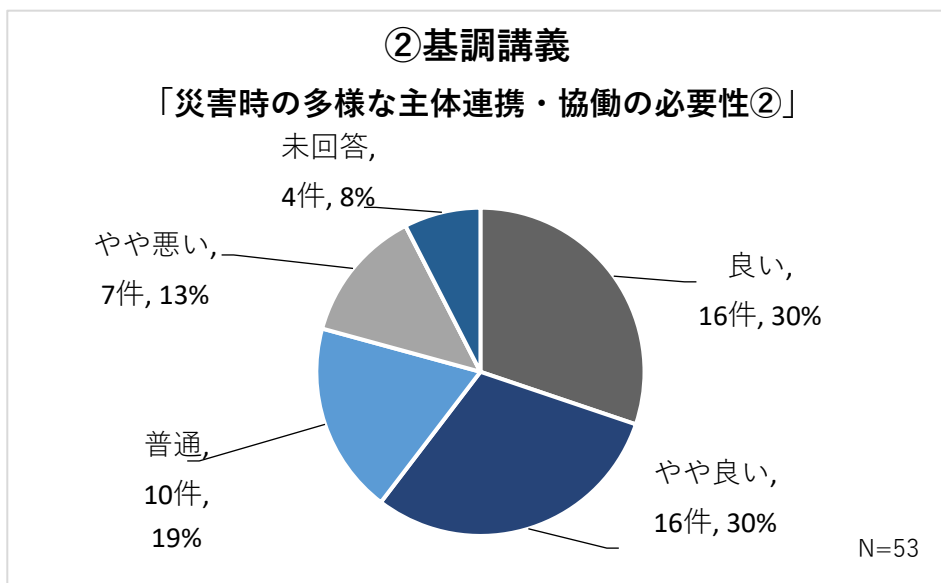
【やや悪い】

- ・ 参事官の方には、この徳島に必要な政策であったり、目標を語っていただき良かったと思います。災害事例は他の方でもよかったのではないのでしょうか。
- ・ 常日頃からの情報交換などやってほしいと思います。立場での役割を話し合っていてほしいと思います。
- ・ 一般論を聞いても役に立たない。
- ・ 研修の時間は限られているので、話す内容を簡潔にまとめていただきたい。全体の研修時間が予定通りに進行されなかったことは不満に思う。

【悪い】

- ・ 話が長い

基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性②」



② 基調講義	件数	割合 (%)
良い	16	30
やや良い	16	30
普通	10	19
やや悪い	7	13
悪い	0	0
未回答	4	8

◆主な理由

【良い】

- ・ 中間支援組織について、勉強不足だったので、知ることができた。
- ・ お互いのリスペクトが重要だと感じた。
- ・ 困りごとを把握、生活環境改善が必要。
- ・ 「JVOAD」というのも初めて知りました。中間支援というのが大事なんだと理解できました。調整役というのは、とてもディープな役割ですね。行政だけではまかなえないことも多いのかと…。ボランティアの中にも個人・企業・NPO等々たくさんある…というのが現実！納得！
- ・ 全体像がよく理解できた。
- ・ なぜ連携、協働しなければならないのか知れた為。
- ・ 連携・協働の必要性が事例を通じてよく理解できた。
- ・ 支援団体の県域、地域ネットワークが重要。情報共有会議による参画。

【やや良い】

- ・ 実例を交えながら、とても参考になりました。
- ・ 近年の災害における JVOAD の動きが良く分かった。
- ・ 情報共有会議の重要性を再認識させられた。

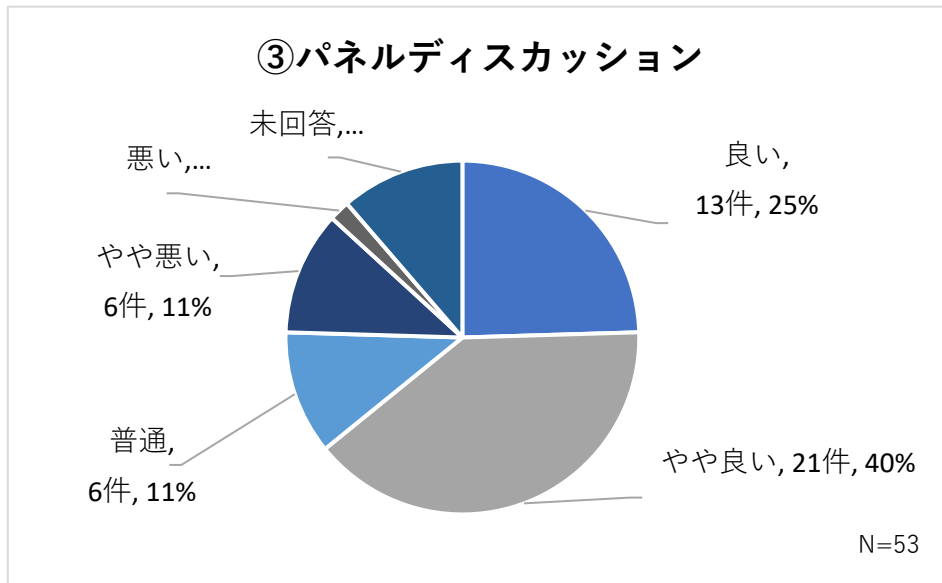
【普通】

- ・ 官民が一体となって、災害時は行動することが必要。情報を共有し、行動に移す。これは非常に難しいこと。

【やや悪い】

- ・ JVOAD 事務局長からは、災害現場でのこんな事で困った事例や、その時におこった問題点等を共有していただきたかった。
- ・ 一般論を聞いても役に立たない。
- ・ 事例発表が多く、重要なポイントがわからなかった

パネルディスカッション「災害時の多様な主体連携・協働の実例」



③パネルディスカッション	件数	割合(%)
良い	13	25
やや良い	21	40
普通	6	11
やや悪い	6	11
悪い	1	2
未回答	6	11

◆主な理由

【良い】

- ・ 穴水町の事例が興味深かった。
- ・ 音声のとぎれたのが残念だった。体験からは、学ぶことが多い。行政間の連携はどうすれば取れるのか…。
- ・ 途中、音声を通らないトラブルが残念です。コーディネーター、パネリスト、それぞれ異なる立場、視点からのお話でとても参考になりました。
- ・ 連携が大切だと思う。
- ・ 顔のみえる関係づくりは大切だと分かっているものの、事例を通したお話を聞いてより現実的に感じました。

【やや良い】

- ・ 市町村単位の話でイメージが付きやすい。
- ・ 社会福祉協議会からの参加も欲しかった。実践事例は参考になった。各主体の専門領域と横出し支援（上乘せ支援）を相互に良く理解し合う事が大切と感じた。
- ・ 実際の事例の話をしてもらい良かった。災害時に経験したことを、実際に話をしてくれることは心に響く。官民協働の必要性。

- ・ 長野県の素晴らしい事例を裏話もふくめて各立場から話していただいたのでイメージがよくわいた。
- ・ 長野県の取り組みの裏で、様々な問題や苦労したことがあったことがよく分かった。浦野さんの取り組みは改めて被災された方にとっての支援はどうあるべきかということを考えさせられた。
- ・ 長野県の災害について、行政がとった行動を細かく知れた。
- ・ 浦野さんの住民主体の考え方。NPOの方でそこを大切にされているような団体と連携したいですね。
- ・ 組織が悩んでいる部分と同じように思えた。南海トラフ大地震が発生すれば同じ事が徳島に起こるので事前準備する意志が高まった為。
- ・ 各種団体の経験、知識等、ノウハウを活用。

【普通】

- ・ 音声状況が悪かった。
- ・ 事例紹介はよかったが、ディスカッションが少なかった。

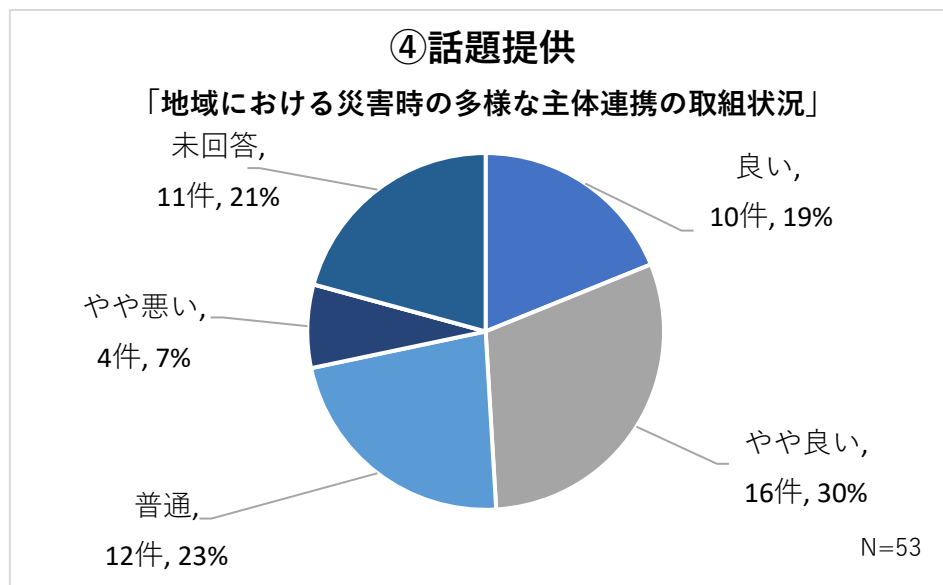
【やや悪い】

- ・ 報告的な話で、課題等については行政同士で話し合っていた方がよいかと。
- ・ 長野の事例を聞いただけでは意味がない。あてはまらない。長野の事例から徳島における課題は何かといったところが知りたい。
- ・ トラブルが多かった。聞こえづらいことがあった。
- ・ 時間がオーバーした点はダメだと思う。コーディネーターのミス。多くが事例発表にウエイトを占めていたのが残念だった。

【悪い】

- ・ 何もパネルディスカッションじゃない。音声は途切れるし、集中できない。雑談なんかいらない。ただでさえマスクをしているので声は聞きづらい。ハッキリしゃべっていただかないと中身が良く分からない。長すぎて疲れた。

話題提供「地域における災害時の多様な主体連携の取組状況」



④話題提供	件数	割合(%)
良い	10	19
やや良い	16	30
普通	12	23
やや悪い	4	8
悪い	0	0
未回答	11	21

◆主な理由

【良い】

- ・ 地元のたてのつながりでなく、横のつながりが必要。
- ・ 自分が住み暮らすまちの取り組みや問題、これからについて詳しく聞けた為。
- ・ 徳島県の取り組みが非常に良く分かりました。
- ・ 何がポイントか分かりやすかった。資料の工夫もされていた。

【やや良い】

- ・ 徳島県の取り組みの概要をわかりやすく聞くことができました。
- ・ 各組織の考え方がある程度理解できた。
- ・ 「情報共有会議」の必要性が今後の課題であると感じた。

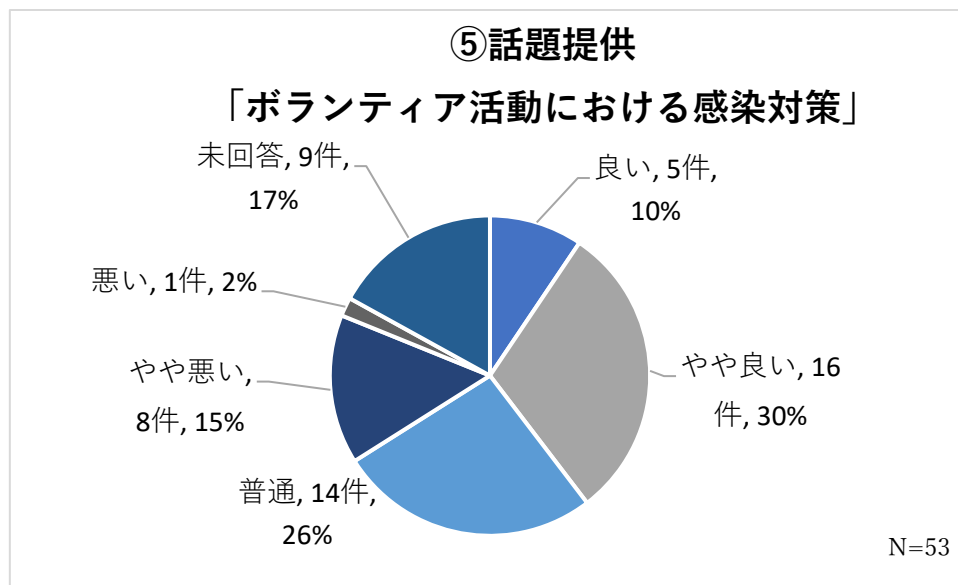
【普通】

- ・ 資料がなくて書き取れなかった。
- ・ 県全体の取り組みの説明が多くて、ちょっと残念だった。

【やや悪い】

- ・ スライドはきれいだったので、配布資料が全部なかったのが残念でした。
- ・ 各担当等との調整がものすごく必要なのは理解した。

話題提供「地域における災害時の多様な主体連携の取組状況」



⑤話題提供	件数	割合(%)
良い	5	9
やや良い	16	30
普通	14	26
やや悪い	8	15
悪い	1	2
未回答	9	17

◆主な理由

【良い】

- ・ 新型コロナウイルスへの対策をしながらのボランティア活動の困難さが事例を通じてよく理解できた。

【やや良い】

- ・ 「担当部局だけでなく、同組織内での連携が大切」本当にその通りだと思う。コロナ禍の今こそ、ITの導入が必要。
- ・ 具体例が最新のものであったり、国の施策を織り交ぜたりしていただき、より理解が深まった。
- ・ コロナウイルスに対してボランティアがする対策を学べた。
- ・ 災害時のそれぞれの所属による活動内容や考え方がわかり、今後の取り組みにつながると感じた。
- ・ 従前にはない対応が必要。三密回避対策。

【普通】

- ・ 行政間の風通しや顔の見える関係づくりは、管理職の研修で行うとよいのではないかと思った。コロナ対策も、もっと知りたかった。

- ・ 熊本県での大雨災害の事例は非常に難しい問題である。平時から協議を進め備えたい。
- ・ 少し前置きが長い。

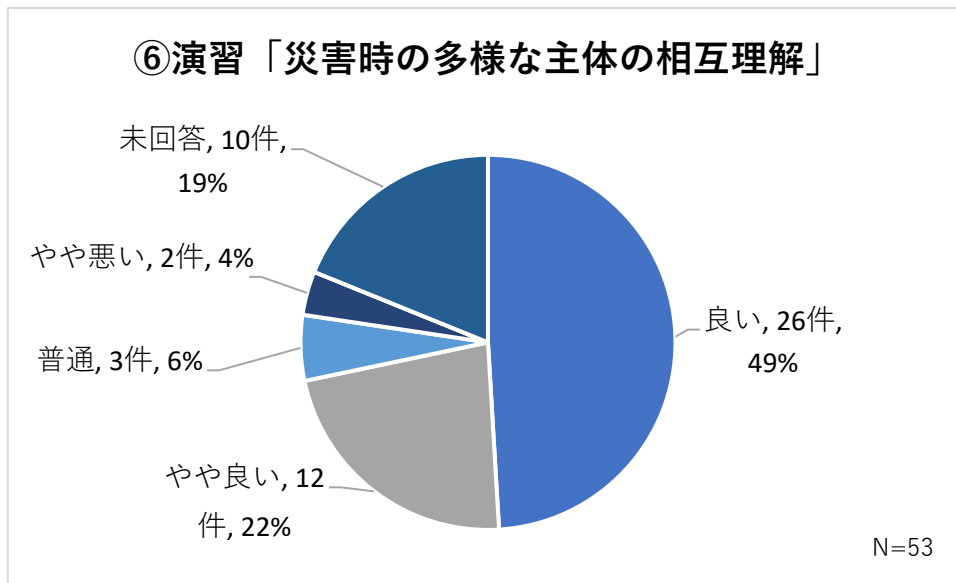
【やや悪い】

- ・ あまり検討できなかった。
- ・ 演題と内容がズレている。新型コロナ対策についてもっと時間をかけて説明していただきたいかった。
- ・ 不特定多数を受け入れる難しさ。被災者の理解があるのか。
- ・ 話す内容が全体的に似ていた為。

【悪い】

- ・ 話が長い。

演習「災害時の多様な主体の相互理解」



⑤話題提供	件数	割合(%)
良い	26	49
やや良い	12	23
普通	3	6
やや悪い	2	4
悪い	0	0
未回答	10	19

◆主な理由

【良い】

- ・ いろいろな団体の方々とお話する機会になり、今後につながると思いました。
- ・ とても考えさせられるワークショップでした。現実に関心しなければならぬ場合に、対応できるように勉強しなければならぬと感じさせられました。
- ・ 2つと同じ災害がないが、よく似た災害があると思う。地域に応じた準備が必要。
- ・ いろいろな視点が発見できてよかったです。
- ・ 地域も違う、職も違う方の意見も聞け、かなりよいものができ、楽しく出来ました。大変勉強になりました。連携ということで、情報共有会議について、設置の必要性を感じたので、もう少し深く学びたいです。
- ・ 具体的な地元、ブロックの関係者と実践的な話が共有でき、非常に有意義であった。
- ・ 各々の組織が抱えている問題や現在行っている取り組みを知れました。またグループディスカッションにする事で自然と会話につながり、コミュニケーションも取れたと思いました。
- ・ 発災時の問題とその解決方法について討議できたことは非常に有意義でした。
- ・ 各主体の考え（意見）が掲がっているが、行政の役割の負担が多い。

【やや良い】

- ・ 若い人の考えを聞く事が出来て良かった。

- ・ 様々な業種の視点からグループワークができた。
- ・ ワークを通じて、災害時の連携を考えた時に、意見が出された部分については強みとして、意見が出にくかった部分については弱みとして、今後の連携をどのように進めていけばよいのかという参考になった。
- ・ 社協と行政の職員だけだったので、多様な話題にならなかった。

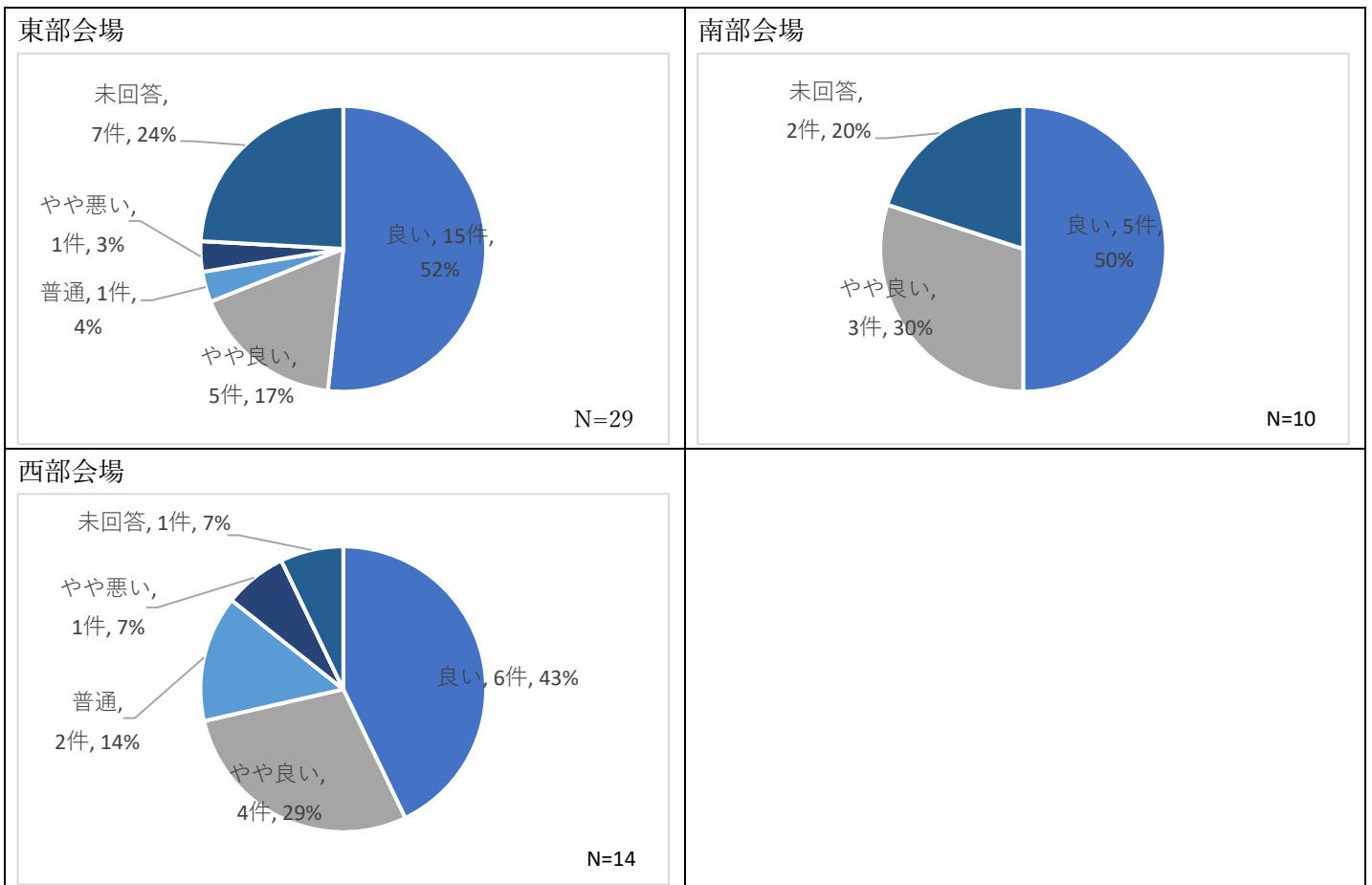
【普通】

- ・ 答えはないと思うが、明らかな間違いも否定できない。演習結果をフィードバックしてほしい。

【やや悪い】

- ・ 時間が足りなかった。もっと話し合いをしたかったです。

◆各会場の内訳



問6 全体のプログラムを通じ、ご意見・ご感想等お聞かせください。

◆東部会場

- ・ 他の市町村、団体の方々と話ができる場面があるのは良いと思う。
- ・ 地域には、いろいろな企業や行政があり、地域の力を向上させるために、古き良き時代の仕組みを今の時代に合わせて作りたい。今ある文科省の学校と地域の連携・協働をこれからもしっかりと推進し、地域コーディネーターを養成、育成していくことは必要なことだと再認識した。
- ・ プログラムが多く、充実した反面、話の焦点がどこなのか少し気になった。協働の必要性は理解できたが、それをどう形にするのか、そこをもっと教えていただきたいかった。
- ・ 今回の研修は、私自身に大変身につくことができました。今回の初めての1歩から様々な人々と協働した活動を起こしたいと思います。

◆南部会場

- ・ 南海トラフ地震の際、災害ボランティアがあてにできるのか知りたい。広域災害が発生したとき、特に県南において、他県からのボランティアは確保できないのでは？ どの県がどの県を支援するというのをボランティアレベルでも決めておくべきでは。
- ・ 盛りだくさんの内容ありがとうございました。ぜひ行政、支援団体の方との参加があり、一緒に共有したかったです。
- ・ 次回は各ブロックでの災害情報会議の体制と運営について学び、具体的に取り組みをはじめる研修会を県等が主導で開催してもらいたいです。今回の各ブロック会場で出会いと機運が高まったので、1回で終わらず、継続的な支援が不可欠ですので、是非ともお願いします。後、県民局からの参加者がゼロなのは県として問題だと思うので、次回は参加をお願いします。
- ・ 会場が分散されているため、参加者が少なく、残念だった。もっと多くのいろいろな立場の方と話し合うことができたらなおよかった。このような研修は定期的で開催していただけると災害時のよりよい連携につながると思う。

◆西部会場

- ・ ぜひ訓練を実施してほしい
- ・ 連携体の大切さは良く分かりました。運営等ありがとうございました。
- ・ 研修会に参加して、改めて多様な支援主体の連携の必要性が確認できました。内容が多くて、1日で終わるのは物足りない感もしました。サテライトだったので、聞こえづらいことなどありましたが、準備していただいた方に感謝します。今日いただいた情報を地元で反映できるように頑張りたいと思います。

以上

3-1. 災害ボランティア連携・協働研修会

～官民の多様な支援主体の連携・協働に向けて～（群馬県）プログラム

(1) 概要

- ・日時：令和2年11月17日（火）10：00～16：00
- ・会場：群馬県市町村会館 大研修室（群馬県前橋市元総社町 335-8）
- ・主催：内閣府（防災）
- ・共催：群馬県

1. 開会（10：00～10：10）

諸留 逸氏 /内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐
平井 敦子氏 /群馬県 生活こども部 部長

2. 基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性①」（10：10～10：25）

諸留 逸氏/内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐	資料 1
--	------

3. 基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性②」（10：25～10：55）

明城 徹也氏 /認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長	資料 2
--	------

<休憩>

4. 事例紹介

「災害ボランティア連携・協働の実例について」（11：05～12：00）

【コーディネーター】

明城 徹也氏 /認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長

【パネリスト】

高瀬 浩二氏 /愛媛県 企画振興部 政策企画局 総合政策課 主幹
辛嶋 友香里氏 /一般社団法人ピースポート災害支援センター(PBV)
松山 文紀氏 /震災がつなぐ全国ネットワーク事業担当、JVOAD 技術系専門委員会 幹事

資料 3

<昼食・休憩 12：00～13：00 *12：45～質問への回答>

5. 話題提供「群馬県における災害時の多様な主体連携の取組状況」（13：00～13：20）

中村 亮祐氏 /群馬県 総務部 危機管理課 南澤 由佳氏 /群馬県 生活こども部 県民活動支援・広聴課 NPO・県民活動推進係 鈴木 伸明氏 /社会福祉法人群馬県社会福祉協議会 施設福祉課	資料 4
--	------

6. 演習「災害時の多様な主体の相互理解」・講評・全体ディスカッション（13：20～15：50）

【ファシリテーター】日本ファシリテーション協会 災害復興支援室	資料 5
---------------------------------	------

*2回程度の休憩を含む

7. 閉会（15：50～16：00）

諸留 逸氏/内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐

3-2. 有識者等コメント

愛媛県 企画振興部 政策企画局 総合政策課 主幹 高瀬氏

- ・ 情報共有会議について、災害が起こってから対応していくことはもちろんだが、起こることがわかっていることは沢山ある。
- ・ 物資支援について、国・県・市と沢山の物資がくるが、避難所にとどける、在宅避難者にもとどける、ということは事前に準備ができること。
- ・ 被災者の健康管理については、保健師が中心になり避難所・在宅避難者にも調査が行われ、調査結果は共有されるが、それ以降の対応はどうするか、という問題があり、NPO 等が支援できることはある。
- ・ 予め想定しながら、整理していくことが良いと思う。

一般社団法人ピースポート災害支援センター(PBV) 辛嶋氏

- ・ 意地悪な質問を1つしたい。ワークを実施する中で、「自身が被災した」と想像した方はいるか。ご自身も被災し、家族が被災した状況で、どれだけのことが出来るかが原点だと思う。
- ・ 訓練や研修でも「本当に自分が被災していたらこれでよかったのか」と問いかけている。
- ・ 「連携」という言葉がいわれていたが、もう一步具体的な検討ができたのでは。このことだったらあの人に、という関係を日々構築していけたら良いと思われる。
- ・ 地域に持ち帰っていただき、やり続けるということが大事。

震災がつなぐ全国ネットワーク事業担当、JVOAD 技術系専門委員会幹事 松山氏

- ・ 主語が「行政が」になっていることが多かったように思う。
- ・ 行政では届かない人たちがいて、できないから大変なことになっている。行政にしかできないこと、社協にしかできないこと、ボランティアにしかできないことという視点で、情報共有会議が行われるとよい。
- ・ 「行政が」という主張が大きいと行政も会議に参加したくない。行政が苦手になっていることとは何か。自分たちでできることは何かと考えていけたらと感じた。
- ・ 専門職といわれている保健師さんは実はたくさんはいない。地域のなかで横のつながりを見つけていくことが大切。

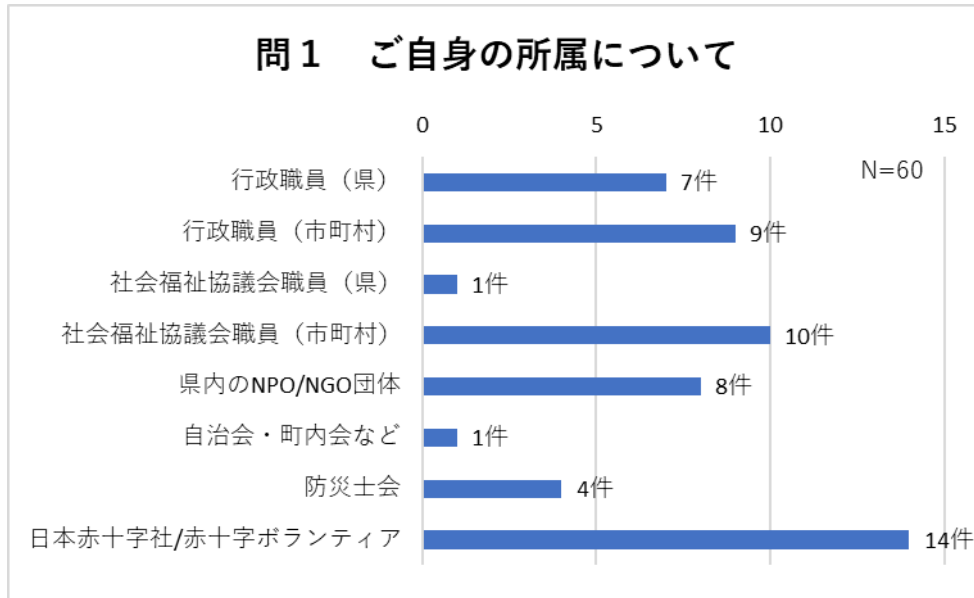
JVOAD 事務局長 明城氏

- ・ 支援の抜け・漏れをなくしていくためには、最初に、より広いニーズを集める必要がある。
- ・ 対応を考える場合も、地域に対応ができることがどれだけあるのかと同じく、行政によっても対応力は異なる。
- ・ 地域にある企業などを含めて、どういうところが対応できるのか考える必要がある。
- ・ 望ましい対応、コーディネートするところ。ニーズに対してどうやって進めていくのか。支援制度のこと、他の団体のこと。子ども食堂をやっている団体が、炊き出しもできるのでは、とか。
- ・ 災害が起きると、駆け付ける団体がいくつかある。そうした団体を知っておいていただき、つながっておいていただきたい。いろいろな団体があるため、今日だけでなく色々なやり取りをしていたらいい。

以上

3-3. 【群馬県】参加者アンケート 集計結果

問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。(複数回答可)

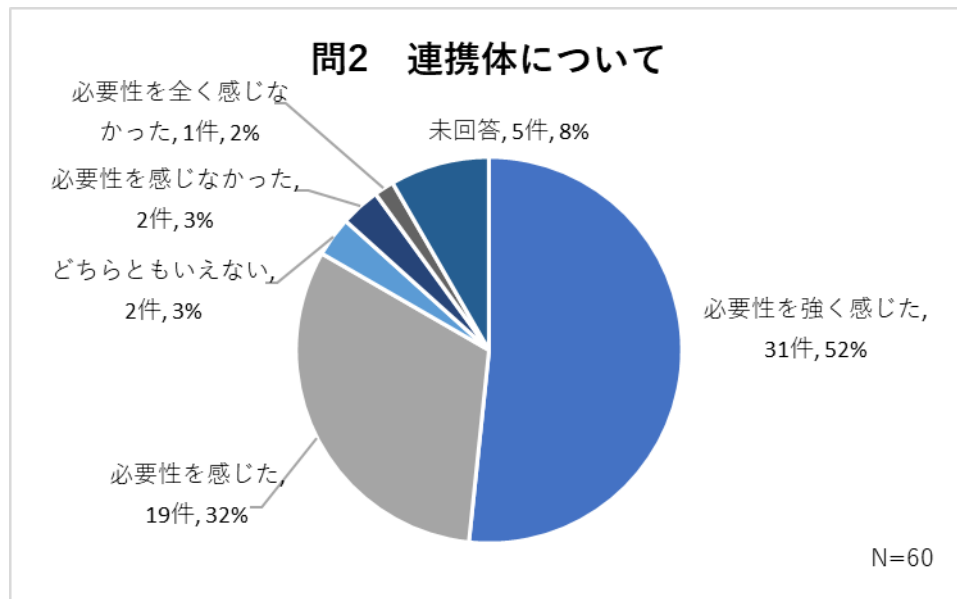


問1 所属について	件数	割合 (%)
行政職員（県）	7	12
行政職員（市町村）	9	15
社会福祉協議会職員（県）	1	2
社会福祉協議会職員（市町村）	10	17
県内の NPO/NGO 団体	8	13
自治会・町内会など	1	2
防災士会	4	7
日本赤十字社/赤十字ボランティア	14	23
その他	6	10

行政からの参加は、「行政職員（県）/7件」、「行政職員（市町村）/1件」と8件（27%）であった。社会福祉協議会からの参加は、「社会福祉協議会職員（県）/1件」、「社会福祉協議会職員（市町村）10件」と11件（19%）であった。

行政・社会福祉協議会以外の参加は、「県内の NPO/NGO 団体/8件」、「自治会・町会など/1件」、「防災士会/4件」、「日本赤十字/赤十字ボランティア/14件」、「その他/6件」の参加であった。

問2 本日の研修はいかがでしたか。行政・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じたか。



問2 連携体について	件数	割合(%)
必要性を強く感じた	31	52
必要性を感じた	19	32
どちらともいえない	2	3
必要性を感じなかった	2	3
必要性を全く感じなかった	1	2
未回答	5	8

「必要性を強く感じた/31件」52%、「必要性を感じた/19件」32%と併せて84%が、「連携体の構築・強化の必要性を感じている」という回答であった。「どちらともいえない/2件」、「必要性を感じなかった/2件」は各3%、「必要性を感じなかった/1件」で「未回答/5件」8%であった。

問 3 研修内容を踏まえ、今後取り組むべきと考える事項をご記入ください。(自由回答)

【様々な団体との協力関係づくり、顔の見える関係が必要】

- ・ 関係機関との連携と情報把握の必要性を感じました
- ・ 行政、社協、民間、NPO の連携、顔つなぎが大切だと思った。NPO もネットワーク化ができるとよいかと思いました。
- ・ 行政だけでは対応できない内容、事柄を社協や NPO 等と連携することで乗り越えられるのではと感じた。そのために、それぞれができること・できないこと・得意なこと・不得意なことを共有し、事前に体制を整えておく必要性を感じた。
- ・ それぞれの連絡窓口となるように、顔の見える関係性を構築しておくべきだと感じた。
- ・ 行政と NPO 団体などが緊密に連携していくことが、減災につながっていくと感じた。日頃からの意識づけをしっかりとしていこうと感じます。
- ・ 県で防災に関わっているが市町村との連絡調整が主体であり、社協等行政外との関係はないことに気づいた。行政外との関係が構築できないか検討したい。
- ・ 災害時に協力できる団体はもっと多いと思われるので、それぞれの団体とも協力関係を作り、群馬県独自のネットワークを作っていく必要があると思う。
- ・ 災害発生時にどんなことが起こるのか、何が、どんな支援が必要か想像すること、誰が何をできるのか知り、色々なつながりを持っておく必要があると感じました。
- ・ 社協との連携を取り、災害時にどうしていくのか共通認識を持つ。
- ・ 社協や日赤などに災害時業務を依頼できる関係作り。
- ・ 水平展開をさらに進めていただく研究の機会を設けていただきたい。
- ・ 組織の中でも横のつながりが重要であるが、他の団体等とのつながりがさらに重要と考えるようになった。災害はいつ起こってもおかしくないという意識をもって業務にあたりたい。
- ・ 多種多様の活動者の気持ちをつなぐため、日頃から顔の見える関係と課題の共有をすること
- ・ 多職種連携
- ・ ネットワーク作り、社協等他団体との連携
- ・ 防災の各グループ、ボランティア団体等、色々な会が合同で防災会議等、多くかかわることができればよりよくなるのかなと感じました。
- ・ 前橋青年会議所として積極的な連携、情報共有を行う必要があると感じた。
- ・ 連携について知ることが多く、良い時間を過ごせました。立場がそれぞれ違う中でどのように活動できるのか。協力できるのかを考えることができました。
- ・ 何でも行政に頼るのではなく共助に近い組織（自治会等）がニーズをまとめて、行政と連携して、行政に集中するのを避ける。

【事前準備が大切】

- ・ 行政に頼り切らないで自分たちでできることを日頃から考えておく
- ・ 災害発生時だけでなく、平常からの行政、社協、諸団体の連携の必要性を感じる。
- ・ 事前準備の必要性を強く感じた。
- ・ 情報共有会議に出るべき団体を考えたいほうが良い。今の群馬には運営する団体がない。情報共有会議が参加団体の自慢大会で終わったら VC の悪口大会で終るのは改善したほうが良い。
- ・ 情報の共有

- ・ どういった団体と連携できるか、平時からつながりを作っておく
- ・ 日頃からの連携を高め、情報共有することの大切さを実感しました。行政、民間、NPO、住民が一体となって進めていくことを忘れずに業務にあたらうと思います。
- ・ 非常時に連携をとるために、連携する団体と事前につながっておくことが必要と感じた。
- ・ 平時にしっかり関係性を作っておく

【「場」が必要】

- ・ 今回の研修で発生してからでは遅い、事前準備が重要だと思いました。いつ災害が起きてもおかしくない状況の中で、群馬県内の多様な支援主体が情報共有できる場を広めていけたらよいと思いました。
- ・ 平時からの各団体による顔合わせ、意見交換の場の開催
- ・ それぞれが抱えている問題を出し合って意見交換できる場が欲しい。

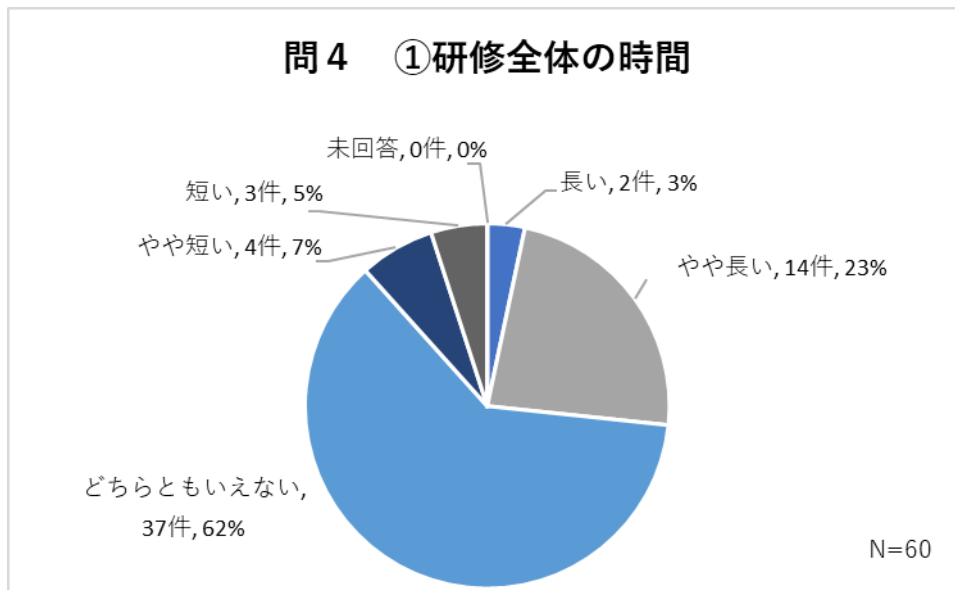
【訓練が大切】

- ・ 訓練を重ね、検証したことを次につなげられればよいと思う。
- ・ 普段の訓練が大事、関心を持つのはとても大事。これからも健康第一で自分のため、人のためにできることを一生懸命努力していきたい。日赤支部の協力がとても大事で参加し続けていきたい。

【その他】

- ・ 今日の学びを参考に災害に取り組む。
- ・ 災害の予測ができない。コロナのように想定外に備えるイメージ創りが大事です。
- ・ 災害ボランティアの活動 PR
- ・ 障がい者の心身問題をもう少し入れてほしい（身体障がい・精神障がい）
- ・ 防災減災活動経験を発表する機会をもうけて大きい

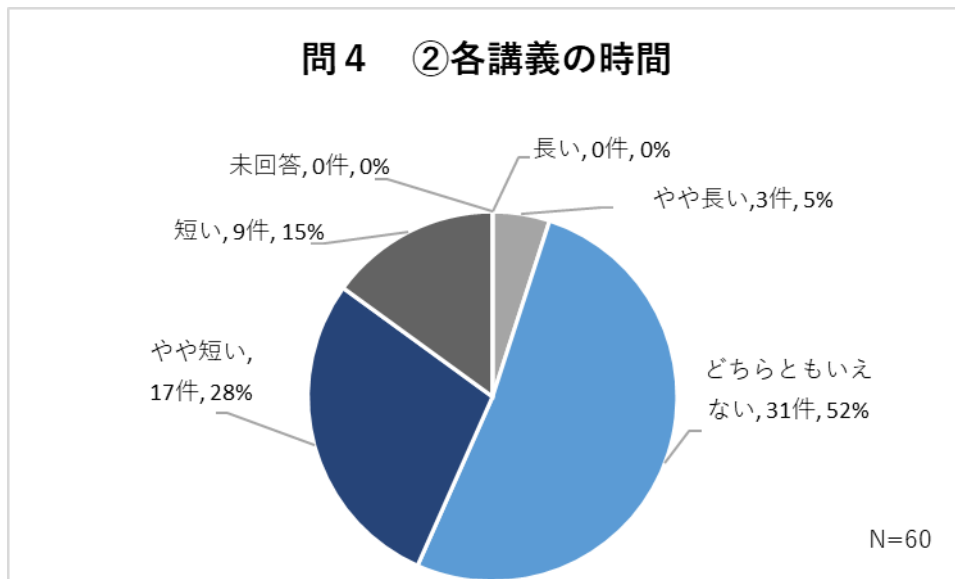
問4 研修会の運営についてお聞かせください。
 研修全体の時間は適切でしたか。



①研修全体の時間	件数	割合(%)
長い	2	3
やや長い	14	23
どちらともいえない	37	62
やや短い	4	7
短い	3	5
未回答	0	0

「どちらともいえない/37件」の回答が62%と一番多かった。「やや長い/14件」23%、「長い/2件」3%の回答であった。また、「短い/3件」5%、「やや短い/4件」7%の回答となった。

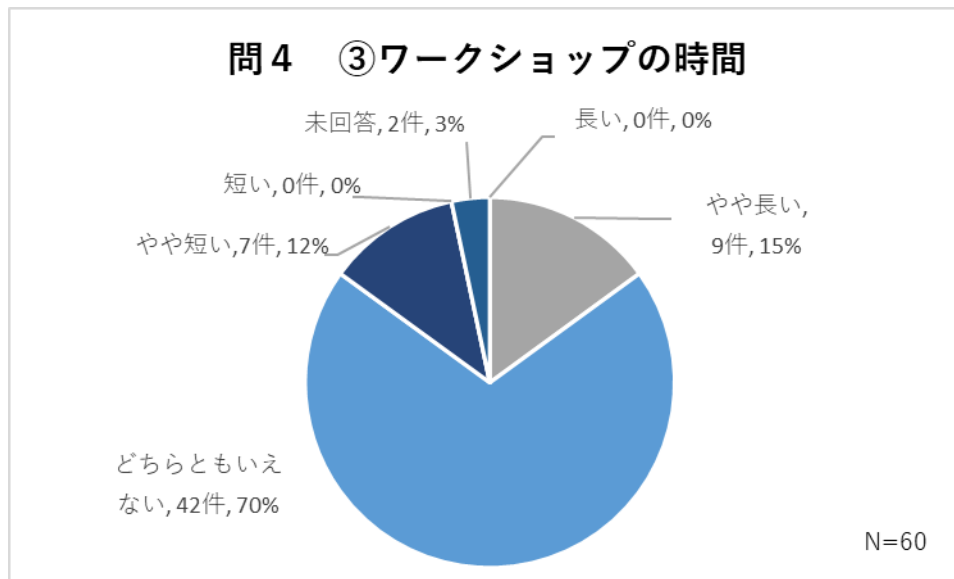
各講義の時間は適切でしたか。



②各講義の時間	件数	割合(%)
長い	0	0
やや長い	3	5
どちらともいえない	31	52
やや短い	17	28
短い	9	15
未回答	0	0

「どちらともいえない/31件」の回答が52%と一番多い回答であった。「長い/0件」0%、「やや長い/3件」5%の回答であった。また、「短い/9件」15%、「やや短い/17件」28%の回答となった。

ワークショップの時間は適切でしたか。

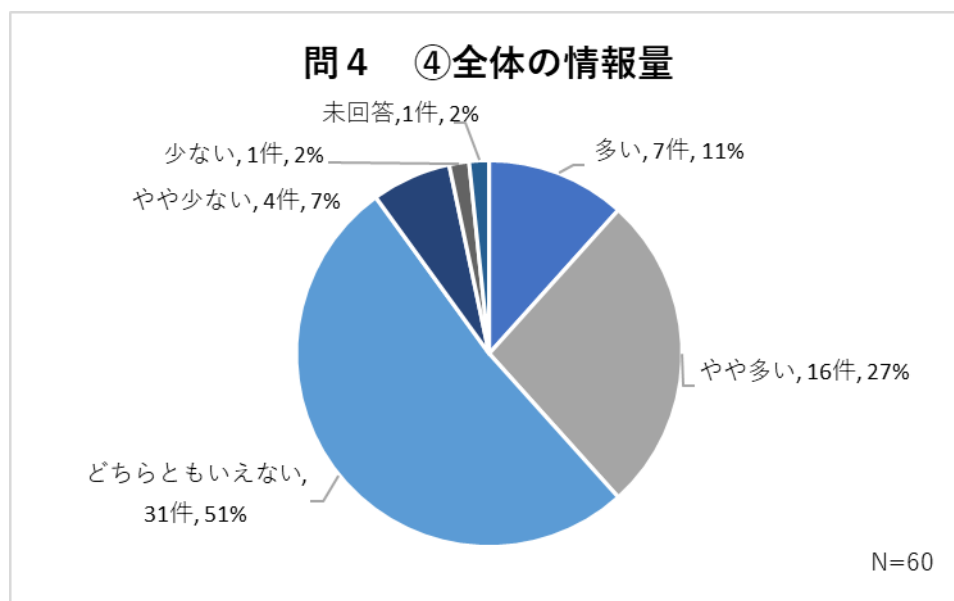


③ワークショップの時間	件数	割合(%)
長い	0	0
やや長い	9	15
どちらともいえない	42	70
やや短い	7	12
短い	0	0
未回答	2	3

「どちらともいえない/42件」の回答が70%一番多い回答であった。

「長い/0件」0%、「やや長い/9件」15%との回答であった。また、「短い/0件」0%、「やや短い/7件」12%の回答であった。「未回答/2件」は3%であった。

全体の情報量は適切でしたか。

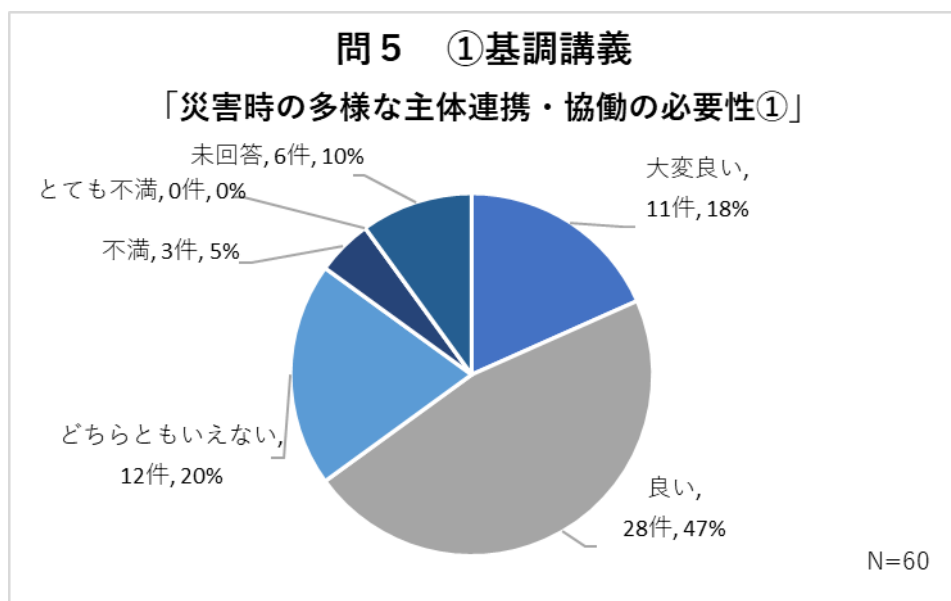


④全体の情報量	件数	割合(%)
多い	7	11
やや多い	16	27
どちらともいえない	31	51
やや少ない	4	7
少ない	1	2
未回答	1	2

「どちらともいえない/31件」が51%と一番多い回答であった。「多い/7件」11%、「やや多い/16件」27%との回答であった。また、「少ない/1件」2%、「やや少ない/4件」7%の回答であった。「未回答/1件」は2%であった。

問 5 研修内容、それぞれの項目について5段階（5が最高評価）で評価し、その理由もお聞かせください。

基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性①」



①基調講義	件数	割合(%)
大変良い	11	18
良い	28	47
どちらともいえない	12	20
不満	3	5
とても不満	0	0
未回答	6	10

◆主な理由

【大変良い】

- ・ 本研修会の全体的な内容、三者連携から多様な主体への変遷の必要性を「理解できたため。
- ・ 資料が充実していて、災害ボランティアではどのようなことをするのか、行政、社協、団体がどのように働きかけるか詳しく知ることができました。
- ・ 災害、自分事化する
- ・ 常に変化をしている災害対応について理解を深めることができた

【良い】

- ・ 災害時に想定されることや連携の事例など簡略にまとめられていてわかりやすかった。
- ・ 今回のような研究会を企画していただきありがとうございます。近年の状況がよくわかりました。少し時間が足りなかったというかしっかりお話を伺いたかった。
- ・ 普段は聴講することのないものだと思います。
- ・ もっと聞きたかった

- ・ 多様な主体、協働はこれからの災害対策に必要不可欠
- ・ まだ時間が足りない部分もあったのでいまいち。
- ・ 内閣府の仕事がわかりません。

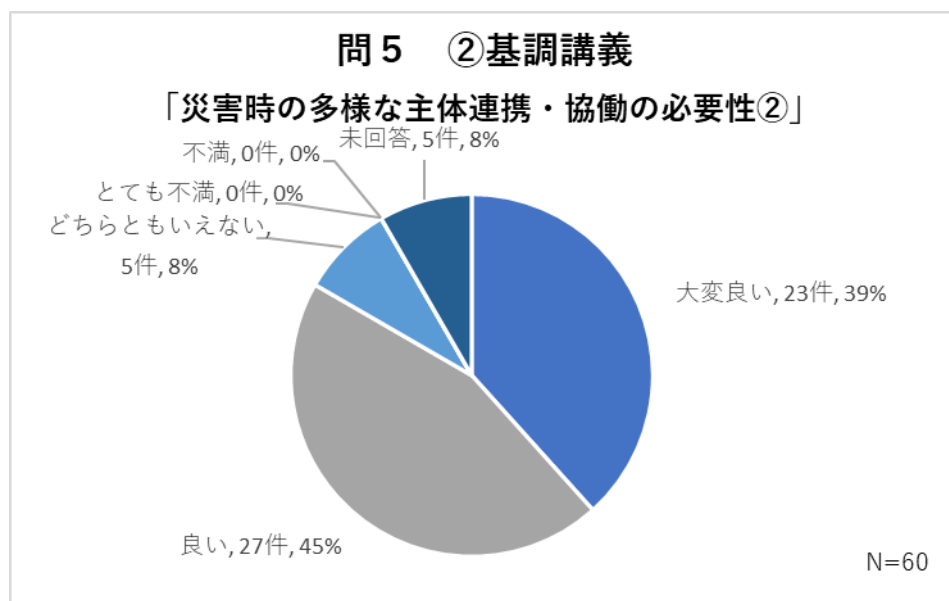
【どちらともいえない】

- ・ 研修の目的を明白に出すこと
- ・ 具体性に欠ける

【やや不満】

- ・ 早口で分かりづらかった

基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性②」



② 基調講義	件数	割合(%)
大変良い	23	39
良い	27	45
どちらともいえない	5	8
不満	0	0
とても不満	0	0
未回答	5	8

◆主な理由

【大変良い】

- ・ 実際に災害対応にあたった方の話が聞いて良かった。
- ・ JVOAD という単語は耳にしたことがありましたが、それがどのような役割を果たしているか、また、行政、社協、団体が会議などでしっかりと情報を共有していくことの重要性を知ることができました。
- ・ 全国のボランティア団体を知ることができた。
- ・ コロナ禍での支援等伺うことができ良かった。JVOAD のこともよく知ることができ良かった。
- ・ 報道されない真の声が聞けたと思います。
- ・ なぜ多様な主体が必要なのか、現在の状況が分かった
- ・ もっと聞きたかった

【良い】

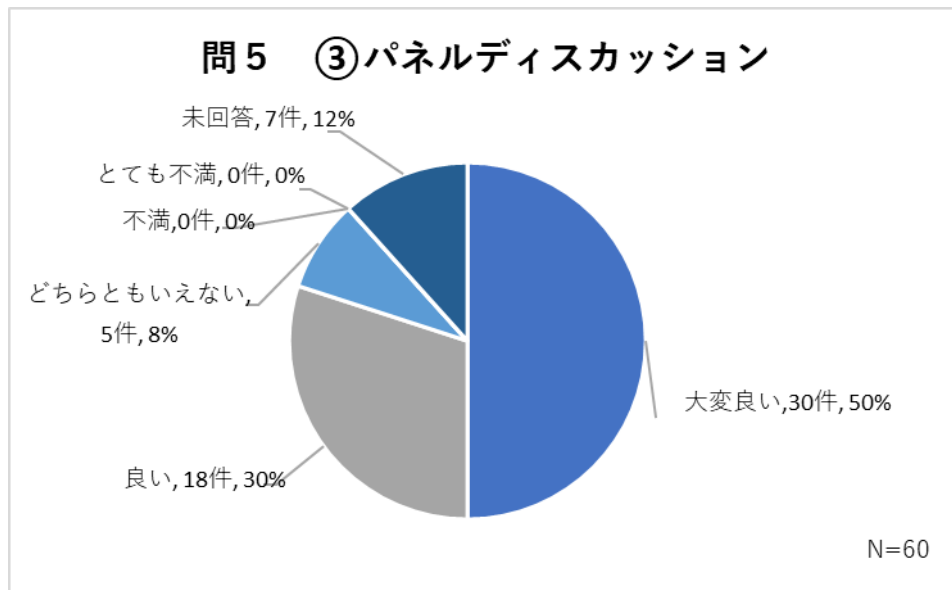
- ・ 連携の必要性は感じていながらも、なかなかかわりがない組織であるためその概要を知ることができなかった。
- ・ 色々な組織がバラバラに活動していたのがまとめる必要があることが分かった。

- ・ 技術系の団体があるということを知ることができた
- ・ 要点を押さえてあり、三者連携の必要性、関わり方、姿勢等がよく分かった。
- ・ JVOAD の役割がよく理解できた
- ・ コロナ禍でのボランティア活動について重点に話してほしかった。

【どちらともいえない】

- ・ わかりやすい言葉で良かったが理解するのに時間が足りない

パネルディスカッション「災害時の多様な主体連携・協働の実例」



③ パネルディスカッション	件数	割合(%)
大変良い	30	50
良い	18	30
どちらともいえない	5	8
不満	0	0
とても不満	0	0
未回答	7	12

◆主な理由

【大変良い】

- ・ 貴重な話が聞けて良かった
- ・ 実際に行っていることをもとに説明を聞いたうえで、しっかり情報共有を行い、連携をとることが改めて考えることができた。
- ・ それぞれいろいろな立場の方から実際に災害発生時どのように動いたか知ることができました。
- ・ 実際に経験されたことや、行ってきたことを伺い、知ることができて非常に参考になった。
- ・ 実体験にもとづき、とても良い勉強になりました。
- ・ 災害時に活動している行政、NGO、NPOの活動について具体的に話を伺うことができて非常に貴重な機会だった。
- ・ 知らない部分が多かったのでよかった。色々な事例が聞けて大変勉強になった
- ・ 各々のパネリストが経験を基に話しているので、分かりやすく、成果とともに課題、心構え等よく理解できた。
- ・ コロナ禍における災害支援の難しさ、重機ボランティアの意義の理解ができた。
- ・ もっと聞きたかった
- ・ 内容がよかったが、話込み過ぎて時間が足りない。

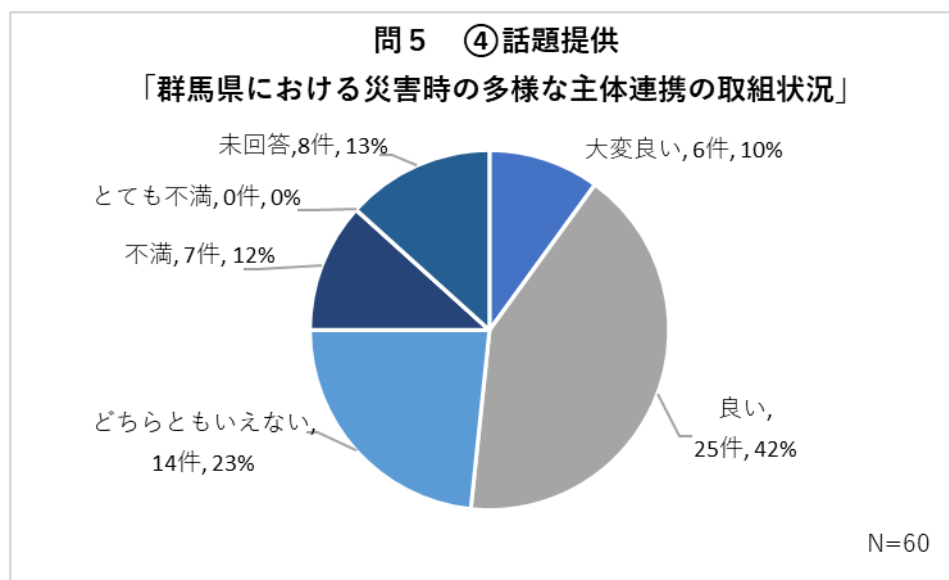
【良い】

- ・ 協働の必要性が分かった
- ・ えひめの事例が聞いて良かった。群馬でも協働が進められることを期待している

【どちらともいえない】

- ・ 内容が濃いのに各事例の時間が短く、もう少し細かく説明を受けたい感じだ。

話題提供「地域における災害時の多様な主体連携の取組状況」



④話題提供	件数	割合(%)
大変良い	6	10
良い	25	42
どちらともいえない	14	23
不満	7	12
とても不満	0	0
未回答	8	13

◆主な理由

【大変良い】

- ・ 災害発生時、対応の際の県の担当課、担当業について知ることができました。

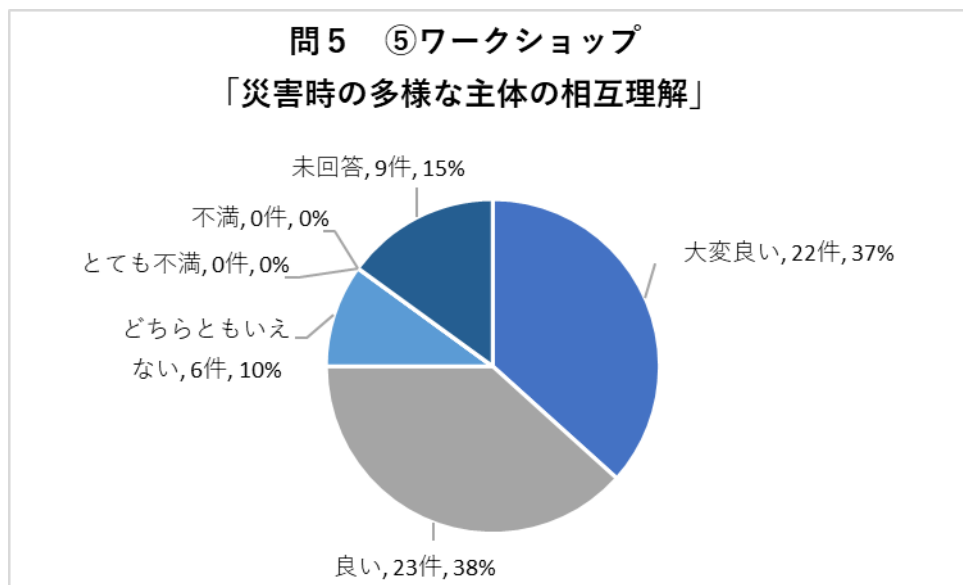
【良い】

- ・ 危機管理課だけでなく、災害ボランティアに関わる他の部署の業務を知ることができて良かった。
- ・ ある程度知っていることであったため
- ・ わかりやすかった、もっと聞きたかった

【どちらともいえない】

- ・ 全体的な組織の中での位置がわからなかった。
- ・ テーマは「群馬県における災害時の多様な主体連携の取り組み状況」となっていたが、内容は自部署の業務についての報告だった。具体的な取り組み事例などを報告してほしい。
- ・ 「ぐんま DWAT」について認知していなかった。周知の工夫が必要だ。

演習「災害時の多様な主体の相互理解」



⑤話題提供	件数	割合(%)
大変良い	22	37
良い	23	38
どちらともいえない	6	10
不満	0	0
とても不満	0	0
未回答	9	15

◆主な理由

【大変良い】

- ・ 様々な立場からの意見を聞いて良かった。災害時に行政として何ができるか考えるきっかけになった。
- ・ いろんな団体の意見や考えを聞くことができ、実際に生かせると感じる事ができた。
- ・ 災害発生時を想定して何が起こるか、何が必要かわからないなりに深く考えるきっかけになりました。災害が発生したら何ができるか、どんなことが起こるか、誰がどのように動けばよいのか普段から考える必要があると感じました。
- ・ 災害時の行動などもとても勉強になったが、心の持ち方も学ぶことができとてもよかった。
- ・ 現実の問題として官民が真剣に検討できた。
- ・ 皆さんの情報や考えを知ることができた。
- ・ 意味のある内容で進めることができ良かった
- ・ 行政だけを頼るのはよくない、自分たち動ける人や知識のある人などの協力が必要だ。いろんな団体や情報をしっかり知ることが大切と感じた。
- ・ 行政の方から考えをきけたこと
- ・ 大変良かった
- ・ マイクの声の通りがよく、声が鮮明、問の取り方がよかった

【良い】

- ・ 他業種の方の意見を聞いて非常に勉強になった。
- ・ 社協、日赤、防災士会の方々と多角的に災害対応について考えることができた。自分だけでは考えつかない内容もあったので、とても有意義であった。
- ・ 一般ボランティアには難しい内容だとも感じたが、職員としては非常に有意義なワークであった。社協の方から様々なことを教えていただき自分自身の問題解決になった。
- ・ 行政の方々や団体の方々の声が聞いて良かった
- ・ 相互の理解の重要性を知れて良かった
- ・ テーマが広く、集中した議論は難しかった。他団体の考え方を知り有意義だった。
- ・ 様々な立場での様々な見方があり、お互いを尊重することの大切さが理解できました
- ・ 条件を絞ったほうが深い話ができるのでは

【どちらともいえない】

- ・ グループ同士いろいろ意見が出て良かった。また、一緒のグループでありたいと思う。
- ・ ワークの手法は良いが、状況付与の内容はイメージしづらかった。三週間経験した状況だけでなく、災害発生時から必要なことをイメージした方がよいかと思った。群馬は災害が少ないこともあり、災害発生時からの対応が必要だと思った。

問6 全体のプログラムを通じ、ご意見・ご感想等お聞かせください。

【よかった、勉強になった】

- ・ 新しい勉強でとても参考になりました。各分野の方々とご一緒できて、色々な意見を聞くことができ、とてもよかったです。
- ・ 大変勉強になりました。
- ・ とてもよかった、聞きやすかった。
- ・ 良かったです。
- ・ 役に立ちました。今後活かしていきたいとおもいます。
- ・ 内容全体の構成が良かった。
- ・ 充実した内容で、ダラダラすることなく、緊張感をもっと臨めた。
- ・ ありがとうございます。

【よい機会となった】

- ・ いつ起こるかかわからない災害に備えることの大切さ、もしもの時に動きだせるように日々理解を深めることができました。これを一回で終わらずに継続して欲しいと思います。
- ・ 多くの機会を作ってほしい
- ・ 群馬県内でもネットワーク作りが急務だと感じた。
- ・ コロナ対策の観点からリモート研究ばかりで、他団体と連携をとることが難しかったので、このような研修の機会は貴重なものとなった。
- ・ 今回のような研究会を通して理解を深めたいと思います。地域の行政の方の参加のないのが残念に思いました。
- ・ 災害時に連携する団体やボランティアの方と考えることができ、いろいろな情報を共有することができて良かったです。

【具体事例の話はもっと聞きたい】

- ・ 事例紹介は非常に良かった。しかし、せっかく遠方からきている講師の方々なのに持ち時間が少なくて残念だった。
- ・ 事例紹介だけで一日ぐらいの時間をとってほしい内容でした。ちょっと凝縮しすぎの研修だったので残念です。
- ・ プログラムを詰込み過ぎている。この内容であれば2日に分けるものだと感じた
- ・ 講義、事例紹介だけでも一日必要。説明がかけ足になってわかりにくくなってしまった。

【その他】

- ・ お互いの意見交換の時間が必要ではないか
- ・ 口調が早く、マスクをして話をしているため聞き取れにくい
- ・ 発表が体系的に行いにくく、共有すべきポイントがわからなかったなので、指示があるとありがたいと感じた。
- ・ テレワークが望ましい
- ・ 官民協働ということでしたがむずかしいと思った

以上

4-1. 災害ボランティア連携・協働研修会

～官民の多様な支援主体の連携・協働に向けて～（愛知県）プログラム

(1) 概要

- ・日時：令和2年11月24日（火）13：00～17：00
- ・会場：オンライン（ZOOM）
- ・主催：内閣府（防災）
- ・共催：愛知県

1. 開会（13：00～13：10）

諸留 逸氏 /内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐
竹内 正光氏 /愛知県 防災安全局 防災部長

2. 基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性①」（13：10～13：30）

諸留 逸氏/内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐 資料1

3. 基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性②」（13：30～13：50）

明城 徹也氏
/認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長 資料2
<休憩>

4. リレートーク

「災害ボランティア連携・協働の実例について」（14：00～15：10）

【パネリスト】

古越 武彦氏 /長野県 危機管理部 危機管理防災課 防災係 課長補佐兼防災係長
徳永 雄大氏 /社会福祉法人長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター主事
山室 秀俊氏 /特定非営利活動法人長野県NPOセンター 事務局長

資料3

【コメンテーター】

栗田 暢之氏
/認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）代表理事
<休憩>

5. 演習「被災者の困りごとを知る」15：20～16：40）

【ファシリテーター】日本ファシリテーション協会 災害復興支援委員会 資料4

6. 話題提供「愛知県における災害時の多様な主体連携の取組状況」（16：40～16：50）

伊藤 淳氏 /愛知県 防災安全局 防災部 防災危機管理課 主査 資料5

7. 閉会（16：50～17：00）

諸留 逸氏/内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐

4-2. 有識者等コメント

(1) 演習コメント

JVOAD 事務局長 明城氏

- ・ 被災して、水道が使えなくなり、その後行政の情報では「水道が復旧している」という情報が出された。しかし、井戸・簡易水道を使用している地域では、水が使えていないところもあった。
- ・ 罹災証明について。外国人でもわからないが日本人でもわかっていないというコメントがだされた。罹災証明は「取った後にどのような支援につながるか」ということを理解できていない人が多い。過去のケースでは、民間の保険の請求とごっちゃになってしまった。保険会社への保険請求では不要といわれたため、罹災証明と勘違いをして、ある地域の多くのかたは、罹災証明の申請をしていなかったことがあった。
- ・ 災害専門団体は、災害のノウハウを持っており経験豊富。お声がけいただければ様々な事例を紹介できるかと思う。ぜひお声がけいただきたい。
- ・ 演習で使用した状況付与のなかには、立場が違うことで、違う困りごとがだされていた。視点が異なるため気づきがあったと思う。一方で、同じ場面で同じ困りごとに気づいたということがあった。となると、同じ支援となり支援が重なることがでてくる。「支援が重なるため、調整が必要。」という声であった。違う困りごとも、同じ困りごとも、次にどうつなげていくのかということが大事。

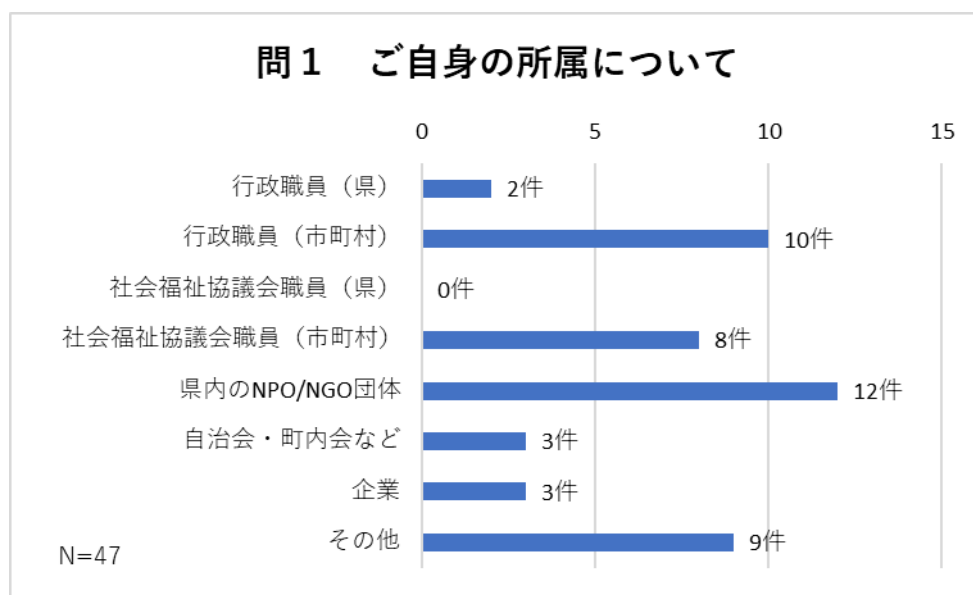
JVOAD 代表理事 栗田氏

- ・ 参加者からの指摘で、「地域の力が一言も触れられていない」とあった。行政、社協、NPO 等はあるが、基本は自治会の力を高めていくことだと思う。重要な意見であった。
- ・ 一方で、地域で頑張ろうにも、全域が水没していたりすると地域の力では対応できないということがある。また、行政からのお願いごとが多くなり、自治会長の負担が増加したりする。自治会に未加入者は暮らしが見えない、といったことがある。
- ・ 自治会と NPO・ボランティアの関わり合いは議論の余地がある。
- ・ 環境部局の方もご参加いただいている。長野の具体的な活動について補足する。水害の後は家の中を早く片づけたいため、誰かが空いているスペースに災害廃棄物を置いたためどんどん置かれていくことがある。「勝手仮置き場」といわれるが、道路がふさがれ、私有地にかかわらずどんどん災害廃棄物が置かれていく。
- ・ 長野では、指定ボランティアが大通りへと出し、夜中に自衛隊が運んでいくという連携がとられた。災害廃棄物は市の担当だといっても、ボランティア、自衛隊、警察と連携がとられた事例。
- ・ 農業ボランティアは、農水省の管轄の中で公的な支援が入る。ただ、次の収穫に間に合わないという声から、携わるボランティアがたくさんいて、仕組みをつくっていったことが大きい。
- ・ 災害廃棄物・農業ボランティアにしても行政の制度はあるが、「間に合わない、解決できない」ということで三者連携が進んでいった。
- ・ リンゴ園について、今年はリンゴが収穫できている。ボランティアに携わった方々が、再びリンゴを食べたいということで戻ってくる。農家の元気づけにつながっている。被災された方一人一人に、どういう支援が必要なのか。どう支援を届けいてくのか。こうした関係性の土壌作りが三者連携の原点だと思う。

以上

4-3. 【愛知県】参加者アンケート 集計結果

問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。(複数回答可)



問1 所属について	件数	割合(%)
行政職員（県）	2	4
行政職員（市町村）	10	21
社会福祉協議会職員（県）	0	0
社会福祉協議会職員（市町村）	8	17
県内の NPO/NGO 団体	12	26
自治会・町内会など	3	6
企業	3	6
その他	9	19

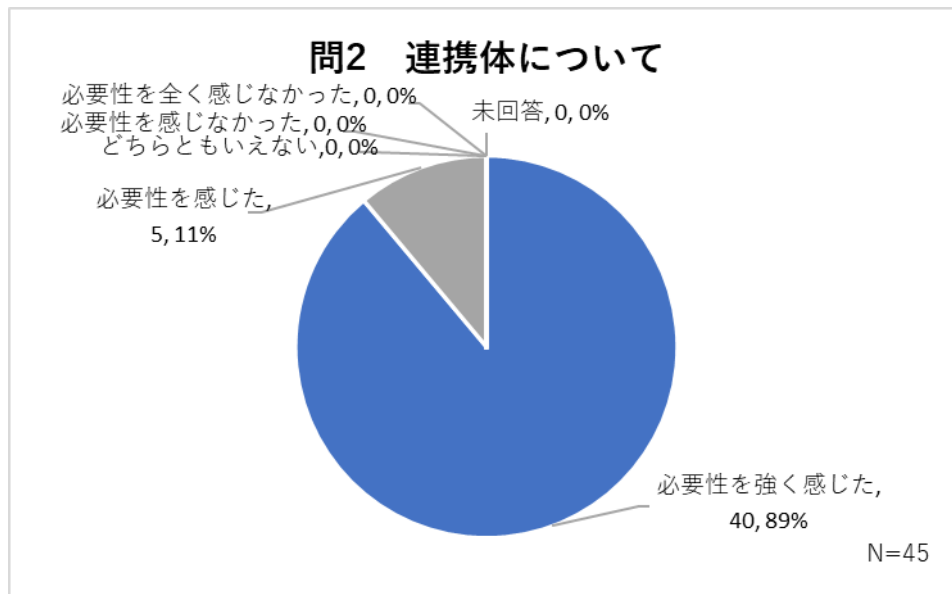
行政からの参加は、「行政職員（県）/2件」、「行政職員（市町村）/10件」と12件（25%）の参加であった。

社会福祉協議会からの参加は、「社会福祉協議会職員（県）/0件」、「社会福祉協議会職員（市町村）8件」と8件（17%）の参加であった。

行政・社会福祉協議会以外の参加は、「県内の NPO/NGO 団体/12件」、「自治会・町会など/3件」、「企業/3件」、「その他/9件」と27件（56%）の参加であった。

「その他」としては、生活協同組合コープあいち（4件）、宗教団体関係（2件）、日本赤十字社愛知県支部所属災害奉仕団であった。

問2 本日の研修はいかがでしたか。行政・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じたか。



問2 連携体について	件数	割合(%)
必要性を強く感じた	40	89
必要性を感じた	5	11
どちらともいえない	0	0
必要性を感じなかった	0	0
必要性を全く感じなかった	0	0
未回答	0	0

「必要性を強く感じた/40件」89%、「必要性を感じた/5件」11%とすべての参加者が「連携体の構築・強化の必要性を感じている」という回答であった。

問 3 研修内容を踏まえ、今後取り組むべきと考える事項をご記入ください。(自由回答)

【連携強化】

- ・ NPO との連携強化
- ・ 災害時の情報共有は重要であるが、県内での大規模災害が近年はなく、危機意識に大きな隔たりがある現状と県内での横断的な交流が無い状況では一部の団体中心になると思うがそれが良いことなのか。躊躇する一面にどう対応するのか。前段としての工程表を検討する必要がある。
- ・ 平時からの連携体制樹立
- ・ 平時の NPO との連携を今のうちにしておくべきと思いました。災害に特化していない NPO や、ボランティアグループとも、災害時に何ができて、何を任すことができるのか考える必要があると思います。
- ・ 防災のための愛知県ボランティア連絡会との連携
- ・ 防災訓練時に 30 ぐらいの団体と共催、協力で実施しているが、当組織と各団体が個々に結びついているので、研修でいわれているような各団体間での連携体を目指したい
- ・ 本市では災害廃棄物処理計画を作成中なので、各団体との連携を踏まえた内容としていく方向で考えています。
- ・ 名古屋には行政・社協・災害関係 NPO から成る災害ボランティア連絡会があり、毎月 1 度開かれているが、より多分野の組織や団体とつながっていく必要性を感じた。

【様々な団体との協力関係づくり、顔の見える関係が必要】

- ・ いざ、災害が起きた時を想定し訓練はもちろんのこと、自助共助公助と言われますように自分の身はもちろん、身近、地域でどう助け合うか、そして、今回のように行政など、公的なところとのつながりをしていく事が大切である
- ・ ボランティア団体は多くあると思いますが、長野県のように纏める方がいない現状だと思います。愛知県には連絡会がありますが、災害 VC の活動のみ(?) 県社協さんに頑張って調整して頂きたいですね。
- ・ 関係機関や部署とオンライン研修を一緒に参加できました。研修等から、今後も防災のテーマで顔を合わせる機会を作っていきたいです。
- ・ 行政及び社会福祉協議会、NPO 法人とのつながりを強化していくことを進めていきたいと感じました。
- ・ 生協の方も参加されていきましたので、行政・ボランティアとの連携に多職種の方が加わっていただけるとような声かけなどができたら良いと考えています。
- ・ 町内で企業や NPO 団体と話し合いを持ちたいと思いました。

【気づきがあった】

- ・ 医療救護所を開設するにあたり、医療ボランティアを募集している段階ですが、なかなか集まらないのが現実です。今後募集の仕方や、募集後の研修方法、連携方法など課題は多いと感じました。
- ・ 現在は、学校や町内の防災啓発が主体で活動していますが、災害時の対応力の未熟さを痛感しました。
- ・ 公助・共助・自助の重要性を、再度認識することができました。
- ・ 行政、ボランティア（市内防災ボランティアのネットワーク）との打ち合わせはあるが、互いに何ができるかの確認はぼんやりとしか取れていませんでしたので、その確認から改めて始めていきたいと感じました。
- ・ 自身の防災と、災害発生時に頼るべき・連携すべき団体の整理。
- ・ 被災した際の官民の連携について、共同で取り組める作業のピックアップを行うとよいと思いました

【情報共有会議について】

- ・ 愛知県情報共有会議への参画
- ・ 情報共有会や連絡会の機能が認識されてきているので、今後は情報共有だけでなく、全体をリード、マネジメントしていく体制や組織編成等多くの仲間の力を一層効率よく復旧に向ける活動が進むと良いと思います。
- ・ 情報共有会議の設置は、平時の時こそ整備しておくべきと理解できました。有事に機能させるには、国や県を待たず、市町村レベルでの取り組みも重要と考えます。

【「場」が必要】

- ・ 交流することを目的としたイベント
協働の意味についての議論、現状維持からの脱却（変化を受け入れる）

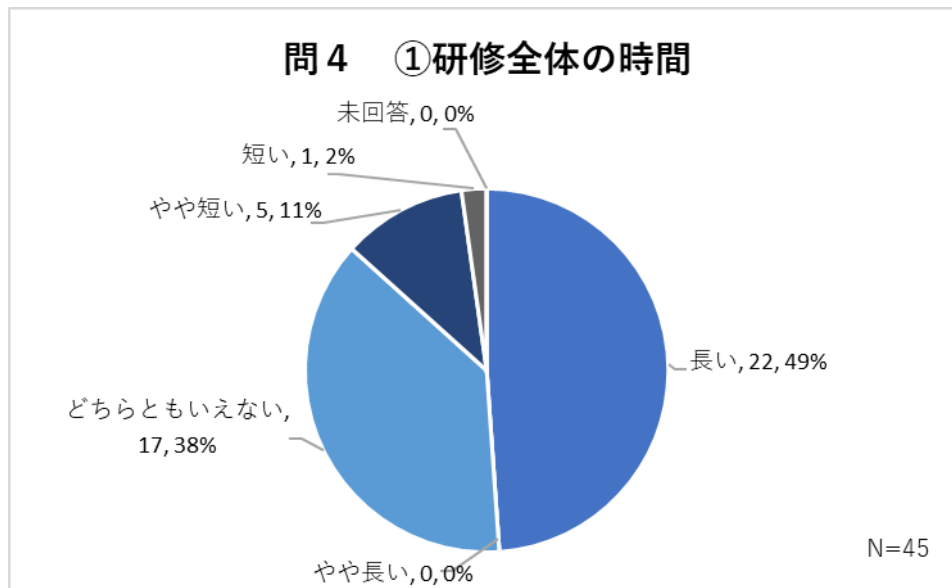
【運営について】

- ・ 課題が多すぎてついて行く事ができませんでした。課題を絞ってもう少しゆっくり説明をして頂きたい。質問の機会も都度設けて頂ければとおもいます。
- ・ テーマを絞ってより深く掘り下げる企画をお願いします。

【県への要望】

- ・ 先進的な頑張ってきた事例を取り上げ続けてほしい。まねできることから、自分の地域を改善していく取り組みの意欲が継続し仲間が増える・増やしていきたいと思う。組織的に活動実績のある事例などの紹介が理解しやすく、自治区の活動に非常に役に立ちますので、今後も多く紹介して欲しい。
- ・ 愛知県で今後取り組んでいく方向性も話され良かった。
- ・ 物資等の支援受入れ・依頼窓口の一本化や整流化とその周知 ニーズや支援を1カ所でまとめ、必要なところに適切に配分する仕組みがあるとありがたい また窓口を広く知らしめてほしい

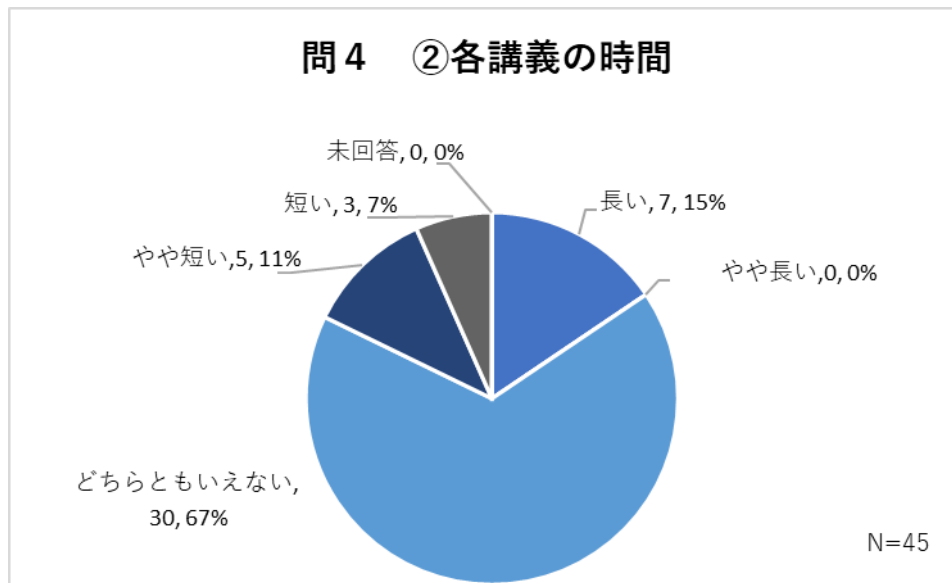
問4 研修会の運営についてお聞かせください。
 研修全体の時間は適切でしたか。



①研修全体の時間	件数	割合(%)
長い	22	49
やや長い	0	0
どちらともいえない	17	38
やや短い	5	11
短い	1	2
未回答	0	0

「長い/22件」の回答が49%と一番多かった。「どちらともいえない/17件」の回答が38%、「やや短い/5件」11%、「短い/1件」2%の回答となった。

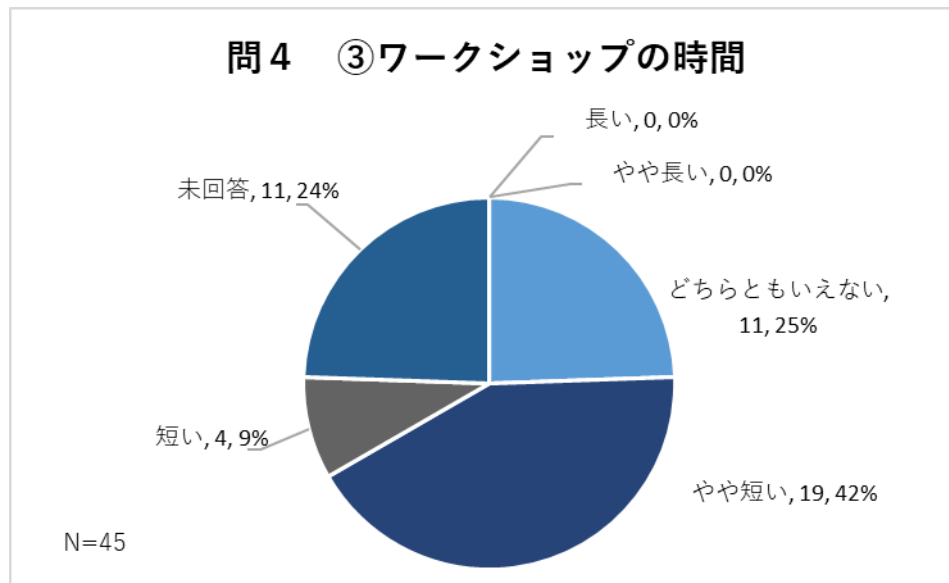
各講義の時間は適切でしたか。



②各講義の時間	件数	割合(%)
長い	7	15
やや長い	0	0
どちらともいえない	30	67
やや短い	5	11
短い	3	7
未回答	0	0

「どちらともいえない/30件」の回答が67%と一番多い回答であった。「長い/7件」16%、「やや長い/0件」であった。また「やや短い/5件」11%、「短い/3件」7%の回答となった。

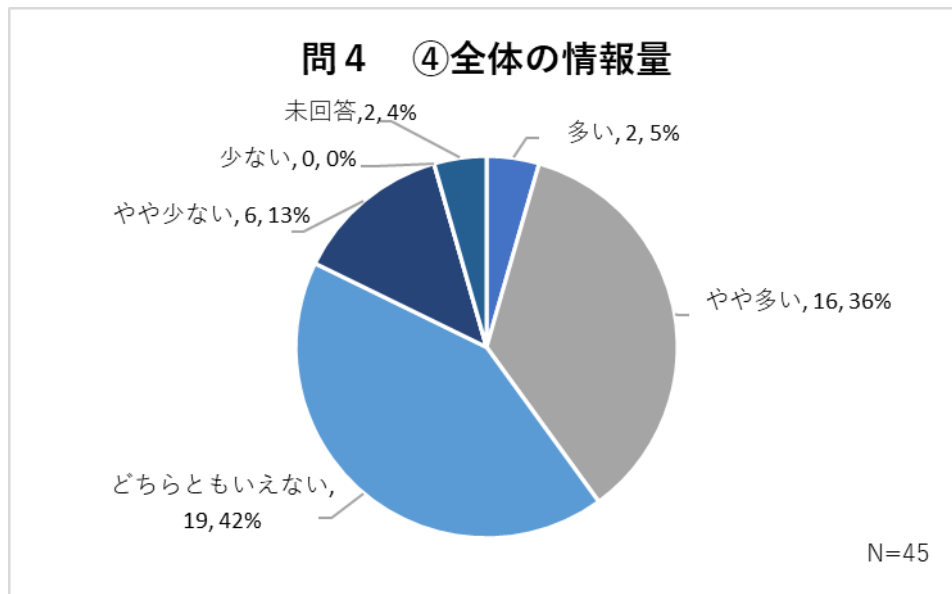
ワークショップの時間は適切でしたか。



③ワークショップの時間	件数	割合(%)
長い	0	0
やや長い	0	0
どちらともいえない	11	25
やや短い	19	42
短い	4	9
未回答	11	24

「やや短い/19件」42%が一番多い回答であった。「どちらともいえない/11件」24%、「短い/4件」9%、「未回答/11件」は24%であった。

全体の情報量は適切でしたか。

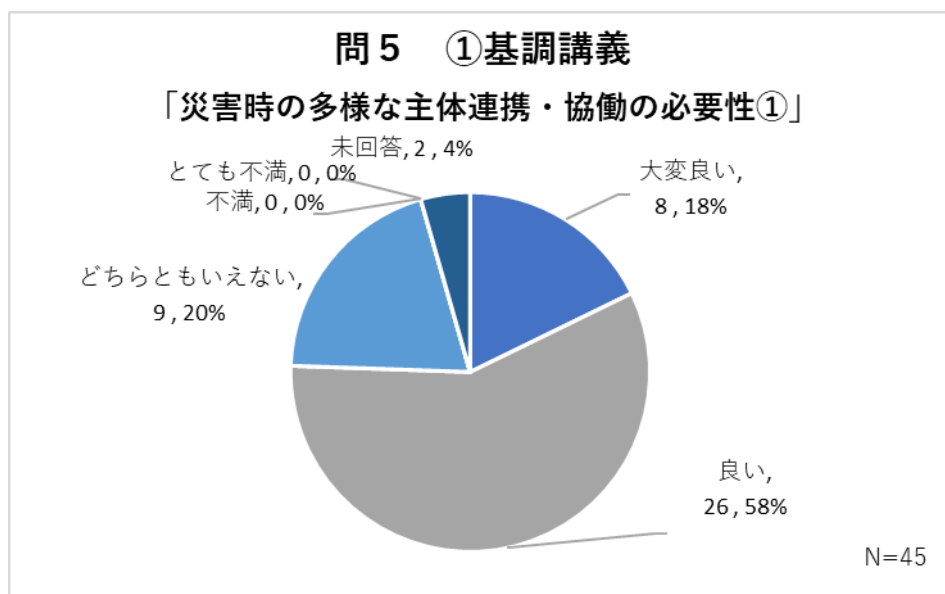


④全体の情報量	件数	割合(%)
多い	2	5
やや多い	16	36
どちらともいえない	19	42
やや少ない	6	13
少ない	0	0
未回答	2	4

「どちらともいえない/19件」42%、「やや多い/16件」36%であった。「やや少ない/6件」13%、「多い/2件」5%で、「未回答/2件」は4%であった。

問 5 研修内容、それぞれの項目について5段階（5が最高評価）で評価し、その理由もお聞かせください。

基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性①」



①基調講義	件数	割合(%)
大変良い	8	18
良い	26	58
どちらともいえない	9	20
不満	0	0
とても不満	0	0
未回答	2	4

◆主な理由

【大変良い】

- ・ 近年の官民の協力、官内の縦割り統制では無い取り組みが可能であることを示していただき、今後が心強い。
- ・ 最近、その必要性を言われるようになってきましたが、まだまだ、関心が薄いようです。もっと周知の必要性があります。
- ・ 発災からボランティア受け入れまでの流れやボランティアの歴史を学習できました。
- ・ 必要性を感じているところであった。

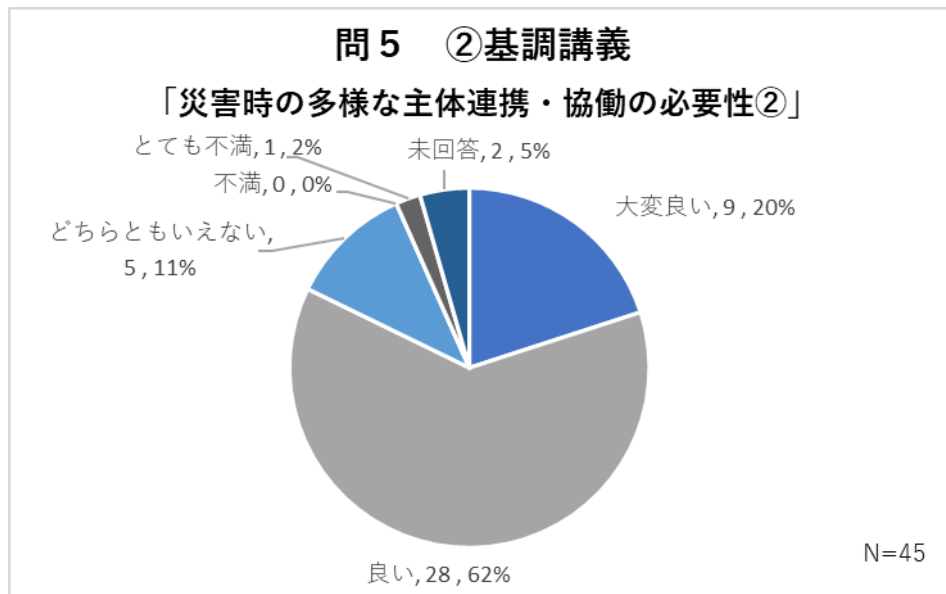
【良い】

- ・ NPO などの民間団体との連携が進んでいることが理解できた。
- ・ ただ行政や社会福祉協議会へ、平時の取り組み連携を進言する機会や場もなく個人的にはジレンマを感じる。
- ・ よく理解できた。
- ・ 行政の立場からの連携の必要性について、整理されて説明されていたので。
- ・ 国の考え方は少し分かったが、国際的に日本の取り組み方はおかしくないかという点からも新しい方向を示して行ってほしい。
- ・ 災害時に向けて、平時の取り組み連携が重要であると、改めて認識しました。
- ・ 災害時に絶対的に不足するマンパワーをボランティアとの協働により解消する必要性が感じられた。
- ・ 資料が非常にわかりやすく、所属内や関連部署での共有が行いやすいと感じたため。
- ・ 自分自身の体験を振り返ることができた。
- ・ 情報共有会議などの情報をいただけて参考になりました。
- ・ 全体の概念をイメージできた。国の方針が少し理解できた。
- ・ 全体俯瞰の情報がありがたかった
- ・ 令和2年7月豪雨に対する取り組みの実施事項、特に災害廃棄物の取り組みが重要であると感じた

【どちらともいえない】

- ・ 講師の方おひとりおひとりの持ち時間が少なく、皆様持ち時間不足を感じているように見えました。
- ・ 時間が短いこともあり、必要性があまり伝わらず、連携イメージが出来ない。
- ・ 時間の関係で基本的な内容にならざるを得ない
- ・ 伝わって来る内容がとぼしかった思いました。もう少しインパクト持って頂きたい。
- ・ 内容としては非常に参考になるものであったため、残念に思いました。

基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性②」



④ 基調講義	件数	割合(%)
大変良い	9	20
良い	28	62
どちらともいえない	5	11
不満	0	0
とても不満	1	2
未回答	2	5

◆主な理由

【大変良い】

- ・ あるべき姿を具体的に知ることができた。
- ・ 現場経験が豊富で頼もしく思った。課題がよく整理されていてわかりやすかった。
- ・ 行政と各団体をつながることで防災、発災時の対応の迅速度が変わるのだと思います。
- ・ 分りやすかった
- ・ 平時の研修や情報共有が大事だと感じました。

【良い】

- ・ 「ONE NAGANO」の取り組みなどが聞いて参考になりました。
- ・ お話は大変良かったが、具体的な事例まで時間的にお聞きできなかったのが残念だったため。
- ・ よく理解できた
- ・ ボランティアには一般のボランティアの人と専門性を持ったボランティア等があり、平時からいろんなボランティア団体との連携組織化が必要であると認識をしました。
- ・ 災害時に被災者のニーズを拾い上げるための中間支援の必要性が感じられた。
- ・ 三者の連携の必要性について、実際の経験をもとに説明されていたのでわかりやすかったです。
- ・ 体験に裏打ちされたお話がわかりやすく伝わった
- ・ 中間支援組織の重要性を感じた。
- ・ 特に長野県から紹介が実際携わった人たちの生の声が個を超えてよかったと思いました。

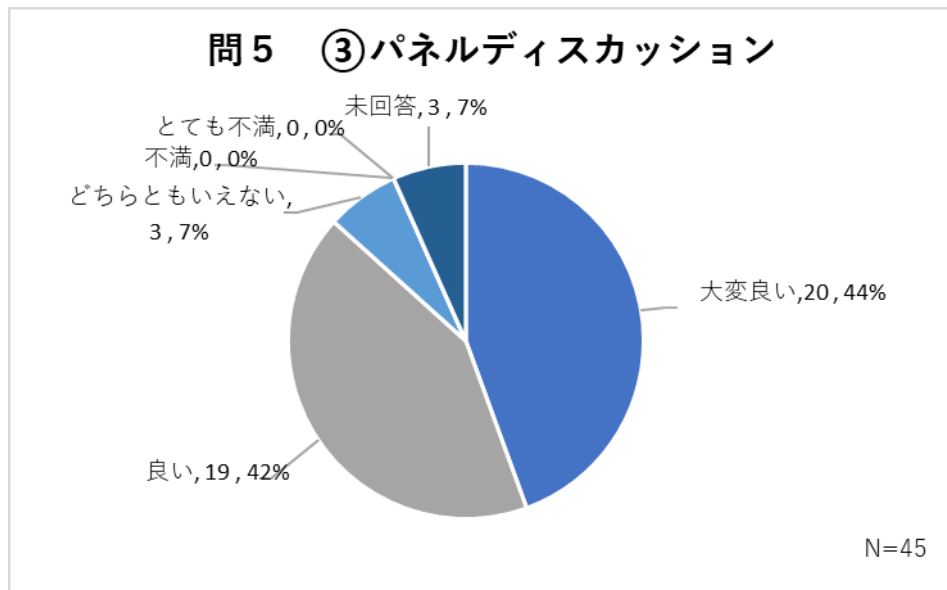
【どちらともいえない】

- ・ 機材トラブルで大変気をもまれたと思います。お疲れさまでした。
- ・ トラブルに関わらず、やはり持ち時間が足りないように感じました。内容はよかったです。
- ・ 感染拡大の現状に関わらず、オンラインでの研修会は参加しやすく、大変助かりますので、今後も継続していただけるとありがたいです。
- ・ 時間が短いこともあり、必要性が伝わらず、連携イメージが出来ない。
- ・ 時間の関係で基本的な内容にならざるを得ない

【とても不満】

- ・ 途中で音声不調になったことは残念でした
- ・ JVOADの活動概要がわかりました。行政や民間団体の活動だけでは、対応できないことが多いので、隙間のところをフォローいただきたい

パネルディスカッション「災害時の多様な主体連携・協働の実例」



⑤ パネルディスカッション	件数	割合(%)
大変良い	20	44
良い	19	42
どちらともいえない	3	7
不満	0	0
とても不満	0	0
未回答	3	7

◆主な理由

【大変良い】

- ・ 「テキトー、仲良し、やる気」が印象的でした。
- ・ もう少し、聞きたかった。
- ・ もっと機会がありましたら、お聞きしたかったです。
- ・ もっと話を聞きたかった。現場の声は迫ってくるものがあり、理解しやすい。
- ・ 愛知県のような大きな市町村が多い自治体だと、市町村内で完結してしまい、横の連携が取りにくい危険があるとも思いました。
- ・ 具体的で興味が持てた。
- ・ 具体的な事例等もあり、とても参考になった。
- ・ 具体的な事例があり、お話を理解しやすかった
- ・ 現実の話で、重みがありました。
- ・ 行政・社協・各団体が良い意味で利用する関係になればと思います。
- ・ 実際活動をしている団体の紹介は必要であり、参考になります。
- ・ 組織の構築・継続・発展の話として大変参考になった。
- ・ 被災をした市町の実際の状況が聞けて良かった。日頃からの顔の見える関係の大切さを再認識した。
- ・ 非常に連携の生まれた土壌というか、空気感がよく伝わってきた。顔の見える関係が、キーパーソン間で構築されていることが非常によくわかった。
- ・ 平常時からの連携が生きた事例。私たち愛知県でも同様の活動ができるのか？
- ・ 話の組立が上手。

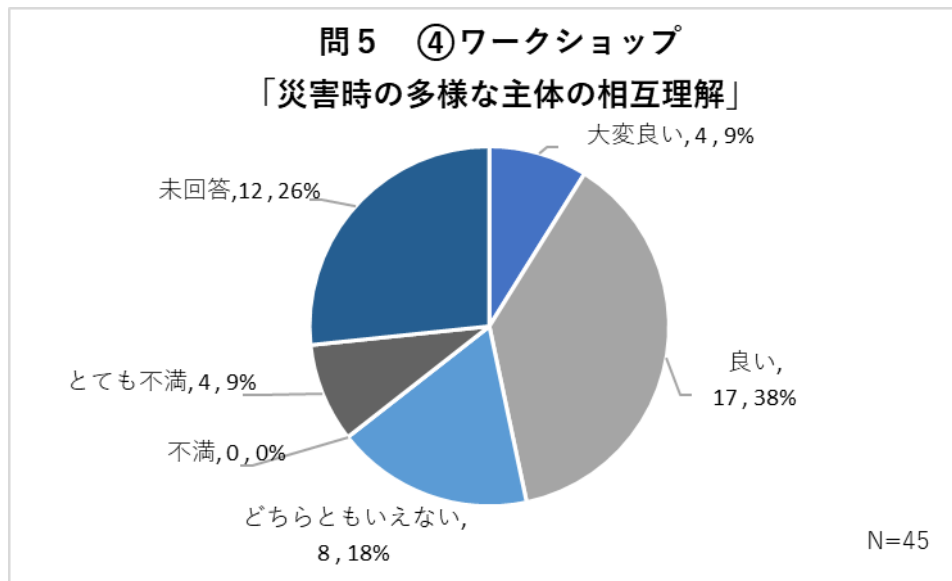
【良い】

- ・ 災害時に、現場・上層部をともに経験されている方々のそれぞれの団体から話を聞いたので大変参考になりました。
- ・ それぞれのお立場でのお話をお聞きしました。テキトー、仲良し、やる気いっぱい、のゆるく強靱な関係性が良いと思いました。
- ・ それぞれの立場からの実際の現場の話も聞いたのでよかったです。
- ・ 実際の災害の際、重要なのは日ごろの人的つながりだと感じられました。
- ・ 多団体との平常時からの連携を意識していきたいと思います。
- ・ 長野の動きがよくわかったが、市町のレベルでどうあればよかったか？知りたいと思った。
- ・ 長野県の実例は災害前から地域でのボランティア活動が活発で、それを災害時にも生かすことができる内容であったので、大変参考となりました。
- ・ 夫々の立場での活動概要がわかりました。社協の方の顔の見える関係づくりは参考になりました

【どちらともいえない】

- ・ 事前学習不足、時間が短いこともあり、個々のトークでは連携イメージが出来ない。
- ・ 時間が短いことと、視聴者との双方向の意見交換がない。

演習「災害時の多様な主体の相互理解」



④話題提供	件数	割合(%)
大変良い	4	9
良い	17	38
どちらともいえない	8	18
不満	0	0
とても不満	4	9
未回答	12	26

◆主な理由

【大変良い】

- ・ どの立場でも必要な視点で話し合いを進めやすかった。町社協で話し合いが持てたときにワークに取り入れたい。
- ・ 実際に考え・文章化し・人に説明すると、理解が深まる 各ケースの読み方も変わる 演習は非常に効果的と思う
- ・ 実際に被災者の立場を考えることができました。困りごとがこんなにたくさん出てくることや、その整理をして、支援できる人につなぐこと、等課題はたくさんあるな、と思いました。

【良い】

- ・ zoom 会議のグループ学習は、初めてなので参考になりました。
- ・ いろんな角度からの考えが聞かれ為になりました。
- ・ もう少し事前にニーズの掘り下げについて、視野を広げられるようなお話があるとより効果的になったかと思いました。
- ・ グループが2人だったので、考える時間に対してグループワークの時間が長く感じました。行政同士のグループだったので、他の立場の方の話も聞きたかったです。
- ・ 災害時の対応を経験したことがなかったので、経験者の意見を聞くことができ参考となりました。
- ・ 自分の職務と違う視点からの意見は大変貴重でした
- ・ 目的は良いと思いますが、オンラインで実施する場合は講師側、参加者側の双方に慣れが必要と思いました。
- ・ 唯一実戦に即した企画だったと思います。
- ・ 様々な立場から被災者の困りごとを考える機会が普段無いから。

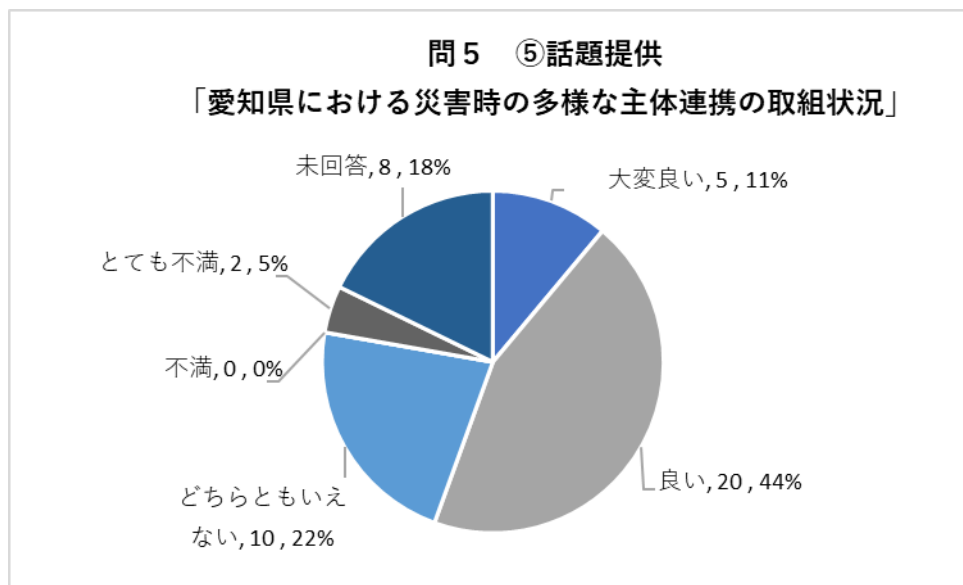
【どちらともいえない】

- ・ 時間が短かった。困りごとを知っただけでは交流できない。
- ・ 多様な意見を共有できるとよかった。
- ・ こちらも不慣れなため、オンラインで行うとグループワークは難しいなと感じました。
- ・ 空いた時間でのグループワークでは、日本JCの九十九様から大変参考になるお話を聞けました。が、空き時間なのでやはり時間が足りませんでした。
- ・ 本音が聞けるかなと思います。
- ・ 時間が短く、オンラインでは、スムーズに進めることが出来なかった。

【とても不満】

- ・ 時間が短すぎる 演習にはならなかった
- ・ チームメンバーが少なく多くの方のご意見が聞けなかった
- ・ 基調講義で音声不調で時間ロスが影響したと思う。残念でした
- ・ 時間が短すぎて演習にならない。
- ・ 参加者のお立場(所属)がわからず、自己紹介が必要だったこともあり、時間が足りなかった。参加されたきっかけや理由など、もっとお思いをお聞きしたかった。

話題提供「愛知県における災害時の多様な主体連携の取組状況」



⑤話題提供	件数	割合(%)
大変良い	5	11
良い	20	44
どちらともいえない	10	22
不満	0	0
とても不満	2	5
未回答	8	18

◆主な理由

【大変良い】

- ・ 愛知県の取り込み状況が聞けて良かった。
- ・ 各行政との連携をしっかりとやっていただきたい。

【良い】

- ・ 愛知県での取り組み（県ボランティア連絡会の設置、県災害多言語支援センター等）を学ぶことができました。
- ・ 愛知県の取り組みがよくわかりました
- ・ 愛知県の取り組みの現状を理解しました
- ・ 長野の柔軟さを聞いた後で、かなり固い印象を受けましたが、事前の想定から柔軟性を持つことはむずかしいので、この硬さがまた良いと思いました。
- ・ 理解できた

【どちらともいえない】

- ・ 私たちの町と同じように、目の前に大災害が突きつけられているのに、取り組みが遅れていると思えた。頑張ってください。
- ・ 情報量の割には時間がなかった。
- ・ 説明の内容としてはよくわかりました。
- ・ 伝わって来るものを感じさせてくれなかった。
- ・ 話題提供としてはあったが、もう少し時間をかけ、詳しく聞きたかった。

【とても不満】

- ・ 新しい部分を感じられなかった。大規模県として積極的に展開すべきと思う。
- ・ 平常時のつながりを作っていないといざという時に機能しないのではないか。

問6 全体のプログラムを通じ、ご意見・ご感想等お聞かせください。

【オンライン研修が参加しやすかった】

- ・ オンラインで開催されると、説明等を聞くだけならば移動時間・旅費を気にせず参加できるので参加しやすいです。
- ・ オンライン研修でしたので、受講しやすかったです。講師の先生方の資料作りや講義は大変だったかと思います。ありがとうございました。
- ・ 映像も音も問題なかったのですが、私の参加状況がまずく（カメラ・マイクのないPCでの参加）ワークショップに参加できなかったことと、私の参加状況によりすべての視聴がかなわなかったのが、残念であり申し訳ありませんでした。事前にたくさんの資料もいただきましたし、ZOOMでの参加だったからこそ参加できたので、これからもこのような機会があると参加者も増えると思います。ありがとうございました。
- ・ 事務所から参加ができるため、オンラインだと参加のハードルが低くなりました。
- ・ 他市町からの移動時間、仕事の調整などのことを考えると、オンライン開催は参加のハードルが下がりました。

【よい機会となった】

- ・ ありがとうございました。（2件）
- ・ コロナ禍での対応についての内容もあり、今後このような状況下で連携をとっていくうえでの参考となりました。ありがとうございます。
- ・ コロナ禍の今、このような会議を数多く企画してほしい。
- ・ 今回の研究会の場を提供いただき誠にありがとうございました。内閣府、各県行政、社協、JVOADの取り組みがわかり大変参考になりました。今後もこのような機会を設けていただければ幸甚です。
- ・ 連携の必要性や普段からしておくことなどとても理解でき、うちでもやってみたいという内容だった。

【時間が短かった、中途半端だった】

- ・ 感想ですが、1つの講演が時間切れ等、中途半端な感があった。演習の時間も中途半端な配分で、十分な議論が出来なかった。全体として、プログラム数が多かったのではと感じました。また、オンラインでも質疑は可能と思いました。
- ・ 講義の本数が多すぎて、内容が深められなかったように思います。
- ・ 多くを詰め込み主義ではなく小グループに分けて専門分野ごとに受講する側も発言質問等ができる形が良いと思います。
- ・ 多機関協働ということで、様々なお立場の講師を調整して下さりありがとうございました。そのため長い時間をとっての開催となったと思われませんが、ひとりひとりの持ち時間が短くなってしまい少し残念でした。
- ・ 内容はとてもよかったです。配分時間に少し無理があったような気がします。リレートークをもう少し多く時間をとっても良かったのではないかと思います。
- ・ プログラムが多すぎて、質問などの時間がなかったのが残念。初めてのことでいろいろやりたい気持ちもわかりますが、もう少しゆとりのある企画を願います。

【参加者間コミュニケーション、チャット機能の活用等の要望】

- ・ グループワークや、政策等で気になる自治体・団体のある場合、直接当事者に話を伺おうとすると、会場で開催されている方がコミュニケーションをとりやすいと思います。
- ・ チャットでも良いので、質疑応答などが出来ると良いと思いました。
- ・ チャットの宛先を始めに教えてもらえると嬉しい。
- ・ 防災関係者だけでなく学校PTAやZOOMで使用するパソコンが普段使用しているパソコンと異なるため、演習用ワークシートをチャットで送ってもらえるとよかったです。今回は作成できていません。
- ・ 「名前表示」に所属がないと誰が参加しているのかわからないです。参加集約はチャットでスプレッドシートを送ってもらって各自入力する方法がいいです。
- ・ 不参加の連絡をしたが、小部屋への招待連絡が届き戸惑った。「参加」と「後で」の二つしか選択肢がなく、どれを押したらいいのか迷ったため、何かしら案内があるとよいと思う。
- ・ 多数の参加があったが、偏りを感じた。市町村行政職員の参加があっても、同じ市町村の社会福祉協議会が参加していないケースも目立った。他の所属の取り組み状況は分かっている為、参加同士の情報共有にも時間が欲しかった。ブロックごとなど範囲を狭くして研修を行った後に範囲を広げて更に行う方が、情報共有がしやすいのではないか。
- ・ 仲間が増えた実感が持てない。名刺交換ができない。ブレイクアウトルームでの時間が少なかった。

【企画面への要望】

- ・ オンラインの研修ありがとうございました。お願いとしては、オンラインであるからこそ、録画ができると思うので、YouTubeなどでの、限定公開をしていただけると、研修内容についてほかの職員にも伝達しやすいので、ご検討ください。
- ・ 貴重なお話をありがとうございました。主眼は情報共有会議の重要性だったかと存じますが、情報が共有された結果、次のアクションがどう変わる(支援がスムーズになる、リードタイムが短縮される、etc)か、などについての言及もあると、なおありがたかったと思いました。
- ・ 研修の趣旨からも、コロナの問題がなければ、対面での開催で、研修を通じて連携協働も生まれるのではないかと感じています。
- ・ 時間的に4時間は長いように思いました。

【運営について】

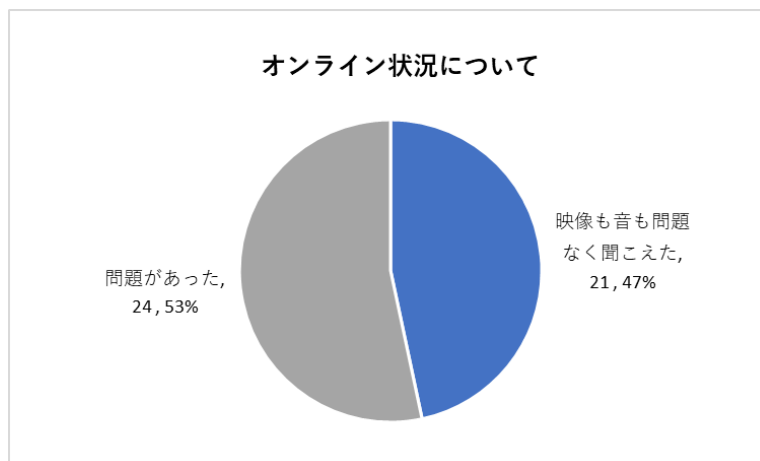
- ・ ご準備含め、大変な運営だったことと存じます。トラブル対応もスマートで、素晴らしいオペレーションでした。ありがとうございました。
- ・ オンラインでの研修はこちらでも試行錯誤しているところで、本当にご苦労お察しいたします。本日は本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。
- ・ 新しい取り組みにチャレンジされた事務局の皆さんありがとうございました。今後、コロナ禍の中では、このような形での研修会は非常に有効ですので、頑張って継続を期待しております。
- ・ 名刺交換が出来ない分、参加者名簿の配布はありがたかったです。事前に共有の同意を取って、公開されている電話番号やメールアドレス等まで共有可能だとなお良かったかと思いました。

【その他】

- ・ 子ども関係のNPO役員です。災害時の地域との連携について、立ち遅れている感覚を日頃から持っており、参加させていただきました。私たちの団体は公的でないのですが、定期的に訓練や話し合いをしています。
- ・ 商工会、観光協会、体育協会等の方々も交えて開催出来たら良いと思います。
- ・ 長野県の豪雨災害を中心とした、ボランティア活動支援、そのための協働連携の事例と、うまく機能したことに至るまでのJVOAD設立経緯や当事者のONENAGANOの活動を知ることが出来、貴重な勉強会でした。ありがとうございました。
- ・ 今の一つの課題として、つながりです。行政とのつながり、ボランティア団体などとのつながりなど、必要性があると思います。特に行政とのつながり持てればと思います。
- ・ 今日は演習に参加できなくて残念でした。ありがとうございました。
- ・ 資料は入手できました。感謝いたします。

参考) オンラインの状況について

① オンライン研修会の受講環境について

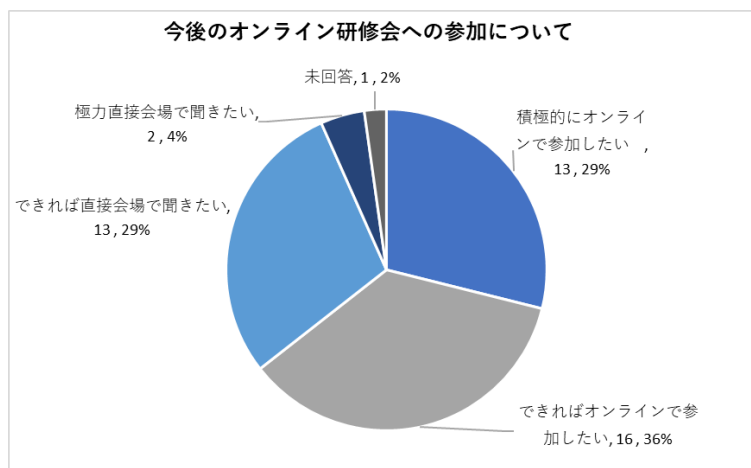


「映像も音も問題なく聞こえた/21件」で47%、「問題があった/24件」で53%であった。

「問題があった」と回答した具体的な内容

- ・ 途中で音声、画像とも切れることがあった。(10件)
- ・ 基調講義で音声不調で時間ロスがあり演習での時間不足につながった
- ・ オンライン学習の手際に問題あり(2件)
- ・ チャットでも指摘されていたが、再開時の話題提供者の音声小さかった
- ・ こちら側のwi-fi環境の問題で、途中途絶えてしまったところがありました。その後カメラ付きのタブレットでは使用できず、カメラなしのPCで聴講したのでグループワークに参加できず、申し訳ありませんでした。
- ・ 他のイベントと重なりオンラインイベントに参加できませんでした。

② 今後のオンライン研修会への参加について



「積極的にオンラインで参加したい/13件」が29%、「できればオンラインで参加したい/16件」が36%と、オンラインでの参加希望は65%であった。

以上

5-1. 災害ボランティア連携・協働研修会

～官民の多様な支援主体の連携・協働に向けて～（鹿児島県） プログラム

(1) 概要

- ・日時：令和2年12月18日（金）13：00～17：00
- ・会場：オンライン（ZOOM）
- ・主催：内閣府（防災）
- ・共催：鹿児島県

1. 開会（13：00～13：10）

諸留 逸氏 /内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐
宮地 昌博氏/鹿児島県 くらし保健福祉部 社会福祉課長

2. 基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性①」（13：10～13：30）

諸留 逸氏/内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐	資料 1
--	---------

3. 基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性②」（13：30～14：00）

明城 徹也氏 /認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長	資料 2
---	------

<休憩>

4. リレートーク

「災害ボランティア連携・協働の実例について」（14：20～15：20）

【パネリスト】

近藤 吉輝氏 /社会福祉法人呉市社会福祉協議会 地域福祉係長
松島 陽子氏 /特定非営利活動法人 U.grandma japan（うわじまグランマジヤパン）
代表理事

資料 3

【コメンテーター】

栗田 暢之氏 /認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）代表理事

<休憩>

5. 演習「被災者の困りごとを知る」15：40～16：40）

【ファシリテーター】日本ファシリテーション協会 災害復興支援委員会

資料 4

6. 話題提供「鹿児島県における災害時の多様な主体連携の取組状況」（16：40～16：50）

萩原 幸司氏 /鹿児島県社会福祉課 地域福祉支援係長
辻 健一氏 /社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会 ボランティアセンター 所長

資料 5

7. 閉会（16：50～17：00）

諸留 逸氏 /内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐

5-2. 有識者コメント

(1) 事例紹介者からの参加者へのメッセージ

社会福祉法人呉市社会福祉協議会 地域福祉係長 近藤氏

- ・ 広島県は県で情報共有会議を行っていたが、市町村域でやっていく情報共有も重要だと思う。支援者としての「人」、不足している「モノ」、行政の復旧計画・調整は、県域で行うといった情報は財産であり、大事。
- ・ 被害が大きい場合は、土砂かきボランティアや福祉系専門職と様々な人がはいるため、情報共有会議は必要である。また、被害が小さい場合も、報道されにくく、外部の手が届きにくくなっているため、小さい町単位であっても、情報共有会議は特に重要。
- ・ 被害の大小にかかわらず、「困っている度合い」は一緒。支援の片寄り、ムラを無くすことができ、救える命が確かにあると感じる。
- ・ 災害規模によって片寄りをなくすため、県域での情報共有が大事。
- ・ 薩摩海軍の流れが強いのが呉市。これをきっかけに鹿児島県と広島県、呉市の関係がよくなれば幸い。

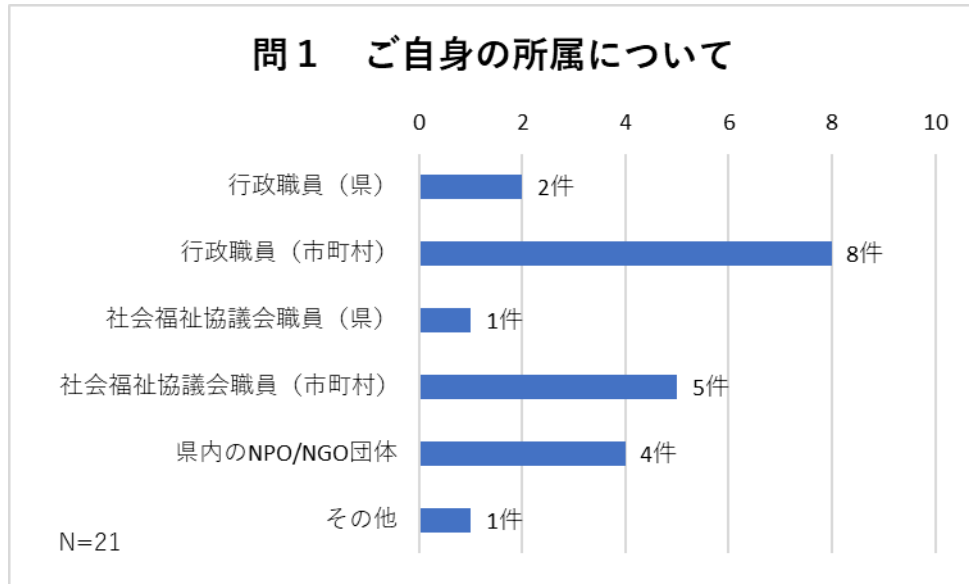
特定非営利活動法人 U.grandma japan (うわじまグランマジヤパン) 代表理事 松島氏

- ・ 底力、地元愛というのを主体として、色々なところに声をかけ、小まめに出かけていき「困っているから助けてよ」という動きであった。
- ・ 専門の災害ボランティアでなくても、普通の市民が何人か集まれば出来るという取組だった。
- ・ 50代のおばちゃんたちだが、思いをもって、「わがこと」として思えたことではじめられた。自分事として考えて今何が出来るかなという気持ちが大切。
- ・ 色々な方が支援にはいていただいたが、人と人としてのつながり、今でもつながっているありがたい。人と人のつながり、絆が大事。周りの人たちが何を困っているかを見ながら、やれることから始めてもらえれば。

以上

5-3. 【鹿児島県】参加者アンケート 集計結果

問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。(複数回答可)



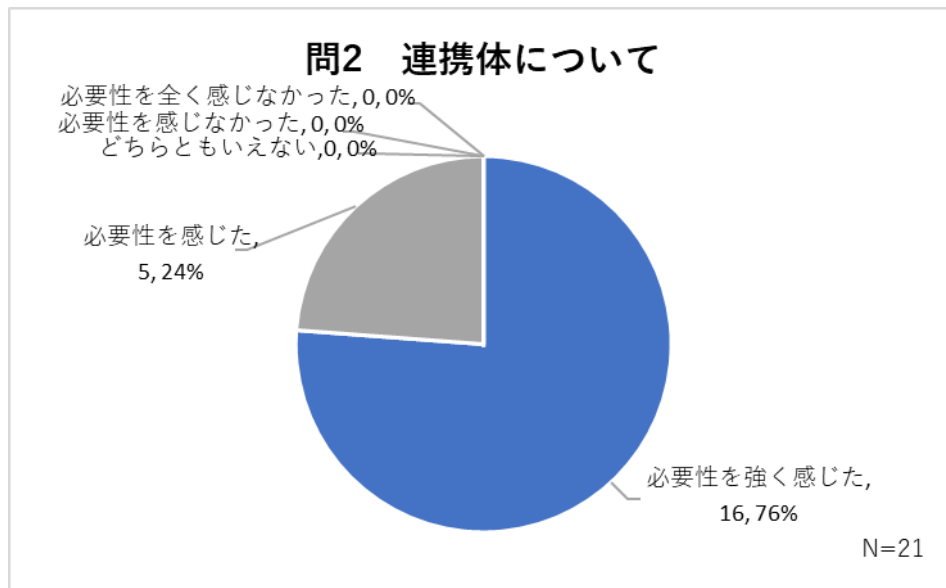
問1 所属について	件数	割合(%)
行政職員（県）	2	10%
行政職員（市町村）	8	38%
社会福祉協議会職員（県）	1	5%
社会福祉協議会職員（市町村）	5	24%
県内のNPO/NGO団体	4	19%
その他	1	5%

行政からは、「行政職員（県）/2件」「行政職員（市町村）/8件」と9件（48%）の参加であった。

社会福祉協議会からは、「社会福祉協議会職員（県）/1件」「社会福祉協議会職員（市町村）5件」の6件（29%）の参加であった。

行政・社会福祉協議会以外の参加は、「県内のNPO/NGO団体/4件」と「その他/1件」の5件（24%）の参加であった。その他の内訳は「市議会議員」であった。

問2 本日の研修はいかがでしたか。行政・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じたか。



問2 連携体について	件数	割合(%)
必要性を強く感じた	16	76
必要性を感じた	5	24
どちらともいえない	0	0
必要性を感じなかった	0	0
必要性を全く感じなかった	0	0

「必要性を強く感じた/16件」76%、「必要性を感じた/5件」24%と併せて参加者のすべてが「連携体の構築・強化の必要性を感じている」という回答であった。

問 3 研修内容を踏まえ、今後取り組むべきと考える事項をご記入ください。(自由回答)

【連携強化】

- ・ 鹿児島県大隅半島地域における関係機関の連携を強固にして災害時に備えたい
- ・ 我が町の連携を日頃のつながりとして強化する必要が早急にあると感じました。
- ・ 地域への情報伝達（広報）、社協との連携強化。住民のニーズの理解。
- ・ 地域における関係性（連携）の構築
- ・ 災害ボランティアに係る人材育成、関係する既存組織・団体との連携強化（自主防災組織・子供食堂・NPO など）。
- ・ 建設業者など、災害時に協力して欲しい民間の力の養成と、体制づくり（どこまでの作業をボランティアでお願いし、どこからが業務委託になるのか、など）
- ・ 災害時の対応について、災害ボランティア担当との事前協議強化
- ・ 平時からの関係機関、官民の連携

【様々な団体との協力関係づくり】

- ・ ボランティアセンターの設置に係る基準など
- ・ 災害ボランティアセンターを立ち上げる場合に備えて関係する機関との顔合わせと情報共有
- ・ NPO や社会福祉協議会との定期的な検討会（協議会）

【気づきがあった】

- ・ 平静時に、どのように民間（特に市民）に連携（協力）を持ち掛けるべきか、理解してもらえるのか・・・「それは行政の仕事だ。行政の責任で備えておくべきだ」とか、「丸投げしようとしている」と言われないか不安を感じた。
- ・ 大災害を経験していない行政等への研修、緊急時に誰が担当になっても(担当職員が担えない状況になっても)分かる簡素かつ実用的なマニュアル作り
- ・ NPO の立場としては、もっと行政や社協とも連携を取り、一般企業との連携も必要だなと考え直す事が出来ました。
- ・ 情報共有 & 共助について

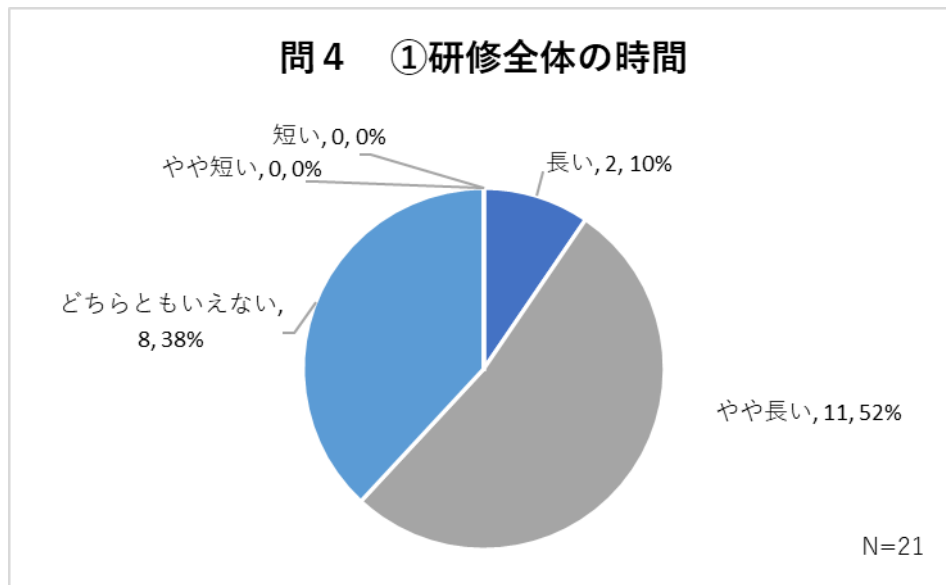
【その他】

- ・ 「正常性バイアス」の打破(防災キャンプイベント等のノウハウをご教授願いたい)
⇒危機感・地域力の向上
- ・ 支援主体のネットワークを醸成するための努力(モデルケースをご教授(情報共有)願いたい)
⇒発災時のネットワークの醸成
- ・ ボランティア保険が適用される／されない差異(なにを基準に決めているのかご教授願いたい)
⇒共助力の向上
- ・ ボランティア参加時の高速料金無料措置適用される／されないの差異(なにを基準に決めているのかご教授願いたい)
⇒共助力の向上
- ・ スフィアスタンダード等の共助等に関わる方々の基礎的な考え方の共有方法(「青年会議所等、各種団体との協働は不可欠」となっていました)が、近隣の青年会議所(鹿屋市)は共助の気持ちを持っておらず、

被災者の心を逆なでする行為を行い、全うな活動をしている方々は大きな迷惑を被りました(球磨村球泉洞(令和2年7月豪雨))

⇒素晴らしい活動を行う方々に対する精神的な保護、ボランティア活動をファッションと勘違いしている方々の更生方法・若しくは排除方法)

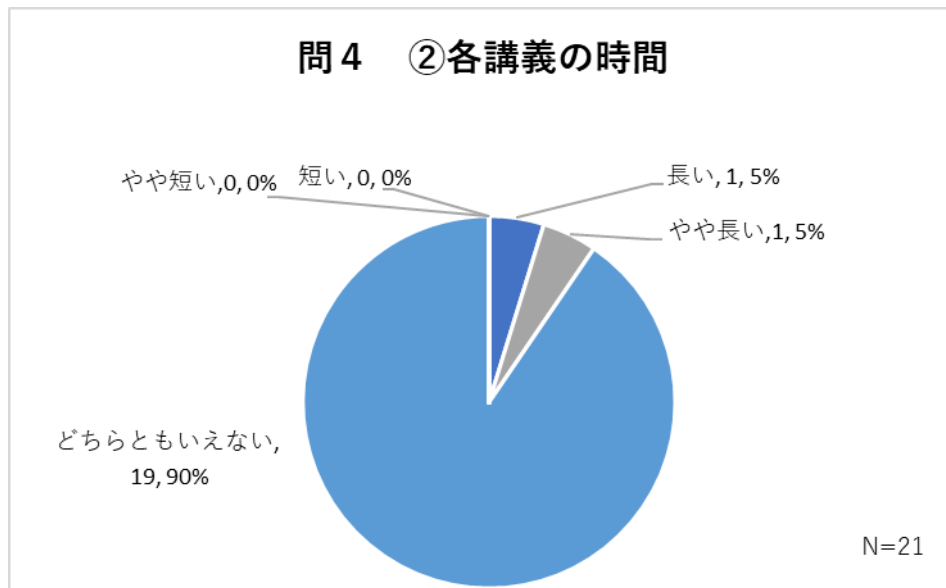
問4 研修会の運営についてお聞かせください。
 研修全体の時間は適切でしたか。



①研修全体の時間	件数	割合(%)
長い	2	10
やや長い	11	52
どちらともいえない	8	38
やや短い	0	0
短い	0	0

「やや長い/11件」52%と一番多い回答であった。「どちらともいえない/8件」38%、「長い/2件」10%の回答となった。

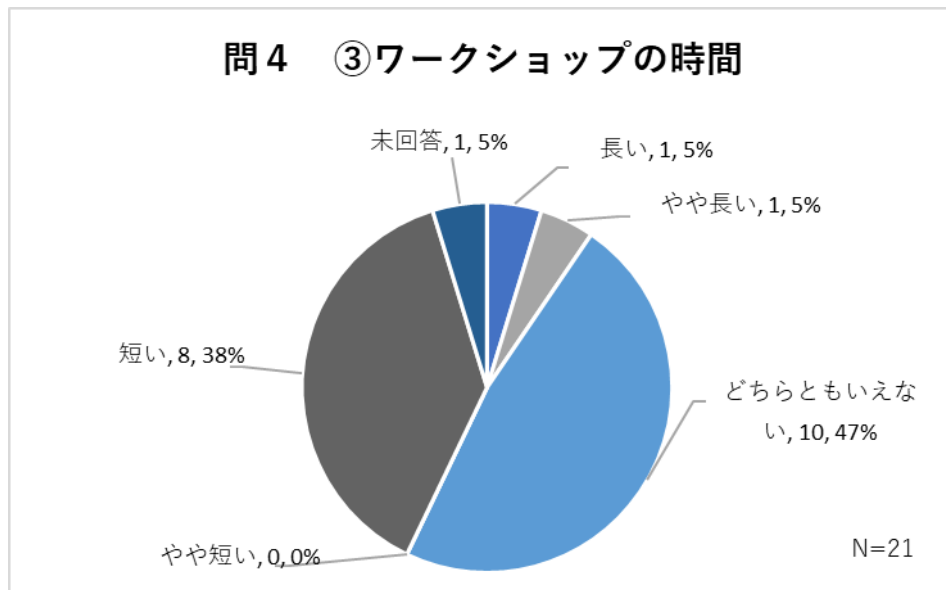
各講義の時間は適切でしたか。



②各講義の時間	件数	割合(%)
長い	1	5
やや長い	1	5
どちらともいえない	19	90
やや短い	0	0
短い	0	0

「どちらともいえない/19件」の回答が90%と一番多い回答であった。「長い/1件」5%、「やや長い/1件」5%の回答であった。

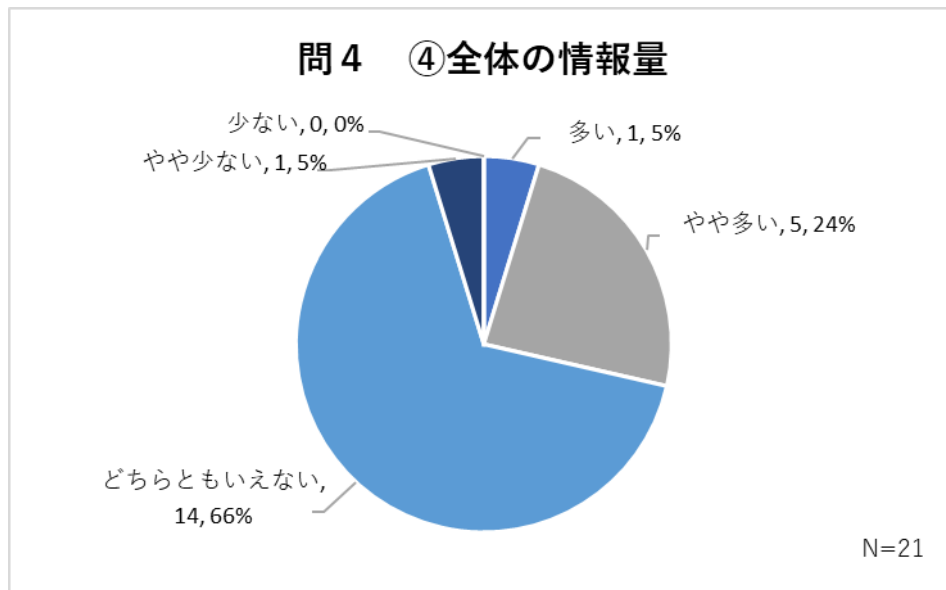
ワークショップの時間は適切でしたか。



③ワークショップの時間	件数	割合(%)
長い	1	5
やや長い	1	5
どちらともいえない	10	47
やや短い	0	0
短い	8	38
未回答	1	5

「どちらともいえない/10件」の回答が47%と一番多い回答であった。「短い/8件」38%、「長い/1件」5%、「やや長い/1件」5%、「未回答/1件」は5%であった。

全体の情報量は適切でしたか。

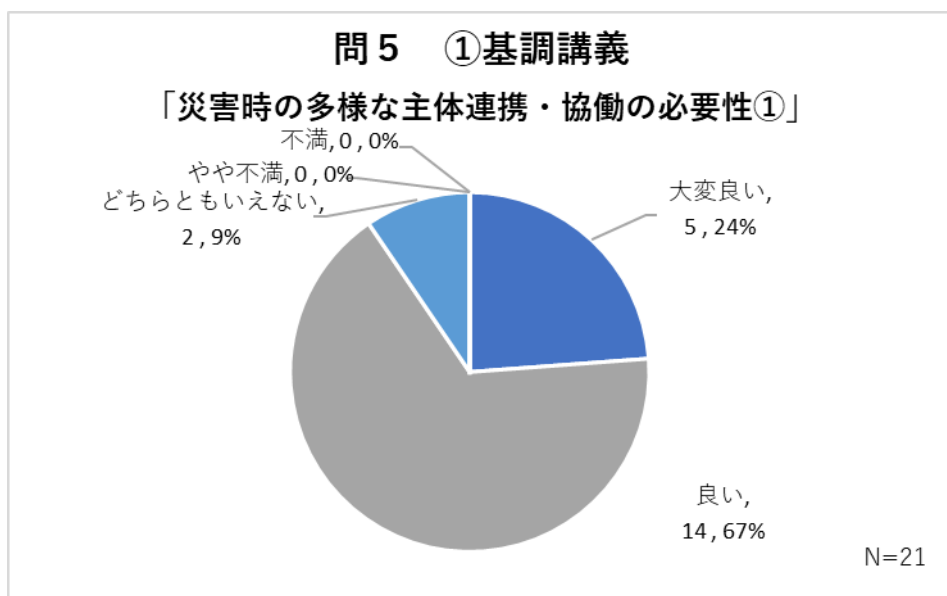


④全体の情報量	件数	割合(%)
多い	1	5
やや多い	5	24
どちらともいえない	14	66
やや少ない	1	5
少ない	0	0

「どちらともいえない/14 件」の回答が 66%と一番多い回答あった。「やや多い/5 件」24%であった。「多い/1 件」5%、「やや少ない/1 件」5%であった。

問 5 研修内容、それぞれの項目について5段階（5が最高評価）で評価し、その理由もお聞かせください。

基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性①」



①基調講義	件数	割合(%)
大変良い	5	24
良い	14	67
どちらともいえない	2	9
不満	0	0
とても不満	0	0

◆主な理由

【大変良い】

- ・ 災害発生時は主体的に関わる重要性を感じました。とても勉強になりました。
- ・ 民間団体として、自衛隊や行政、社協のサポートが僕たちのやるべき活動だと思っているのですが、まだまだ知識不足を痛感しました。
- ・ 災害時に発生する問題の全体像を知ることができたことと、国の取組みを知ることができた。

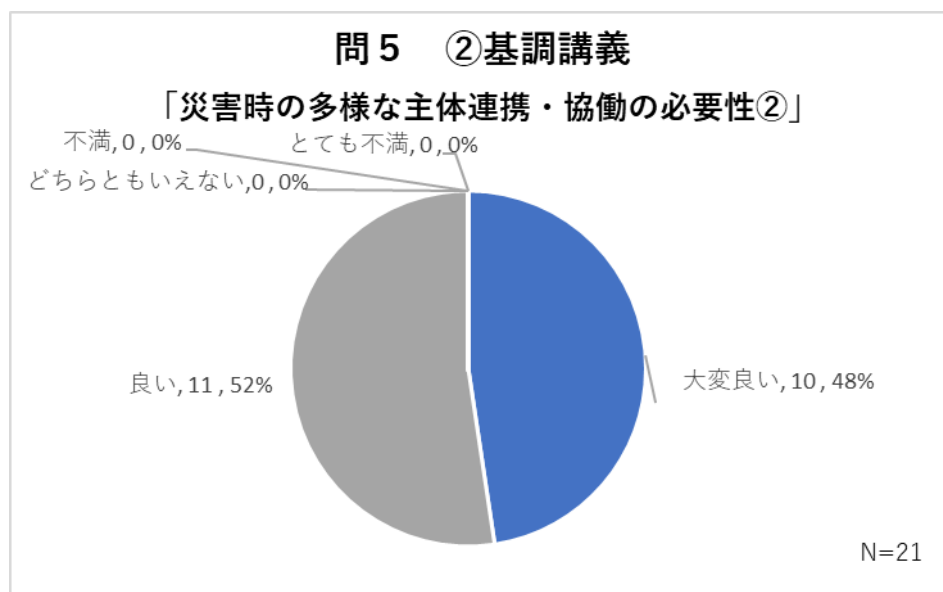
【良い】

- ・ 行政側の協力する姿勢が見えたため
- ・ 全国の災害状況の把握が改めて知ることが出来た。
- ・ 情報共有会議の重要性が理解できた。

【どちらともいえない】

- ・ 聞きたいところが省略されていたため。時間に制限があるため仕方ないが、優先順位を考えて説明すべきところは丁寧に説明していただきたかった。

基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性②」



⑥ 基調講義	件数	割合(%)
大変良い	10	48
良い	11	52
どちらともいえない	0	0
不満	0	0
とても不満	0	0

◆主な理由

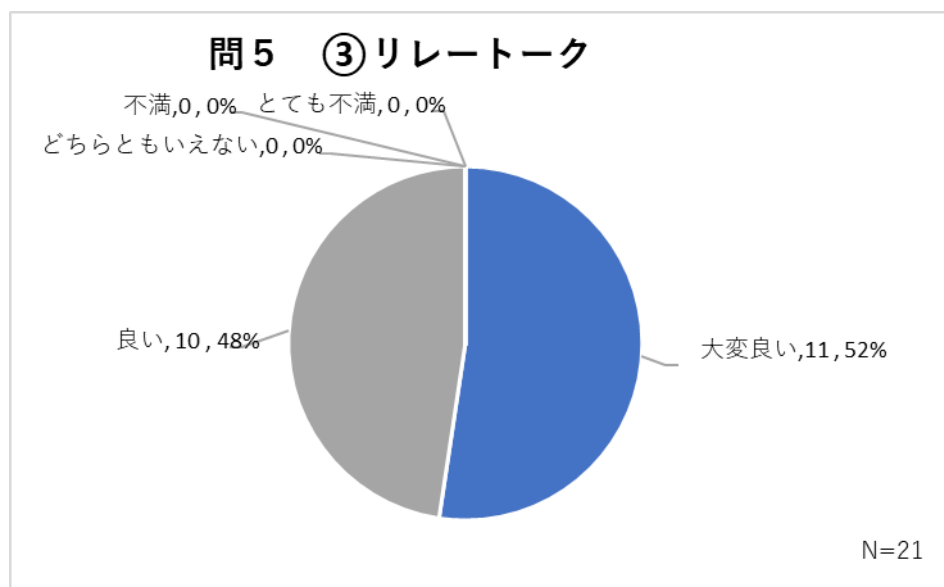
【大変良い】

- ・ 様々な団体と連携して行う災害復旧になるため協調性を保ちながら活動を行う必要性を感じた。
- ・ 積み重ねた経験を聞いて良かった。
- ・ モレ・ムラを無くす取り組みがとても大事で難しいことを実感しました。
- ・ 鹿児島は平時から動いている NPO 団体が非常に少ない為、活動団体や意見交換できる関係を作り直そうと思えた。
- ・ JVOAD という組織を知ったのも最近だった。ボランティアでお願いするには恐縮するような専門的な活動を災害発生当初から現在も継続的にされていることを知り、頭の下がる思いだ。
- ・ とても分かりやすく、理解しやすかった。
- ・ 多様な主体の連携・協働の重要性が理解できた。

【良い】

- ・ 中間支援組織の必要性を感じたため
- ・ 防災ボランティア活動内容を知ることができ、参考となった。
- ・ JVOAD の存在は、書籍やネット情報で知っていたが、今回直接活動について説明を受けることができ、有意義でした。

リレートーク「災害ボランティアの連携・協働の実例」



⑦ パネルディスカッション	件数	割合(%)
大変良い	11	52
良い	10	48
どちらともいえない	0	0
不満	0	0
とても不満	0	0

◆主な理由

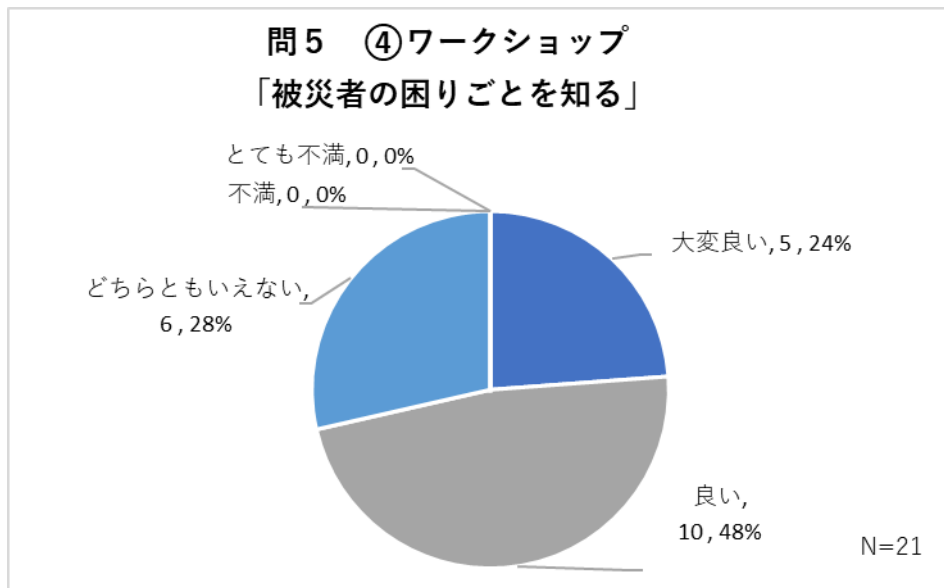
【大変良い】

- ・ 具体的な事例を聞いてとても参考になりました。繋がりがあれば一市民でも大きな力になれることに感動しました。
- ・ 全国各地でご活躍されている団体の活動を拝見することが出来、大変参考になった。
- ・ 4回もボランティアセンターを立ち上げた経験から語られる内容が、身につまされた。もし、我が町で一切の交通手段が遮断されたらどうなることか、恐ろしさを感じ、現場の混乱を想起することができた。ボランティア活動から NPO 法人まで立ち上げた松島氏の行動力と地域を動かす力には学ぶところも多かった。"
- ・ 大規模災害でのボランティア活動に関する生の声を聞くことができ、大変参考になった。

【良い】

- ・ お話はとても聞きやすかったです。ですが、本音としては九州内の活動団体や災害前から活動している方の話が聞きたかったです。
- ・ 現場の生の声が聞けたことと、リアルな思いを感じられたこと。
- ・ 他市町の経験を参考に本町でも取り組んでいけたらと思う。
- ・ 災害ボランティアセンターや NPO の活動の実態をお聞きでき、参考になりました。

ワークショップ「被災者の困りごとを知る」



④話題提供	件数	割合(%)
大変良い	5	24
良い	10	48
どちらともいえない	6	28
不満	0	0
とても不満	0	0

◆主な理由

【大変良い】

- それぞれの視点で話し合いが出来てとても勉強になりましたし、行政や社協のサポートを NPO や任意団体が出来る環境作りを必要と感じました。

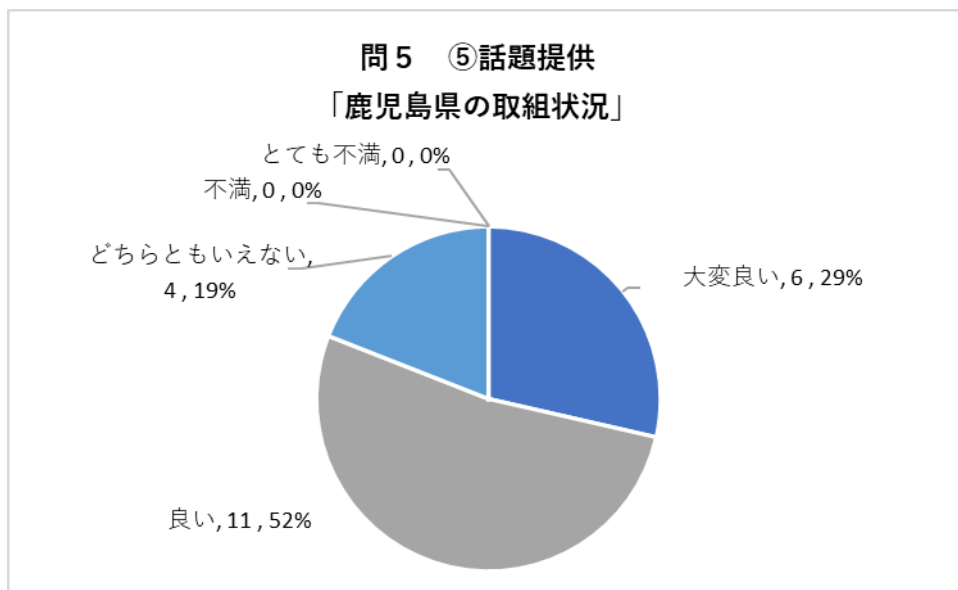
【良い】

- 住民側の視点から考えることは、重要であると思う。
- 災害が起きる前にこのような演習をすることで緊急時のシミュレーションがリアルに感じられる。自分たちの町でも定期的に行いたい。

【どちらともいえない】

- オンライン研修に不慣れで、参加者とのように対話すればよいか、分からなかった。
- もう少し時間があれば、皆さんとの意見交換も深められたと思います。

話題提供「愛知県における災害時の多様な主体連携の取組状況」



⑤話題提供	件数	割合(%)
大変良い	6	29
良い	11	52
どちらともいえない	4	19
不満	0	0
とても不満	0	0

◆主な理由

【大変良い】

- ・ 正直な意見を書かせていただきます。県の取り組みは、良いも悪くも連携を取れてない事が分かりました。

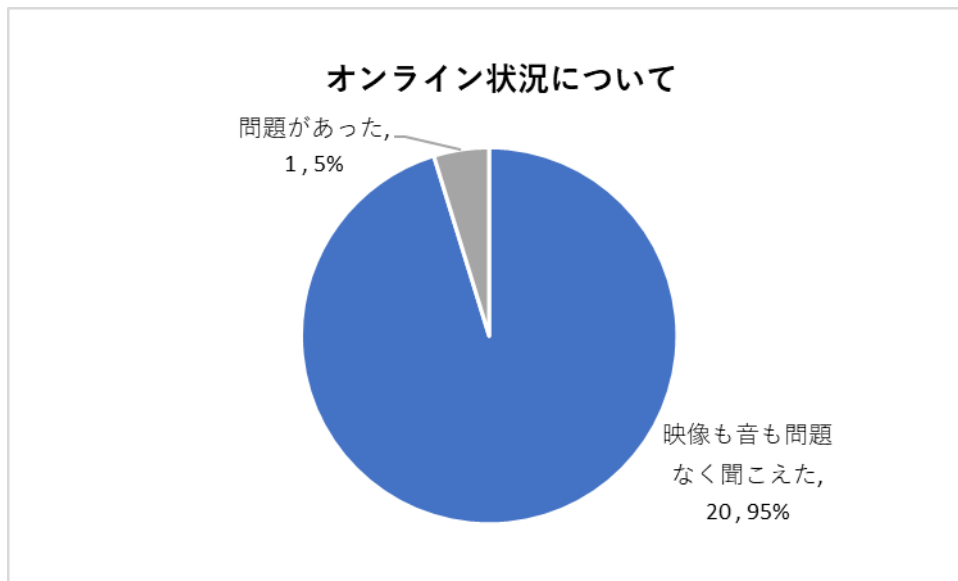
【良い】

- ・ 県も県社協へ対しても、信頼しあえる、相談しあえる関係性作りをしようと思います
- ・ 県内の現状を知ることができた。

問6 全体のプログラムを通じ、ご意見・ご感想等お聞かせください。

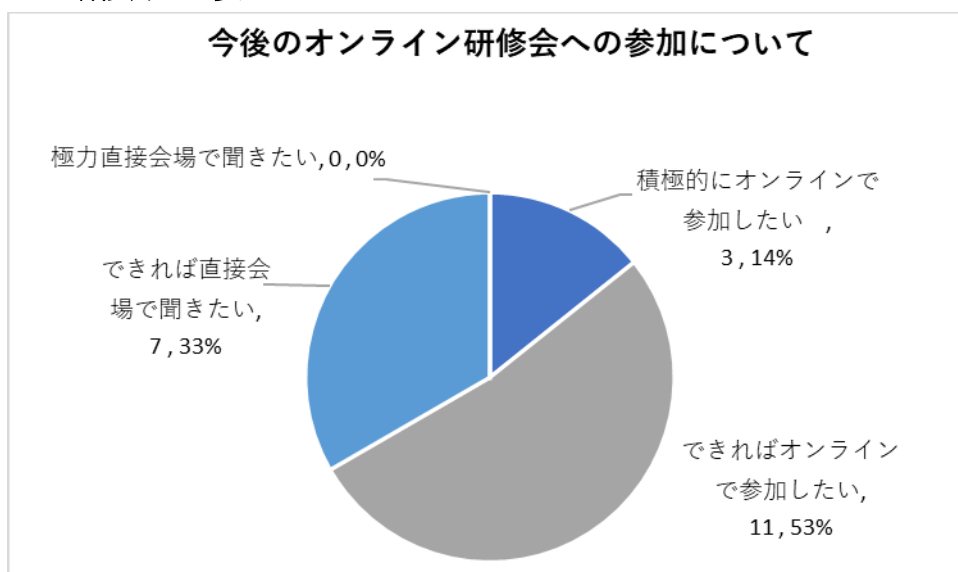
- ・ 今回の研修会こそ、行政・社協・NPO が揃ってこそこの研修会だと思いますので、今回をきっかけにして連携を強化しようと思いました。
- ・ 少し長かったですが、とても勉強になり参考にもなりました。
- ・ お疲れ様です。本日、議会があり途中退席や参加を繰り返し、ご迷惑おかけした事をお詫び致します。申し訳ございませんでした。今回の研修ですが、私は SNK に所属しており知りました。研修の周知、参加者の少なさに驚きました。災害は明日おこるかもしれません
- ・ オンラインの研修に違和感は全くなかったが、やはり顔の見られる関係を構築していくためには実際にあってネットワークを広げて行きたい。
- ・ 県社協からは事前に連絡を頂いておりましたが、県からはイベントの告知も直前まで一切なく、うちの事務局へ電話で参加お願い出来ないかとあり、内容を聞いても「何もわかりません」との返答だったみたいで、とても残念です。
- ・ 桜島と共存している鹿児島は、もう少し危機感をもち事前の対策、計画が必要かと感じております。今後とも宜しく願い申し上げます。

参考) オンラインの状況について
オンライン研修会の受講環境について



「映像も音も問題なく聞こえた/20件」で95%であった。「問題があった/1件」で5%であった。

今後のオンライン研修会への参加について



「積極的にオンラインで参加したい/3件」で14%、「できればオンラインで参加したい/11件」で53%であった。

「できれば直接会場で聞きたい/7件」が33%、「極力直接会場で聞きたい」は0件であった。

以上

6-1. 災害ボランティア連携・協働研修会

～官民の多様な支援主体の連携・協働に向けて～（静岡県） プログラム

(1) 概要

- ・日時：令和3年1月27日（水）13：00～17：00
- ・会場：オンライン（ZOOM）
- ・主催：内閣府（防災）
- ・共催：静岡県、社会福祉法人静岡県社会福祉協議会、特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会

1. 開会（13：00～13：10）

内閣府 政策統括官（防災担当）付 企画官（普及啓発・連携担当）村川奏支氏
静岡県 危機管理部 危機情報課長 吉永尚史氏

2. 基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性①」（13：10～13：30）

村川奏支氏／内閣府 政策統括官（防災担当）付 企画官（普及啓発・連携担当） 資料1

3. 基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性②」（13：30～13：50）

明城徹也氏／認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク
（JVOAD）事務局長 資料2

<休憩>

4. パネルディスカッション「災害ボランティア連携・協働の実例について」

（14：00～15：20）

【話題提供】

- ・弘中秀治氏 / 宇部市総合戦略局 ICT・地域イノベーション推進グループリーダー
- ・山崎博之氏 / 社会福祉法人長野県社会福祉協議会 総務企画部企画グループ 主任
- ・水野直樹氏 / 特定非営利活動法人ソナエトコ 理事長

資料3

【進行】

栗田 暢之氏／認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク
（JVOAD）代表理事

<休憩>

5. 演習「被災者の困りごとを知る」（15：30～16：40）

【ファシリテーター】杉村 郁雄氏 / 日本ファシリテーション協会 災害復興支援委員会 資料4

6. クロージング（16：40～17：00）

（1）静岡県における今後の連携・協働体制強化に向けて参加者へのメッセージ

- ・静岡県 危機管理部 危機情報課長 吉永尚史氏
- ・社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 福祉企画部部長代理 西村慎言氏
- ・特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会 事務局長 鳥羽茂氏

（2）閉会挨拶

- ・内閣府 政策統括官（防災担当）付 企画官（普及啓発・連携担当）村川奏支氏

以上

6-2. 有識者等コメント

(1) 演習コメント

社会福祉法人長野県社会福祉協議会 総務企画部企画グループ 主任 山崎氏

- ・ 連携するには目的を伝えていくことが大事。
- ・ 「地元主体」を発信していき、目的を伝えていくことでコーディネートが必要。

特定非営利活動法人ソナエトコ 理事長 水野氏

- ・ 熊本以降、県内・県外と仲間が増えていった。「熊本地震の時間経過から・・・」という冊子をまとめたことはポジティブな側面だった。

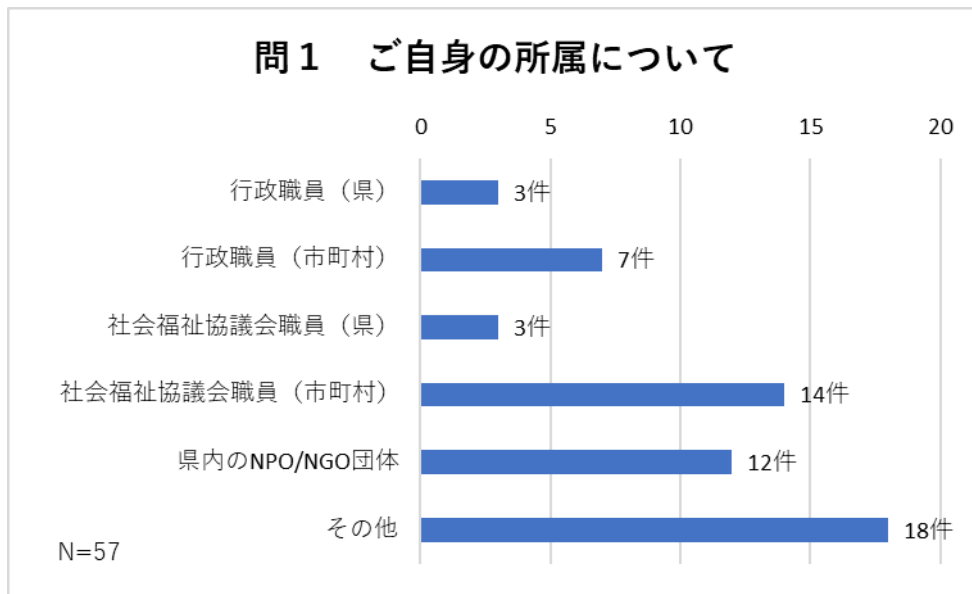
宇部市総合戦略局 ICT・地域イノベーション推進グループリーダー 弘中氏

- ・ 役所には声が大きい人のニーズはたくさんはいつてくる。ボランティアセンターで、被災者の声なき声を聴いてこられるボランティアの力は大きい。その声を役所に届けていただくことが大事。
- ・ 一方で、個別訪問されているボランティアは、情報提供を手伝いできる方というとらえ方ができる。
- ・ 例えば、被災地域で「井戸水の無料検査ができる」等、役所は紙で配布するが文字だらけの資料は見られていなく、特に高齢者には届いていないことが多い。そうしたことを確かめてもらうお手伝いをしてもらえる。
- ・ ボランティアは、役所ができないことを担っていただける存在。役所の立場で「使う」みたいなことでは困るが、「被災者のために」情報を届けてもらうという連携は大事。
- ・ ボランティアは「ただでやってもらう便利な人」ではなく、対等な立場であることは肝に銘じて置いていただきたい。

以上

6-3. 【静岡県】参加者アンケート 集計結果

問1 ご自身のご所属についてお聞かせください。(複数回答可)



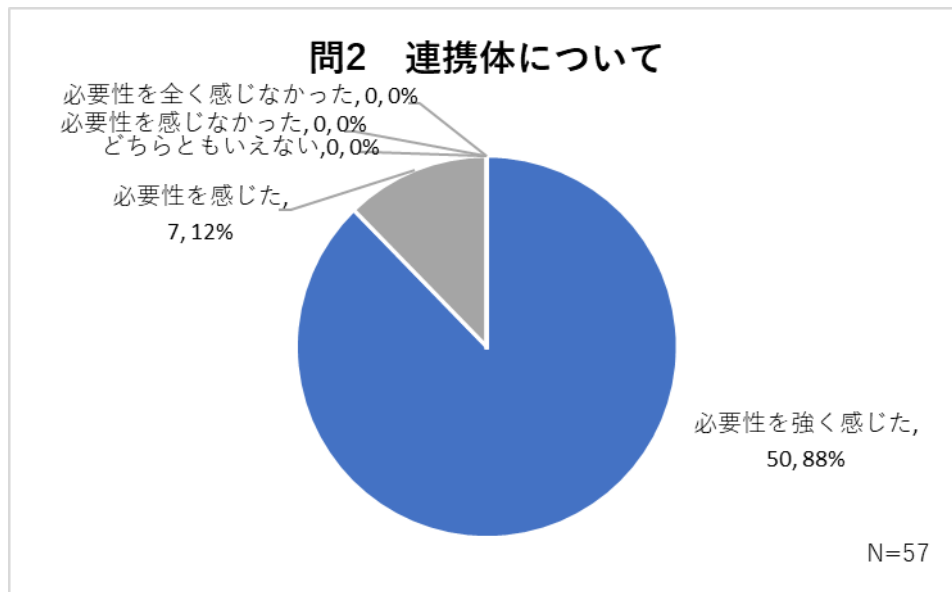
問1 所属について	件数	割合(%)
行政職員（県）	3	5
行政職員（市町村）	7	12
社会福祉協議会職員（県）	3	5
社会福祉協議会職員（市町村）	14	25
県内の NPO/NGO 団体	12	21
その他	18	32

行政からは、「行政職員（県）/3件」「行政職員（市町村）/7件」と10件（17%）の参加であった。社会福祉協議会からは、「社会福祉協議会職員（県）/3件」「社会福祉協議会職員（市町村）14件」の17件（30%）の参加であった。

行政・社会福祉協議会以外の参加は、「県内の NPO/NGO 団体/12件」と「その他/18件」の30件（53%）の参加であった。

その他の内訳は「災害ボランティア/4件」、「静岡県行政書士会」「静岡県司法書士会（静岡県災害対策士業連絡会）」「静岡県生活協同組合連合会」「静岡大学学生防災ネットワーク」「防災士会」「ボランティア団体」「企業」「公益財団法人」「宗教団体/2件」「生協」「JVOAD 会員」であった。

問2 本日の研修はいかがでしたか。行政・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じたか。



問2 連携体について	件数	割合(%)
必要性を強く感じた	50	88
必要性を感じた	7	12
どちらともいえない	0	0
必要性を感じなかった	0	0
必要性を全く感じなかった	0	0

「必要性を強く感じた/50件」88%、「必要性を感じた/7件」12%と併せて参加者のすべてが「連携体の構築・強化の必要性を感じている」という回答であった。

問 3 研修内容を踏まえ、今後取り組むべきと考える事項をご記入ください。(自由回答)

【平時からの関係性づくり】

- ・ まず関係づくりだろうと考えます。35 市町の行政担当者をはじめ市町社協、ボランティア関係者とつながっているようで、実際はまだ不十分です。関係づくりのために動きたいと思います。
- ・ 顔の見える関係づくり
- ・ 情報共有と顔の見える関係性づくり
- ・ 色々な立場の組織、団体、個人とのネットワーク作り
- ・ 他団体とのつながり
- ・ 東日本大震災以降の浸水被害に係っているので参加しました。災害時に民間企業からの協力の申し出に対応できていないと感じています。平時からこのような研修を行い、連携できるようになることを望みます。(水害時の除菌、消臭。避難所及び車中泊者用の断熱材などについて連携できず断念した経験あり)
- ・ 日頃からの連携体制が必要であると痛感した。
- ・ 日頃から顔の見えるつながりを作ること。学びも含めて、自分の引き出しを増やすこと。
- ・ 日頃の関係各所との人間関係の構築
- ・ 平時からの支援団体との関係と協力
- ・ 平時の準備、連携。顔のわかる関係づくり。
- ・ 防災を共通項にした平時からの官民企業の繋がり作り、地域住民の防災意識と具体的行動の継続的な啓発推進、縦割りといわれる行政の緊急時の住民目線の体制づくり
- ・ 連携するために、普段からつながりをつくるための会（まずは担当者レベルの顔合わせ等）が必要と感じています。

【行政、社会福祉協議会、NPO 等の連携強化について】

- ・ より行政や市内の団体と顔が見える関係性を構築していくための会議などを開催していく。
- ・ 行政、災害に関する NPO 等と日ごろから顔合わせを行っていきたい。社協本部、市役所のみ関係でなく、区ごとにも関係づくりを進めていくべきであると考えた。
- ・ 行政、社協、NPO の属性のお互いの理解が進むような働きかけ
- ・ 行政担当職員や市内の支援団体との顔が見える関係づくりをし、それぞれの立場で自分たちができること、できないことを考える機会をつくる
- ・ 災害の少ない地域に住んでおり、大規模災害は 40 年近く起こっていません。その当時最前線で活躍した方々はすでに高齢で、行政関係者でその当時を知る人はほとんどいない状況です。東日本大震災以来、全国で発災した地域に赴き、従事させて頂いた経験から何度も市の危機管理課に提言してきましたが、危機感がないように思っています。今後も市や地元社協との平時からの繋がりを構築して行きたいと思います。
- ・ 市、社協、NPO、自治体の強固な関連性
- ・ 市、社協、V C との連携と、顔合わせが特に急務
- ・ 市外のボランティア組織との連携

【市町単位の協力体制について】

- ・ 県の研修は、充実していると思います。各市町または静岡市でしたら、中部の市町村単位での研修があるとよいと思いました。
- ・ 行政、社協、災害ボランティア団体との平時からの顔が見える関係作りは行っているが、実際発災からの役割分担や確認すべきことが数多くあるため、一步踏み込んだ話し合いが必要。NPO 等とのつながりが薄いため、市内の NPO や市民活動団体とのつながりを作っていききたい。
- ・ 市町単位でのネットワークの強化
- ・ 市町単位での連携連絡の機会をもっと設けるべきだと感じた。まず、地元の中で官・民関わらず、役割分担をはっきりさせたり、誰が協力をしてもらえるのか、洗い出して体制をしっかり構築する必要があると感じた。
- ・ 市町単位で情報共有会議をすることができる体制の構築
- ・ 隣接の市町のグループとのつながり
- ・ ボランティアセンター運営者の経費負担については、早急に自治体と社協（NPO 等）との協定締結が必要だと感じる。
- ・ 本自治体では、社協と共に協定書及び委託契約書の作成に取り組んでおり、これからの密に連携をとることを踏まえ、他団体との顔合わせを実施しようと考えている。

【地域力の向上について】

- ・ 官民の連携も必要だが民間の横のつながりを強くしたい。
- ・ 現在は災害ボランティアネットワーク函南という任意団体と主にボラセン立ち上げ等を実施していますが、今後は地元の商工会や青年会議所等の団体などと、具体的な連携内容を踏まえた上で災害時の連携を図る必要性を感じました。
- ・ 自治体ごと・地区ごとの密な関係（協議機会）

- ・ 被災者の立場に立った支援、気付きの必要性から、コロナによる地域力を高めるための連携について関係者と協議、準備をしていきたい。
- ・ 富士市では行政・社協・ボランティアの平時からの、顔の見える関係や、連携の取り組みは行われていると思うが、NPO や技術力を持つ団体との関係は未だできていないと思われる。現在の三者連携で終わらない、四者、五者…と、より広い連携が必要なのだと思います。また、グループワークでは、自主防や区・町内会など地元単位の地域との、平時からの関係づくりも大事なのだと思います。

【訓練の必要性について】

- ・ 実践的な連携訓練
- ・ 平時からの各種団体との顔の見えるお付き合い、連携、災害時を想定した災害ボランティアセンター立ち上げ及び運営の訓練等が必要であると感じました。
- ・ 有事への対応についてシミュレーションを行う。また、関係機関とも連携を取れるようにする。
- ・ 自治体と地域住民との合同訓練を実施する事の必要性を感じました。県事業として、ジュニア防災士講習を授業の中で取り組む事が始まりますので、命の大切さ準備を怠りなくなどを伝えたいと思います。
- ・ 災害発生時の初動態勢の重要性を感じた。情報共有会議のあり方や、日々の訓練を検討していきたい。

【災害発生時の体制について】

- ・ 行政の災害時受援体制の検討、確認
- ・ 災害発生後、被災者ニーズの把握し、行政各部署との連携を取った支援体制の構築

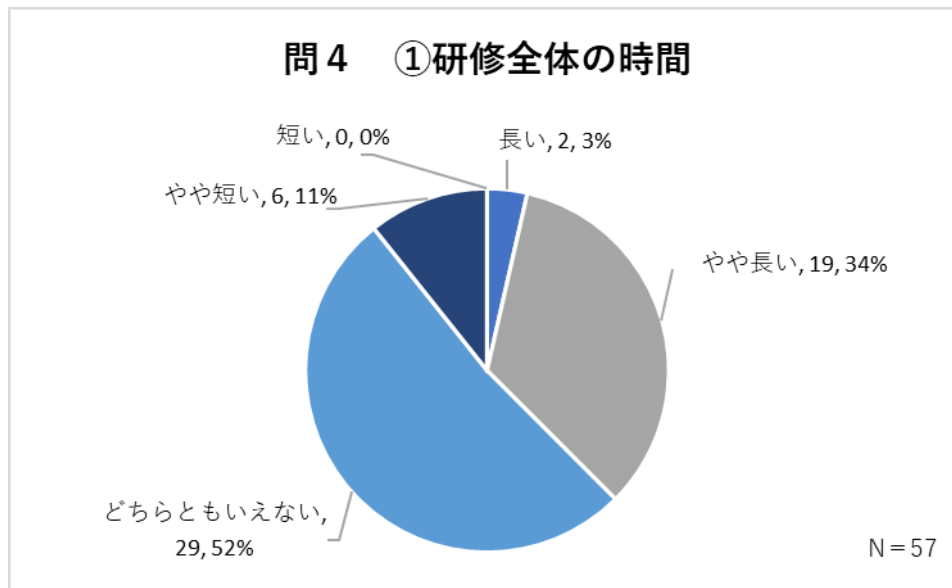
【地域の連携について】

- ・ 県域の連携を具体的に進めること、中間支援組織と連携するための情報共有や意見交換など、市町域の連携促進をサポートできる人材の発掘と関係づくり

【その他】

- ・ 近い将来必ず来る南海トラフ地震に備え、このような研修会を一人でも多くの人が繰り返し受けられるよう行って頂きたい。
- ・ 行政目線、中間支援組織目線、実際に現場で実働するボラ目線、被災された人目線と多様な目線で新たに災害へコロナ禍で立ち向かう方法を考えねばと思わせられるとてもよい機会でした。是非地域の市町職員や社協職員にも参加をしていただきたかったです。ネットという環境下で会場に出向く労力がない分、参加はしやすくなっているかと思います。
- ・ 災害ボランティア全体の中の自分たちの立ち位置(できること、期待されていること)を明確にしたい。

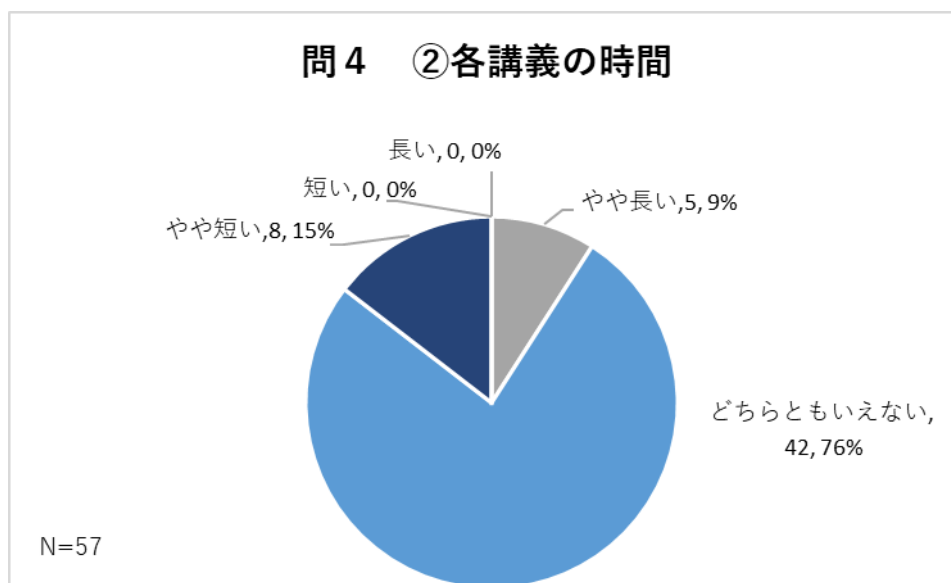
問4 研修会の運営についてお聞かせください。
 研修全体の時間は適切でしたか。



①研修全体の時間	件数	割合(%)
長い	2	4
やや長い	19	33
どちらともいえない	29	51
やや短い	6	11
短い	0	0
未回答	1	2

「どちらともいえない/29件」51%と一番多い回答であった。「長い/2件」4%、「やや長い/19件」33%であった。「やや短い/6件」11%の回答となった。
 未回答は、1件で2%であった。

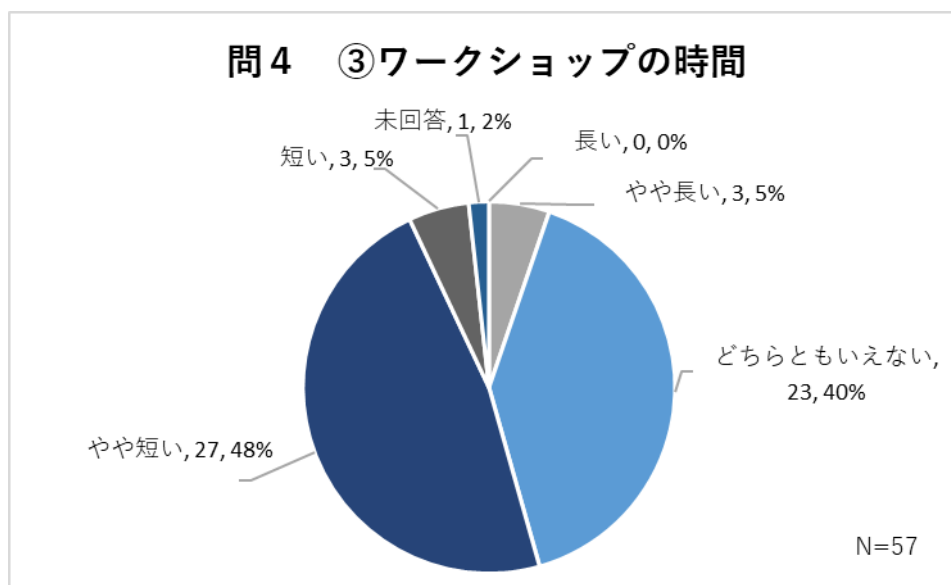
各講義の時間は適切でしたか。



②各講義の時間	件数	割合(%)
長い	0	0
やや長い	5	9
どちらともいえない	42	74
やや短い	8	14
短い	0	0
未回答	2	4

「どちらともいえない/42件」74%と一番多い回答であった。「やや長い/5件」9%であった。「やや短い/8件」14%の回答となった。
未回答は、2件で4%であった。

ワークショップの時間は適切でしたか。

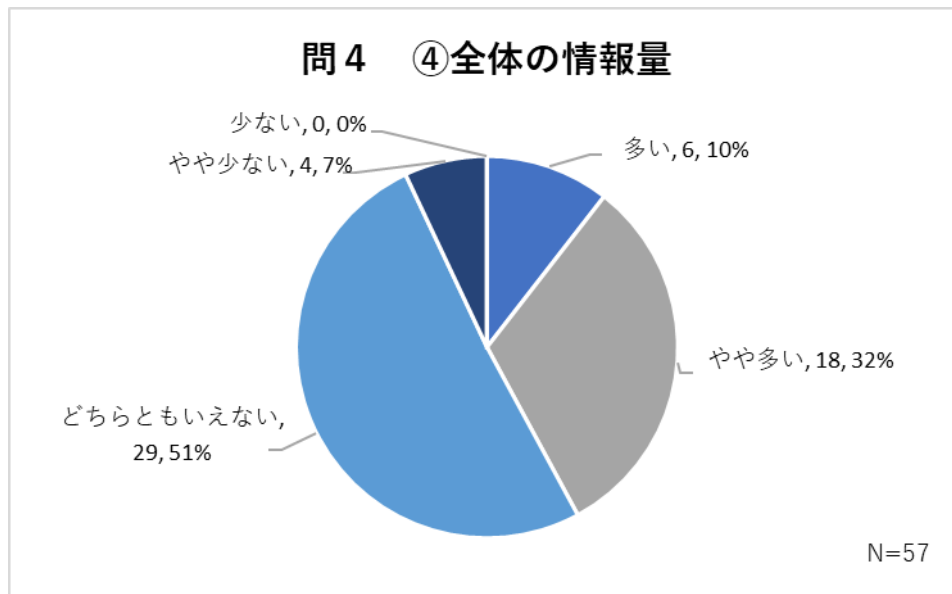


③ワークショップの時間	件数	割合(%)
長い	0	0
やや長い	3	5
どちらともいえない	23	40
やや短い	27	47
短い	3	5
未回答	1	2

「どちらともいえない/23件」40%と一番多い回答であった。「やや長い/3件」5%であった。「やや短い/27件」47%、「短い/3件」5%の回答となった。

未回答は、1件で2%であった。「長い」は0件であった。

全体の情報量は適切でしたか。

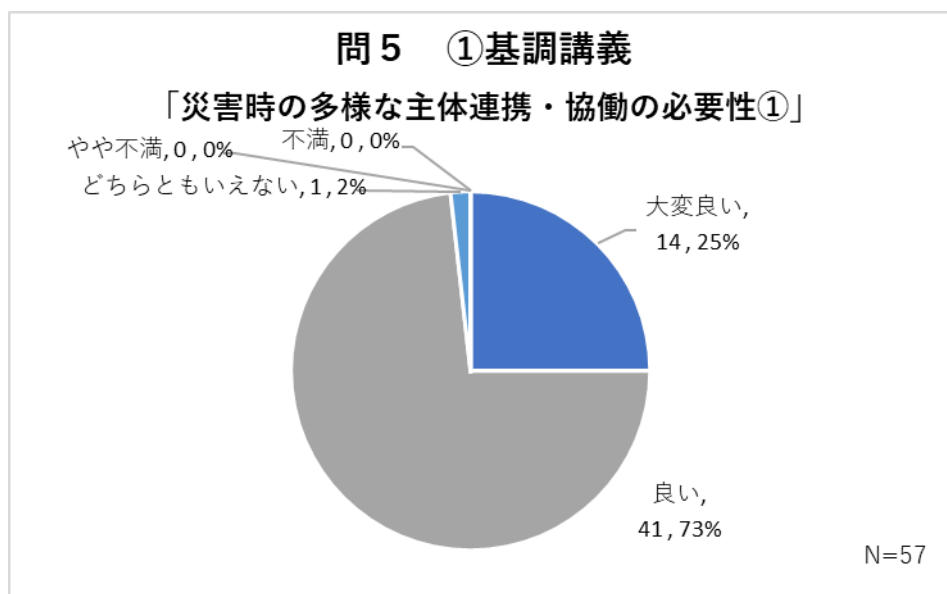


④全体の情報量	件数	割合(%)
多い	6	11
やや多い	18	32
どちらともいえない	29	51
やや少ない	4	7
少ない	0	0

「どちらともいえない/29件」の回答が51%と一番多い回答であった。「多い/6件」11%、「やや多い/18件」32%であった。「やや少ない/4件」7%で、「少ない」の回答はなかった。

問 5 研修内容、それぞれの項目について5段階（5が最高評価）で評価し、その理由もお聞かせください。

基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性①」



①基調講義	件数	割合(%)
大変良い	14	25
良い	41	72
どちらともいえない	1	2
不満	0	0
とても不満	0	0
未回答	1	2

◆主な理由

【大変良い】

- ・ 内容は適切と思うが、全体の情報量が多い。2～3回に分けて開催し、振り返りや今後の方向、各自の考えを深める時間を設け、参加者同士の交流なども加えることも可能と思ったため
- ・ やはり官民の連携の必要性を感じた。
- ・ 距離が縮まった。
- ・ 現在の、ボランティアの状況がわかるので、とてもありがたいです。ボランティアも常に変化していると思いますので、随時研修してもらえると有り難いと思います。
- ・ 国として、災害ボランティアの存在を重要視していただいていることがわかりとても心強く感じました。また、全国の災害におけるネットワークについての話も大変参考になりました。
- ・ 国としての官民連携の意向が再確認できました。情報量は沢山でよかったです。今後の活動に活かせるよう再読していきたいです。
- ・ 国としての考え方を聴ける良い機会でした。
- ・ 内閣府は、法律の下地を作り、検討し広めるころだだと思います。大所高所からの判断ですので、

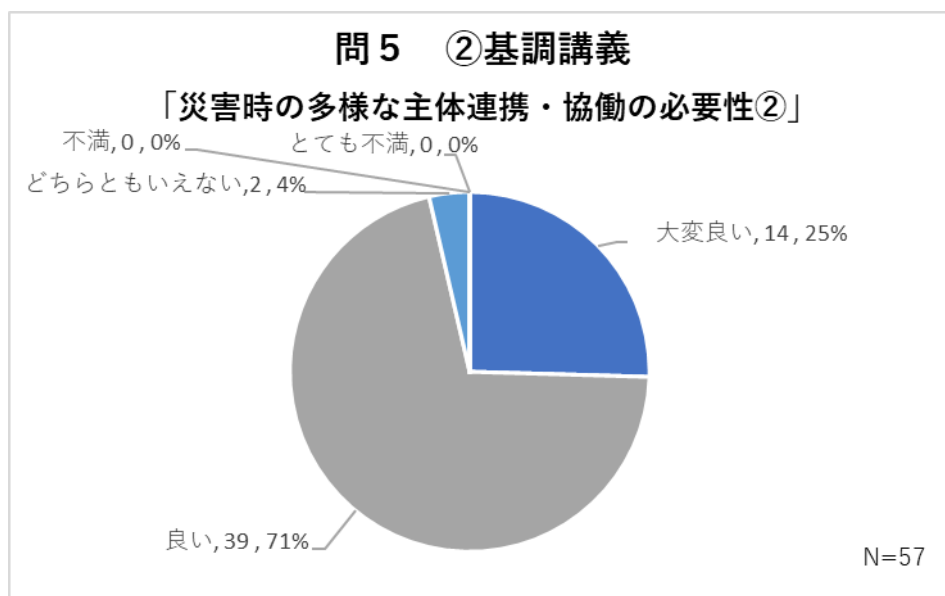
良いと思います。

- ・ 俯瞰された情報が出されていたと思います。行政担当職員をはじめ、災害にかかわる人にしてみるとわかりやすく情報提供されていたと感じました。

【良い】

- ・ 課題となっている災害廃棄物処理の実例を聞いたことと解決に至らない課題の提示があったこと
- ・ 研修の目的を冒頭で挙げていただき聞きやすかった。
- ・ 国の災害対応の仕組みや動きを知らない人たちに伝える内容としては良かったと思います。
- ・ 国の方向性を直接聞く機会が日頃ないので、興味深かった。
- ・ 国レベルの動きをまとめて知ることができました。
- ・ 資料が整理されており分かりやすかった。
- ・ 情報共有会議の必要性、有効性の理解が事例を通して紹介いただき参考になった。
- ・ 静岡県内でいろいろな支援ができる企業があると思います。災害時にどのような支援ができるか平時にアンケートや提携をしてはいかがでしょうか。ちなみに当社は先日ヤフージャパンが事務局をしている「緊急災害対応アライアンス SEMA」に加入しました。
- ・ 導入として良かったと思う。
- ・ 内閣府といった大きな行政機関の立場からの災害時の連携というテーマでの話は、思っていたより分かり易かったです。
- ・ 内容としては良かったのですが、時間の制約上仕方がない事ですが、資料の説明を一部割愛されていたので、内容があまり頭に入ってきませんでした。
- ・ 内容はよかったが、情報量が多かった。
- ・ 内容は良いと思いましたが、研修会全体の中ではもう少しコンパクトにご報告いただいてもよかったですかなと感じました。
- ・ 被災地の災害対応が聞けた
- ・ 分かりやすく資料がまとまっている

基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性②」



⑧ 基調講義	件数	割合(%)
大変良い	14	25
良い	39	68
どちらともいえない	2	4
不満	0	0
とても不満	0	0
未回答	2	4

◆主な理由

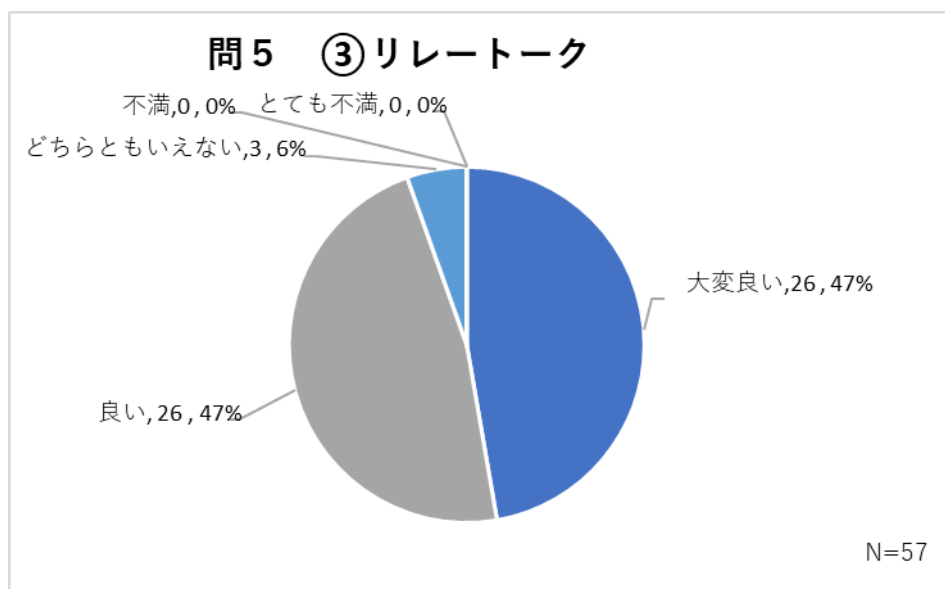
【大変良い】

- ・ 「繰り返される被災地の課題（いつものパターン）」で、床下対応（水害）、避難所（寝床）、コロナウイルス対応について当社はノウハウを持っていますのでお役に立てると思います。
- ・ コロナ禍の災害ボランティアの受入れについての考え方や実際の被災地の話を聞くことができたので勉強になった。
- ・ 「地域の対応力」を強化するために、本市でできることを考えていきたいです。"
- ・ とてもお世話になっており、有り難うございます。連携・協働の大切さの認識が広がっていくことを期待します。宜しくお願い致します。
- ・ 何度か明城さんのお話は伺っており、整理された情報提供をしてくださっていて、わかりやすかったと思います。
- ・ 全国で情報共有会議が多様な機関で集まり行われるのが普通になって来ているのが確認できました。
- ・ 恥ずかしながら、貴団体の存在を初めて知り、取り組み等勉強となる部分が多かったです。
- ・ 平時からのつながりが、有事には重要になることを改めて実感できた。
- ・ 民間の視点で災害現場での活動を知る機会となったため

【良い】

- ・ JVOAD について知ることができて良かった
- ・ NPO や JVOAD の災害対応の仕組みや動きを知らない人たちに伝える内容としては良かったと思います。
- ・ イメージ図が秀逸
- ・ 繰り返される被災地の課題一覧から担い手と調整力不足を再認識することができた。連携の必要性の再認識と専門的な支援活動がコロナにより更に困難になるのではないかと感じた。
- ・ 現場からの状況がよくわかった
- ・ 個々の支援団体の繋がり自体が強固であっても支援主体間が連携し、それをうまくコーディネートするにはまだまだ課題が多いように感じました。
- ・ 講義時間が 20 分と短かった。立上げることとなった経緯から中間組織としての機能を聞くことが出来た。
- ・ 災害ボラセン立ち上げ等の現場の意見でとても分かり易かったです。
- ・ 内容としては良かったのですが、時間の制約上仕方がない事ですが、資料の説明を一部割愛されての研修だったので、内容があまり頭に入ってきませんでした。
- ・ 理解しやすかった。
- ・ 良いのですが、上から話されているような、感じを受けました。
- ・ 連携や支援調整の事例を聞きながら静岡の現状を考えることができました。

リレートーク「災害ボランティアの連携・協働の実例」



⑨ パネルディスカッション	件数	割合(%)
大変良い	26	47
良い	26	47
どちらともいえない	3	5
不満	0	0
とても不満	0	0

◆主な理由

【大変良い】

- ・ ここで少し時間をとり見交換してもよかったかなと思います。
- ・ その道のスペシャリストが、自分の実体験を淡々と話されたことに共感を覚えました。よかったです。
- ・ パネリストの皆さんの立場や経験をもとにした事例が、これからの平時からの活動に活かしていくための材料として受け取れました。起きては困る災害ですが万が一に備えて地元の仲間と共有したいと思います。
- ・ 近年の災害支援についてそれぞれの立場からの話が聞けて良かった。出来ればもう少し詳しく聞きたかった。
- ・ 具体的な内容が聞けて、有り難いです。とても参考になりました。
- ・ 具体的に官民の連携が功をなした事例が聞けたので、市内の支援団体にも共有したい内容だった。
- ・ 現場の生の声が聞こえて良かったです。特に長野県社協さんの事例は大変興味深く、今後の参考となりました。(地域の団体・機関との連携について)。時間があればもう少し詳しくお聞きしたかったです。
- ・ 実際に業務に従事されたそれぞれの立場からお話をいただくことが同時にできたことが良かった。

- ・ 長野県社会福祉協議会での取組を聞かせていただき、立ち上げ、運営のスピードが速くとても驚きました。社会福祉協議会を軸として、地域やボランティア、被災者などとのマッチング、コーディネートの方法が素晴らしいからこそなのかな、と思いました。宇部市の弘中さんから行政側の視点で平時から職員数が足りていない上、災害発生時にはその業務量が膨大になり業務過多になることを代弁していただき、とても有り難かったです。NPO 法人ソナエトコ水野理事長からは、団体設立の経緯が面白いと思いました。仲間の集まりだけで終わるのではなく、NPO 法人として活動され、災害時の活動についても気づかされる点があり参考になりました。
- ・ 通常の講義内容だと、当たり前ですが行政目線になることが多く、他団体の目線での考え方など、参考になる部分が大変多いと感じました。特に長野県の話は新鮮に感じた。ボランティアでの農業支援はあまり聞いたことがなく、あったとしてもかなり後回しになるところを、さすがはリンゴ県の長野。復興の象徴的な役割を担っているなと感じたい。
- ・ 様々な立場の方の経験談を1度に伺うことができたことがよかった。同じ災害で違う立場の方のお話だとなお、役割分担等のイメージができるのではないかと思った。
- ・ 立場の異なる方々が災害時の多様な主体連携・協働の実例のお話をして下さり、置かれた立場での発言が明確で良かったと思います。コーディネーターの栗田さんも発題内容にコメントを差し込んでくれより事情が分かりました。余談ですが、栗田さんは、ご自宅のお寺さんからのご参加でしたか?西陽が暖かそうでした。
- ・ 立場の違う三者三様の対応を知ることができた。進行がよかったと思う。
- ・ 連携、協働については回を重ねて無駄はないと思います。
- ・ 話題提供者の方々の思いと視点に触れて勉強になりました。弘中様のお話が楽しかったです。

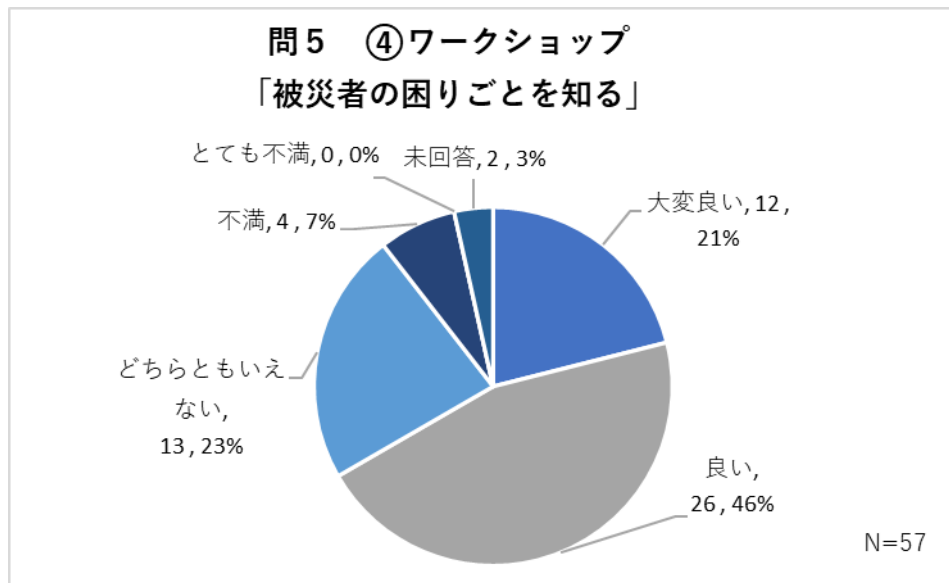
【良い】

- ・ 被災地の苦悩話やそれを乗り越えるために必要なのは、人や団体とのつながりが大切という話が勉強になりました。質問ができる時間があるとよいと思いました。
- ・ 具体的な事例を知ることができて良かった。1～2人でも質問の時間を設けるとなお良いと感じたそれぞれの属性での事例提供と、それに対しての栗田さんの質疑が良かったと思います。
- ・ それぞれの立場での困りごとや取組みが正直に聞いた部分があって良かったです。
- ・ それぞれの立場の違いが理解できた。
- ・ 行政・社協・NPO から貴重なお話をお聞きすることができたが、3者が実災害で体験されたことについてもう少し深掘してお聞きしたかった。
- ・ 少し時間が足りなかった。もう少し意見交換できたらよかった
- ・ 長野県社協山崎様の講話を聞き、平常時からの連携・協働の重要性を学ぶことが出来た。また、市民一人一人のニーズに応じていくのではなく、住民の意識を一つにしていく取り組み(One Nagano)を当会でも推進していけるように企画していきたいと思う。
- ・ 内容が濃かった分、もう少し時間があれば余裕を持って聞けたかなと思います。

【どちらともいえない】

- ・ 全体的に長かったので集中力が切れてしまいました。
- ・ 3人それぞれの考えを聞くことが出来た。

ワークショップ「被災者の困りごとを知る」



④話題提供	件数	割合(%)
大変良い	12	22
良い	26	47
どちらともいえない	13	24
不満	4	7
とても不満	0	0
未回答	2	3

◆主な理由

【大変良い】

- ・ グループ分けでも他団体とのコミュニケーションを取ること、考え方の違いなどを感じ、話す側聞く側ともに勉強となりました。
- ・ 机上のことではなく現実味を帯びて考えることができた。
- ・ 初めての経験で、なれない部分がありました。ただ、実際にこのような機会がある可能性もあり、今回は経験できて良かったです。
- ・ 同じグループの方の経験などが色濃く書き出されており、色々と気づきがありました。
- ・ 様々な状況を把握して、ニーズを拾い上げる必要性を改め感じる事ができた。
- ・ 立場が違うと、全く違う問題が出てくるので、気づきを感じるいい機会でした。

【良い】

- ・ 状況付与が現実的なものであったので、とてもイメージしやすかったです。しかしながら、いかにせん時間が短すぎたですね。できれば2クールのセッションができるとよかったですかなと思いました。
- ・ ワークの取り組み方で困りごとを各立場で考えることができました。良いワークなのでもう少し時

間があったら。また…その後のグループ分けも行政職、ボランティア、社協、地域組織など多種のメンバーで話ができよかったです！

- ・ もう少し各機関と意見交換する時間がとればよかった。
- ・ 個人ワークをすることで明確になった。ただし、参加者の災害ボランティア経験に差があると思うので、個人ワークの時間は短いと感じた。また、画面共有、口頭だとバラバラで改善が必要だと思った。
- ・ 事前に付与カードは見ていましたが、実際にはその場で考えて打ち込みましたので、時間が足らず深く考えられなくて、情けないくらいの思考内容でした。他の皆さんの発言は良かったです。
- ・ 時間が短かったのが残念です！
- ・ 自分では気づかなかった視点を気づくことができた。
- ・ 少人数で意見交換でき、時間を有効に使えました。
- ・ 少人数によるグループワークにより、行政、社協、NPO、ボランティア団体それぞれの視点からみた困りごとを共有出来て良かった。
- ・ 状況付与として3パターン用意されており、参加者の立場で考えることと、違う立場で視点を変えると新たな困りごとに気付くことができ、それを共有できたこと。
- ・ 身近な市の考えが聞けた

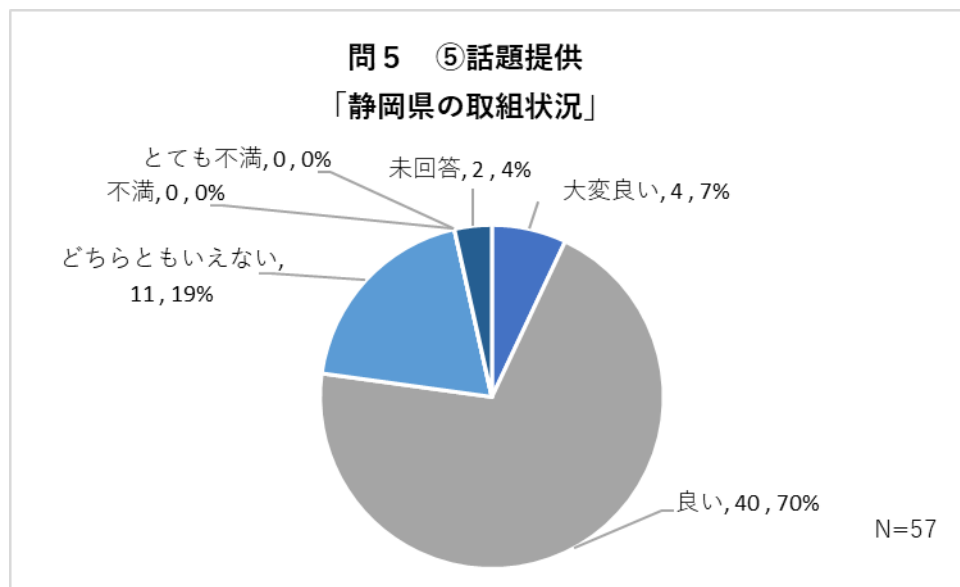
【どちらともいえない】

- ・ 演習としてうまく消化できなかった
- ・ 共有の仕方を勉強しておらず、手書きで参加をしました。もう少しテーマを絞ってディスカッションが出来れば良いと思いました。
- ・ 決まった進行を事前に仕込んでおかないと、限られた時間では難しいですね
- ・ 困りごとを出して、それについてのワークや質問等が無かったので、それに対しての何かがあったら良かったと感じました。
- ・ 参加者の経験や意識によっては難易度が高いかもしれないと思ったため。想像力の必要性を強く感じました。
- ・ 仕事のため途中退席しました。
- ・ 事前に各自が演習課題を済ませておいたほうがよかったと思います。グループディスカッションにおいてファシリテーターがいると深掘りできたのでは。
- ・ 時間が短かく感じた。ただ、オンラインなので、あまり長いのも間延びしてしまうと思う。
- ・ 出来れば演習の解説をもう少し詳しくして欲しかった

【不満】

- ・ 困りごとの洗い出しの先にも進んで皆さんからの知恵や考えも共有したかったです。
- ・ 困りごとを出させ、投げただけで終わったという後味の悪い感じ。
- ・ 困りごとを予測して書き出す、というのはわかったが、それを話し合っただけでどうしたいのか、グループ討議の意味が討議前の説明では見いだせなかった。

話題提供「静岡県における災害時の多様な主体連携の取組状況」



⑤話題提供	件数	割合(%)
大変良い	4	7
良い	40	73
どちらともいえない	11	20
不満	0	0
とても不満	0	0
未回答	2	4

◆主な理由

【大変良い】

- ・ それぞれの立場からのメッセージから、社協だけでできないことも、たくさんの関係機関の力が集まることで乗り越えられるような気持ちになり、励みになった。
- ・ 各組織の方が認識できて良かったです。
- ・ 振り返りとして重要なポイントをおさらいしてくれることで、考え方の方向性が定まりました。

【良い】

- ・ 皆さんの立場の今後の考え方が分かり良かったです。
- ・ 行政、社協、NPO それぞれの立場からのメッセージの共通点は、「協働」「連携」でした。これを市町村単位でも浸透できるよう実践していきたいと思います。
- ・ 今後の課題やすべきことが明確に示されたと思う
- ・ 今後も地域力を高めるために、連携について多様な機関と話し合える場が必要と素直に感じた。
- ・ 最後に貴重な情報を得ることができました。
- ・ 振り返りとして整っておりよかったですと思いました。
- ・ 力強いことばを聞かせていただきましたので、期待します！
- ・ 特になし

【どちらともいえない】

- ・ 少し長かったような気がしました。Web なので、バズセッションなどができないので難しさが増すと思いますが。
- ・ 全体の情報量が多いので、今回のプログラム構成としてはどちらともいえない感じがしました。内容は悪くないのに、参加者の疲労感が出る時間です。
- ・ 仕事のため途中退席しました。
- ・ 疲れていたのであまり集中できなかったが、熱意は伝わった。
- ・ どうしても挨拶したいのですが、御三方共に、あまり役立つお話とは思えませんでした。

問6 全体のプログラムを通じ、ご意見・ご感想等お聞かせください。

【オンラインでの参加について】

- ・ オンラインで研修が出来たことが、良い経験だったと思います。また、ボランティア活動の近況がわかったことが有り難いです。コロナの状況が終息すれば、直接が良いと思います。今後ともよろしく願いいたします。
- ・ オンラインで講義に集中するのは結構大変だとわかりました。情報量が多かったので、もう少し時間があれば余裕を持って聞けたかなと思います。貴重な資料の数々、改めて読み直します。
- ・ オンラインの操作は初めてでしたが思ったより楽にできた今後も出来れば参加したい。
- ・ リアル&オンライン開催の予定であったところ、オールオンラインになって大変だったと思います。企画運営お疲れさまでした。
- ・ 資料の枚数が多すぎて、印刷が大変でした。事前に用意した方が、書き込めるかなと思い印刷しました。説明で使用するもの以外は、画面共有で見える程度で良いかなと思いました。
- ・ 人とのつながりを生み出す場としての意義も研修会にはあるので、コロナ禍においては仕方ないが、会場開催が可能になった場合は、オンライン一辺倒にするのは再考してもらえればと思います。
- ・ 半日のオンライン研修が初めてでしたので、少々疲れはありましたが、一つ一つの講演や事例がコンパクトにまとめてくださって、とてもわかりやすく、興味深いものでした。是非、行政担当者や市内支援団体にも共有したい内容でした。ありがとうございました。

【時間配分】

- ・ 内容が充実していた分、開催の時間をもう少し長くしていただけたらと思いました。どうもありがとうございました。
- ・ 演習で、他の立場、他の地域の方々と意見交換ができたのが有難かったです。時間の都合上難しいとは思いますが、もう少し多くの方々(7名くらい)からも、ご意見がうかがえると、尚有難かったと思います。本日は大変貴重な機会を頂戴し、誠にありがとうございました。
- ・ 各研修時にこまめに休憩を入れていただけると助かります。講話の内容は、それぞれで1つの講演会をやるような内容だったため、また話を詳しく聞きたいと思いました。
- ・ 良くまとめられた時間配分だったと思います。自分が機器に不慣れのため、お教を頂き感謝いたしました。スタッフの皆様ありがとうございました。

【企画に対して】

- ・ 1日研修がコロナ禍、時短により半日となったと理解しています。半日だと少し詰まりすぎていないかという気がしました。基調講演は、情報量も多く、かみ砕いて理解したり、イメージを膨らませる時間が必要に思いました。基調講演部分だけでも各45分~50分位の時間を使っていただけでも良かった気がしました。大変に学びの多い研修でしたから、市町で参加していない所は残念だと思います。
- ・ もう少し規模を小さくして、開催頻度を高めると、日ごろの連携がより進むと思う
- ・ 演習主体のプログラムでもよかったのではないかと思います。本日の研修を通して、ボランティアと土業が日頃より交流する必要性を、より一層強く感じました。
- ・ 今後はコロナがもう少し落ち着いたら、元々のプランであった本部と各地をネットで結んだサテラ

イト形式でもよかったと思います。

- ・ 私のような市民ボランティアにとっては、内容は素晴らしいのに、長すぎる研修でした…。現在受講している静岡県男女共同参画課の連続講座のような開催日程の方が参加しやすいです。

【行政、社協に向けて】

- ・ 4時間という短い時間なので割り振りは難しいだろうがワークショップは中途半端な気がした。また、私の地元の行政、社協が不参加なのでがっかりした。
- ・ ボランティアはただで使える便利な人たちではない、という視点を行政の全ての窓口の職員が持つてくれば、連携・協働の足掛かりになると思います。行政は部署に関係なく全ての被災者の生活を多角的に支援するという視点が必要だと感じました。もちろん社協も。
- ・ 社協の災ボラ担当以外の職員にも参加してほしいと思える内容でした。ありがとうございました。

【よかった、ありがとうございました。】

- ・ 連携、協働の研修。行政、社協、V、NPOが本市で揃って参加できたら良かった。
- ・ 事務局からの事前連絡など、きめ細かくいただけたので不安なく参加できました。ありがとうございました。
- ・ コロナ禍でなかなかリアルな会場での運営ができない状況で、このような機会を作っていただきありがたいです。ある意味 jvoad の指針の遠隔支援を実践したかのような感じでした。運営していただきましたスタッフの皆さまありがとうございました。
- ・ ダイナックスの皆様、お疲れさまでございました。私のようなおばちゃんボランティアに対して、開催前から、丁寧に対応してくださり、心より感謝いたします。ありがとうございました。
- ・ 災害 VC の開設や応援派遣を経験したことがなく、どんな人がどんな時に繋がるのか、繋がりを作っておかなければいけない機関等はどこなのか少しイメージすることが出来た。山崎様の講話が大変わかりやすく、社協としてどうあるべきなのか知ることが出来て良かった。貴重な研修会を企画してくださり、ありがとうございました。
- ・ 研修のようなものはオンラインでもよいが、つながりを作るという点では対面の良さも大きいと感じた。立場の違う人たちと、平時からつながりを作り続けることはもちろんだが、静岡で発災した場合、お互いが被災者であるという、いたわりの気持ちを持ち合い連携していければと思う。初めてオンラインの研修に参加しましたが、接続テストなどご配慮いただき、問題なく参加できました。事務局の皆様、ありがとうございました。お疲れさまでした。

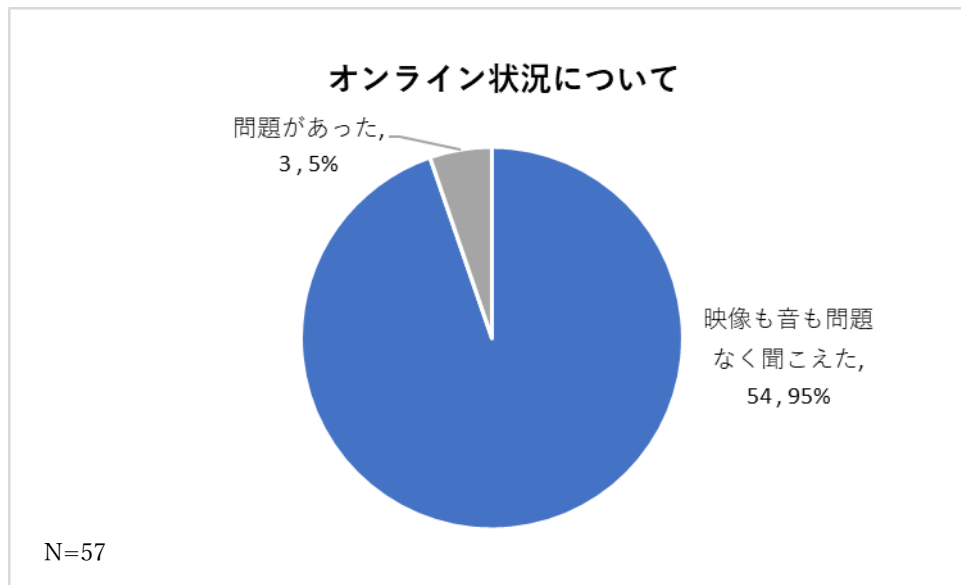
【その他】

- ・ 大変勉強になりました。当社は今まで遠方の仕事が多い関係で、毎年のように繰り返される日本各地の災害に係って参りました。コロナ禍で出張できない状況になり、地元へ視点が向いたときに、地元で災害が起きたときに役に立つ企業でありたいという思いから参加をさせていただきました。水害時に建物全体を除菌する当社の薬剤「除菌クリーン PRO」が新型コロナウイルスに有効と承認され（米国 EPA および日本の NITE 独立行政法人製品評価技術基盤）長泉町と伊豆の国市では保育園から中学校までの各クラスに配置されたり、自衛隊、病院、介護施設など多くでご使用いただいています。熊本の益城町の震災時には、隣町の断熱材工場と取引があったので、数社の協力が得られ、車中泊の方や、避難所の方に厚み 10cm ほどの畳サイズの断熱材を提供して柔らかさと温かさを届けよ

うとしましたが、直接出向いても、行政の方の「前例がない」「稟議に時間がかかる」などのご意見からなかなか話が進まず、断念した経験があります。後に、地元の方と話したら、あの時欲しかった！と叱られましたが、企業としては行政の方と連動しない活動は好ましくないとの判断に至り、参加者全員でやるせなさを感じました。平時から連携が出来たり、現地で役に立った成功例を体験することができれば商工会や企業間の付き合いの中で災害時に企業として出来ることの体制がとれるのではないかと思います。長くなりましたが、今後とも受講をさせて頂ければと存じます。

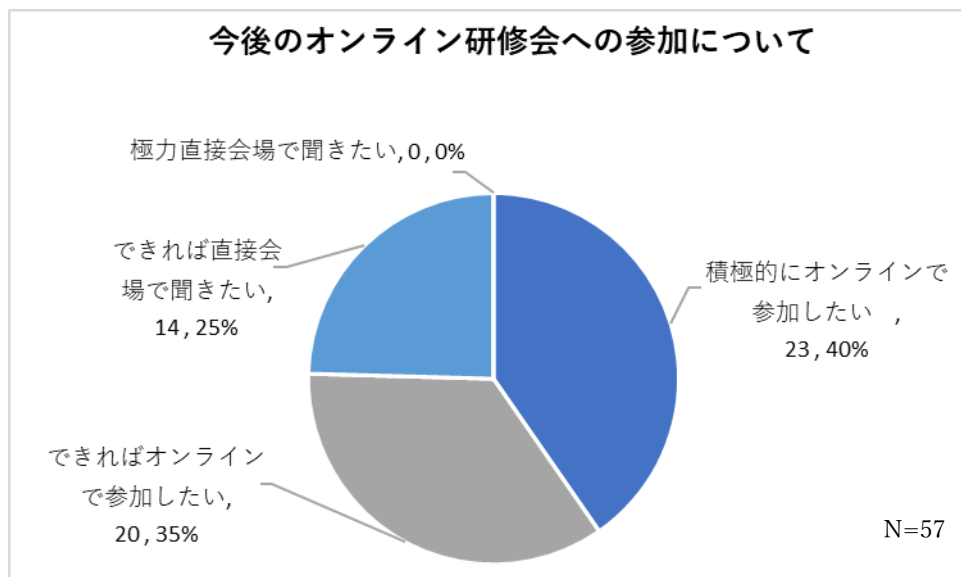
参考) オンラインの状況について

① オンライン研修会の受講環境について



「映像も音も問題なく聞こえた/54件」で95%であった。「問題があった/3件」で5%であった。

② 今後のオンライン研修会への参加について



「積極的にオンラインで参加したい/23件」で40%、「できればオンラインで参加したい/20件」で35%であった。

「できれば直接会場で聞きたい/14件」が25%、「極力直接会場で聞きたい」は0件であった。

以上

7-1. 災害ボランティア連携・協働研修会

～官民の多様な支援主体の連携・協働に向けて～（さいたま市） プログラム

(1) 概要

- ・日時：令和3年3月18日（木）13：00～17：00
- ・会場：オンライン（Zoom）、さいたま市消防庁舎3階
- ・主催：内閣府（防災）
- ・共催：さいたま市
社会福祉法人さいたま市社会福祉協議会
埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク「彩の国会議」

1. 開会 (13：00～13：10)

諸留 逸氏／内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐	
高埜 隆氏／さいたま市 総務局 危機管理部 防災課長	

2. 基調講義「災害時の多様な主体連携・協働の必要性」 (13：10～13：30)

諸留 逸氏／内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐	資料1
--	-----

3. 基調対談「災害時の多様な主体連携・協働の必要性」 (13：30～14：10)

話し手：明城 徹也氏 ／認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 事務局長	資料2
聞き手：とよしま 亮介氏 ／埼玉県災害ボランティア団体ネットワーク「彩の国会議」 代表幹事・事務局	
＜休憩＞	

4. 演習と事例紹介「被災者の困りごとを知る」 (14：30～15：50)

事例紹介	：平井 良治氏／ 社会福祉法人南房総市社会福祉協議会 地域福祉班 地域事業係	資料3
進行	：津賀 高幸／ 株式会社ダイナックス都市環境研究所 主席研究員	
＜休憩＞		

5. 話題提供「さいたま市の取組み」 (16：00～16：10)

高埜 隆氏／さいたま市 総務局 危機管理部 防災課長	資料4
----------------------------	-----

6. 意見交換「これから取り組むこと」 (16：10～16：50)

ファシリテーター：杉村 郁雄氏 / 日本ファシリテーション協会 災害復興支援委員会	
---	--

7. 閉会 (16：50～17：00)

高埜 隆氏／さいたま市 総務局 危機管理部 防災課長	
諸留 逸氏／内閣府 政策統括官（防災担当）付参事官（普及啓発・連携担当）付参事官補佐	

以上

7-2. 有識者等コメント

(1) 演習振り返りコメント

JVOAD 事務局長 明城氏

- ・ ネットワークづくり、お互いにどういうことができるか。事前にしておこうという話を今日はずっと行ってきた。
- ・ 「顔が見える関係」というが「何ができるのか」を知るのが最初。災害が起きた時に、何ができるかを知っておくことと、災害が起きた際は、どこの団体かがどう動くのかを把握できるようになり、「対応力」がわかってくる。
- ・ 対応力がわかると、困りごとも見えてくる。過去の災害でどうだったかは、事例として知ることはでき、学べる。
- ・ 地域の特性があり、高齢化が進む地域、外国人が多い地域等で、ニーズ・困りごとの出方は変わる。地域で何が足りないのかがネットワークの中でわかるようになる。
- ・ 足りないところをどうするかは次の対応。人を増やすのか、外部・他の地域との連携を進めるのか。
- ・ 顔が見える関係から、どんどんつながっていく話しになっていく。
- ・ 彩の国会議、中間支援組織との連携も考えていければ。

彩の国会議 大澤氏

- ・ 中間支援団体との連携方法。疑問におもったこと、気が付いたことを深めていくこと。
- ・ ネットワークとしては、「資源シート」を名簿のようにして、活用していければ。
- ・ 団体として何ができるのかを紙に書き起こしておくことは必要。

彩の国会議 とよしま氏

- ・ 参加団体の専門性、持続性を重視する。多くの方の役に立つこと。
- ・ 災害が起きたときは、県内 64 市町村で、どう肩を組んでいくか。または遠方とのマッチングが必要なのか。
- ・ 「集まる、知る、備える」というステップアップの構築。
- ・ 日々のなかで研さんを深めていくことが大切。「つながる」ことは「備える」こと。

以上

7-3. アンケート結果

※集計中

8-1. 【中止】岡山県開催 実施計画

(1) 実施概要

▼目的

災害時における行政・ボランティア・NPO等の多様な被災者支援主体間の連携・協働の必要性を理解して行動に移せる人材を育成し、地域内で連携・協働体制の構築、活動の活性化を図る。

▼研修対象者

・災害時に多様な被災者支援主体間の連携・協働の必要性を理解し、今後地域内での体制構築・活動の活性化に意欲を持つ人材

岡山県職員（必須）、市町村職員、岡山県社協、市町村社協職員、災害支援に関わる事業団体等職員
災害支援ネットワークおかやまの構成団体

<習得する知識・スキル>

- ① 災害時の被災者の状況や困りごと、課題を多角的に理解する
- ② 災害時における多様な被災者支援主体間の連携・協働のための体制構築・強化の必要性を理解する
- ③ 多様な被災者支援主体が連携・協働することで、被災者の困りごと、課題の解決が促進されることを理解する
- ④ 多様な被災者支援主体が連携・協働する方策（体制づくり、連携・協力する活動）をイメージする

▼実施日時等

・日時：令和3年1月15日（金）10：00～16：00

・会場：おかやま西川原プラザ（岡山市中区西川原255番地：山陽本線「西川原」駅0分）

大会議室B（メイン）、第5会議室、第6会議室、第7会議室

*メイン会議室が縦長のため、島型で60名程度の想定。

*施設内サテライト会場として、第5会議室。別館の第6、第7を確保。

▼演習の実施工夫

・新型コロナウイルス感染予防の観点から、実施地域の要望にあわせて、演習方法を工夫する

(グループワークを実施する場合)

- ・演習前に、参加者の消毒のみならず、テーブルやイス、グッズなどの消毒を徹底する。
- ・個人で考える時間を多く設けて、共有時間をできるだけ短くする
- ・ワークを行うテーブルを広くするなどできるだけ距離をとれるようにする
- ・1グループ6名までとする
- ・グループ演習の時間は15分程度/1回とする
- ・原則、使用するペンや付箋紙は個人で使用し、複数名で使用しない

(2) 基本プログラム

(1) 開会 (10:00~10:10)	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣府挨拶 ・開催地挨拶
(2) 基調講義： 災害時の多様な主体連携・協働の 必要性 (10:10~10:30)	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：内閣府防災担当 ・災害時の多様な被災者支援主体間の連携・協働の必要性に関する基本的な考え方を紹介
(3) 事例紹介： 災害時の多様な主体連携・協働の 事例 (10:30~12:00)	<ul style="list-style-type: none"> * 話題提供：平成30年7月豪雨・岡山県内における多様な主体連携に関わった被災者支援主体（行政・社協・NPO等）から話題提供を行う ・大橋 俊文氏（倉敷市 企画経営室 主幹） ・佐賀 雅宏氏（倉敷市真備支え合いセンターセンター長） ・石原 達也氏（岡山NPOセンター代表理事） ・コーディネーター：JVOAD 明城徹也氏
<p>昼食・休憩（12:00~12:45）</p> <p>質問への回答（12:45~13:00）（2）（3）の講義に対する質問シートを回収し、回答</p>	
(4) 演習： 災害時の多様な主体の相互理解 (13:00~15:00)	<ul style="list-style-type: none"> ・進行：日本ファシリテーション協会災害復興委員会 ・①災害時における被災者の困りごとの理解や具体的な対応を検討するグループワークを実施。ふりかえり・講評を含む
※休憩（10分）	
(5) 講評・全体ディスカッション (15:10~15:50)	<ul style="list-style-type: none"> ・進行：日本ファシリテーション協会災害復興委員会 午前の話題提供、演習の結果などを踏まえて、岡山でのこれからの取組について、参加者全員で意見交換を行う
(6) 話題提供： 岡山県における災害時の多様な主体連携の取組状況 (15:30~15:50)	<ul style="list-style-type: none"> ・開催地域における多様な主体連携体制の取組状況の紹介（関連する部局職員それぞれから紹介することが望ましい） ・今後開催地域でこういった協働・連携の体制強化を進めていくのか県の見解を紹介していただく
(7) 閉会 (15:50~16:00)	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣府挨拶 ・開催地挨拶

以上

8-2. 【中止】栃木県開催 実施計画

(1) 実施概要

▼目的

災害時における行政・ボランティア・NPO 等の多様な被災者支援主体間の連携・協働の必要性を理解して行動に移せる人材を育成し、地域内で連携・協働体制の構築、活動の活性化を図る。

▼研修対象者

・災害時に多様な被災者支援主体間の連携・協働の必要性を理解し、今後地域内での体制構築・活動の活性化に意欲を持つ人材

栃木県職員（必須）、市町職員、栃木県社協、市町社協職員、災害支援に関わる事業団体等職員
災害時ボランティア活動支援体制づくり検討会の構成団体

<習得する知識・スキル>

- ① 災害時の被災者の状況や困りごと、課題を多角的に理解する
- ② 災害時における多様な被災者支援主体間の連携・協働のための体制構築・強化の必要性を理解する
- ③ 多様な被災者支援主体が連携・協働することで、被災者の困りごと、課題の解決が促進されることを理解する
- ④ 多様な被災者支援主体が連携・協働する方策（体制づくり、連携・協力する活動）をイメージする

▼実施日時等

- ・日時：令和3年2月9日（火）13：00～17：00
- ・オンライン（zoom）による実施を想定
受講者1名につき1デバイス（可能な限りPC）での参加を想定

<配信会場>

- ・現地：とちぎボランティアNPOセンター 研修室
- ・有線LANなし。Wi-Fiを使用。
（オンライン環境がない方のために現地会場で席を用意 ※先着20名）
- ・メイン：ダイナックス本社
- ・内閣府、県外事例提供者はオンラインで参加。

▼運営事務局

株式会社ダイナックス都市環境研究所

担当：津賀、鈴木、細川

〒105-0003 東京都港区西新橋3-15-12 GG HOUSE 5F

電話：03-5402-5355 メールアドレス：bousai@dynax-eco.com

(2) 基本プログラム

(1) 開会 (13:00~13:10)	・内閣府挨拶 ・開催地挨拶
(2) 基調講義： 災害時の多様な主体連携・協働の 必要性 (13:10~13:30)	*災害時の多様な被災者支援主体間の連携・協働の必要性に関する基本的な考え方を紹介／新型コロナウイルス感染症流行下における災害ボランティア活動に関する考え方を紹介 ・講師：内閣府防災担当
(3) 話題提供： 令和元年東日本台風、栃木県内の 対応 (13:30~14:20)	*東日本台風における栃木県内の対応（連絡会議や活動状況）、連絡会議で出た話題や活動方針の策定などの状況を紹介していただく・話題提供： 栃木県 社会福祉法人栃木市社会福祉協議会 とちぎYMCA 福祉会 ・聞き手：全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）
●休憩（14:20~14:30）	
(4) 事例紹介： 災害ボランティア連携・協働の実 例について (多様な主体による事例紹介) (14:30~15:20)	*災害時における他の地域における連携事例を共有し、具体的なイメージを理解する機会とする ・コーディネーター：全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD） ・パネリスト： 菅野拓氏 （京都経済短期大学 経営情報学科 講師）：災害時の行政の対応・民間との連携の必要性 （調整中）：弁護士会などによる被災者相談会の事例
●参加者のふりかえりと休憩 (15:20~15:35)	*参加者同士で（4）の内容を聞いて、感想を話し合う時間を設ける
(5) 演習： 被災者の困りごとを知る (15:35~16:35)	*災害時になぜ連携するのか、具体的な被災者の困りごとを理解するための簡易的な演習を行う。 ・進行：日本ファシリテーション協会災害復興委員会 ※演習時間内は、1回程度の休憩を含む。
(6) 全体ディスカッション (16:35~16:55)	*話題提供、演習の結果などを踏まえて、栃木でのこれからの取組について、栃木県（行政）、社協、NPO からそれぞれの今後の展望についてコメントをいただく ・進行：日本ファシリテーション協会災害復興委員会
(7) 閉会 (16:55~17:00)	・内閣府挨拶

以上